取扱説明書

AVコントロールアンプ

型名 **AX-V8000**

Audio/Video Control Amplifier

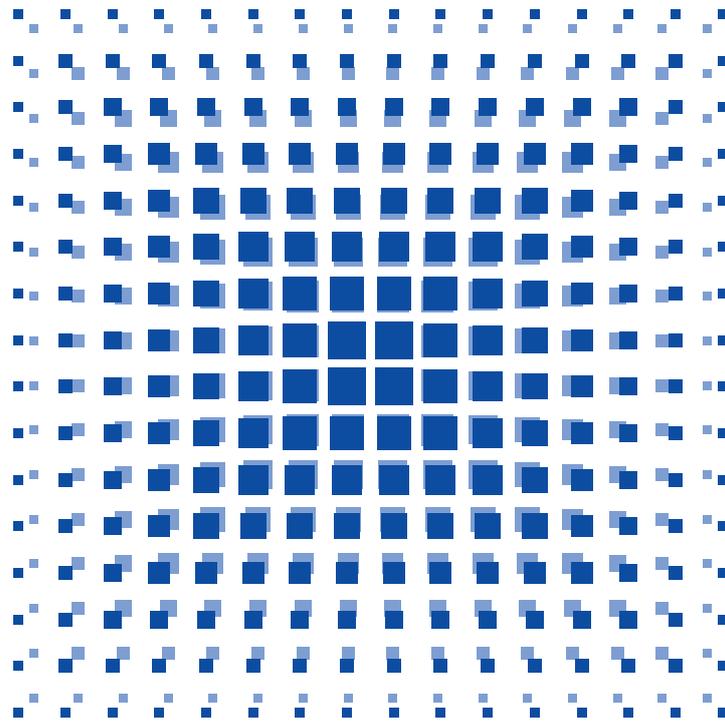
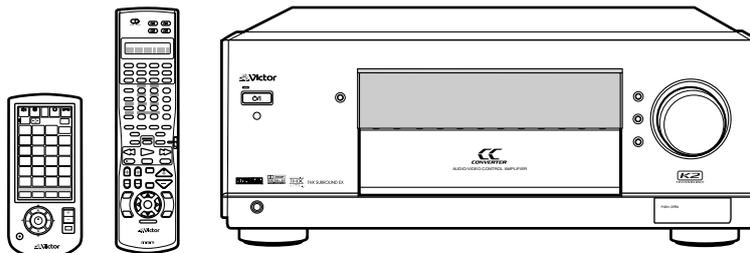
AX-V8000

K2 TECHNOLOGY

CC CONVERTER

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC II

dts 96/24 ES NEO:6

LUCASFILM THX ULTRA2

THX SURROUND EX

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に4～7ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT0965-006C

主な特長

■ THX Ultra2規格準拠7chアンプ搭載

THX Ultra2は、THX社が提唱するマルチチャンネルAVアンプの品質規定で、映像に定位するフロントチャンネルと、臨場感を再現するサラウンドチャンネルの効果的拡散を追求しています。
本機はTHX Ultra2規格に準拠し、さらに5.1chソースを7.1chで楽しめるTHX Ultra2 Cinema モードとTHX Music モードの2つのサラウンドがお楽しみいただけます。

■ 多彩な音声フォーマットに対応

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック II、DTS、MPEG-2 AACといったデコーダーに加え、THX サラウンド EX、ドルビーデジタル EX、DTS-ES(ディスクリート6.1ch、マトリックス6.1ch、Neo:6)、DTS 96/24デコーダーを搭載。劇場に匹敵する臨場感をより豊かに再生することができます。

■ DTS 96/24に対応

サンプリングレート96kHz、量子化ビット数24bitの高音質で5.1chソースを再生可能な音声フォーマットDTS 96/24に対応。これによって、映像ソフトも音楽ソフトも高音質を維持しながら、よりダイナミックな躍動感がお楽しみいただけます。

■ MPEG-2 AACデコーダー搭載

MPEG-2 AACフォーマットは、衛星デジタル放送で採用されている音声圧縮技術で、限られた放送帯域を使って最大5.1chまでのマルチチャンネル再生が可能です。本機とBS・110度CSデジタルハイビジョンチューナーをデジタル接続することで、マルチチャンネル再生をすることができます。

■ デジタル音声の音質向上を追求するK2テクノロジー

デジタル信号の伝送過程やメディアに起因する音質劣化の解消、より自然な再生を可能とするコーディング技術やデジタル圧縮情報の復元技術の開発など、K2テクノロジーは、デジタル音声のさらなる音質向上のために進化し続けています。K2テクノロジーは本機の中核を成す技術です。

■ CC(シーシー) コンバーター搭載

日本ビクター独自のExtended K2技術から生まれたCC コンバーターを搭載。デジタル入力信号を、サンプリング前のアナログ原信号を想定しながらハイビット化(高量子化)/ハイサンプリング(広帯域化)処理をすることで、本来記録されているべき音を含んだ自然な音を再現することに成功しました。
本機では、CC コンバーターを全チャンネルに搭載することで、アナログ音声やドルビーデジタル、DTSなどのデジタル圧縮音声についても高音質化処理を可能にしています。

■ プレシジョン ダウンミックス コンバーター

アナログマルチチャンネル入力時に、2ch(フロントスピーカーのみ)または4ch(フロント+サラウンドスピーカー)で再生すると、−10dB〜+10dBの範囲でミキシングすることができます。
このミキシングは、アナログ信号のまま処理されるのでDVDオーディオソフトなどのマルチチャンネルソースの高音質をデジタルに変換することなくダウンミックスすることができます(アナログダイレクト時)。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDSPモード

世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場空間を、最新DSPチップの高速デジタル処理により再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

■ アナログダイレクト

DVDオーディオソフトなどアナログディスクリートマルチチャンネルやアナログ2ch再生時に、DSP動作を停止してデジタルノイズのアナログ音声信号への混入を防ぎます。

■ ZIST(Zero Interference audio Signal Transmission)入力端子

外部7.1チャンネル入力において、オーディオ信号のコールド側をアースから独立させるZIST回路を搭載。ビデオ信号のオーディオ信号への混入を防ぐことにより音質劣化を解消しました。

■ 日本ビクター製品との連係操作が可能

日本ビクター製のテレビ、ビデオデッキ、オーディオ機器などと接続して、ワンタッチでさまざまな連係操作を可能にするコンピュリンク機能を搭載しています。

■ 他社製のテレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー対応のマルチブランドリモコン

付属のリモコンは、日本ビクター製品はもちろん国内外20数社のテレビ、ビデオデッキ、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどをコントロールできます。
本機にはさらに、AVシステムコントローラー(RM-A2500X)を付属しており、AV機器を一括して操作することもできます。

■ 分離電源・機能別ブロック構造

デジタル回路、アナログ回路、ビデオ回路の3つの回路にそれぞれ専用電源トランスを使用することで、各回路間の干渉を防いでいます。また、アナログ回路用トランスでは正極/負極の別巻き線から電源供給をおこなうなど、各チャンネル間の相互干渉を防いでいます。
さらに電源部、パワーアンプ部、デジタルオーディオ部、ビデオ部、微小信号部などを機能別にレイアウトし、各ブロック間の相互干渉を防いでいます。

付属品をご確認ください

- リモコン(RM-SAXV8000) 1
- 単3形アルカリ乾電池(リモコン動作確認用) 2
- 電源コード 1
- 前面VIDEO入力端子カバー 1
- AVシステムコントローラー(RM-A2500X)一式 1

もくじ

はじめに
ページ

基本の操作
ページ

本機を使いこなす
ページ

その他の操作
ページ

知っておいて欲しいこと
ページ

安全上のご注意 ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

● 絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき

電源プラグを抜く

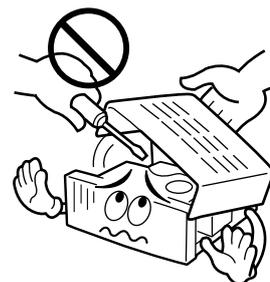
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

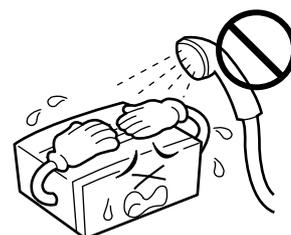
すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

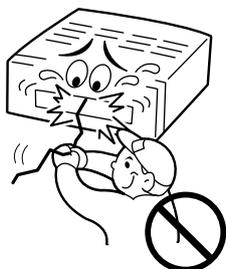
火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

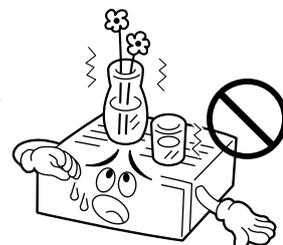
分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

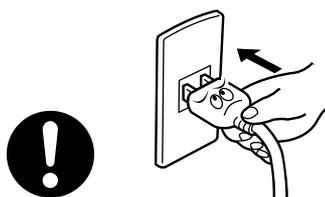
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

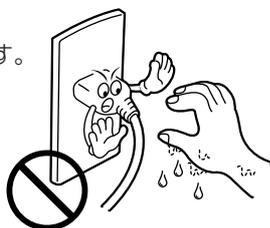
⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

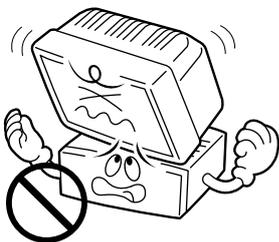
感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

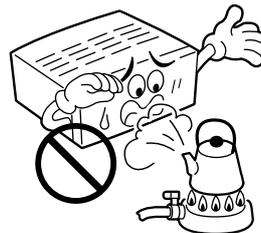
本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

設置場所に注意する。

次のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

故障などを防止するため次の場所は避けてください。

- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

また、寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

移動するときは、2人以上で持つ。

AX-V8000は、重い(25kg)ので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

一般的指示

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

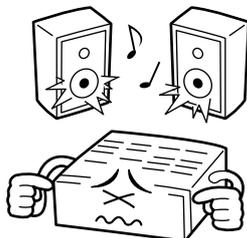
はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を受けることがあります。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ホームシアターへの招待

本機にスピーカー、テレビ、DVDプレーヤーを接続して、映画ソフトなどをサラウンドで楽しむ手順を紹介します。

・ その他の機器を接続するときは、**35**〜**50**ページをご覧ください。

接続のときは、すべての機器の電源コードをコンセントから必ず抜いてください。

STEP 1 DVDプレーヤーを接続する

DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

映像接続をする

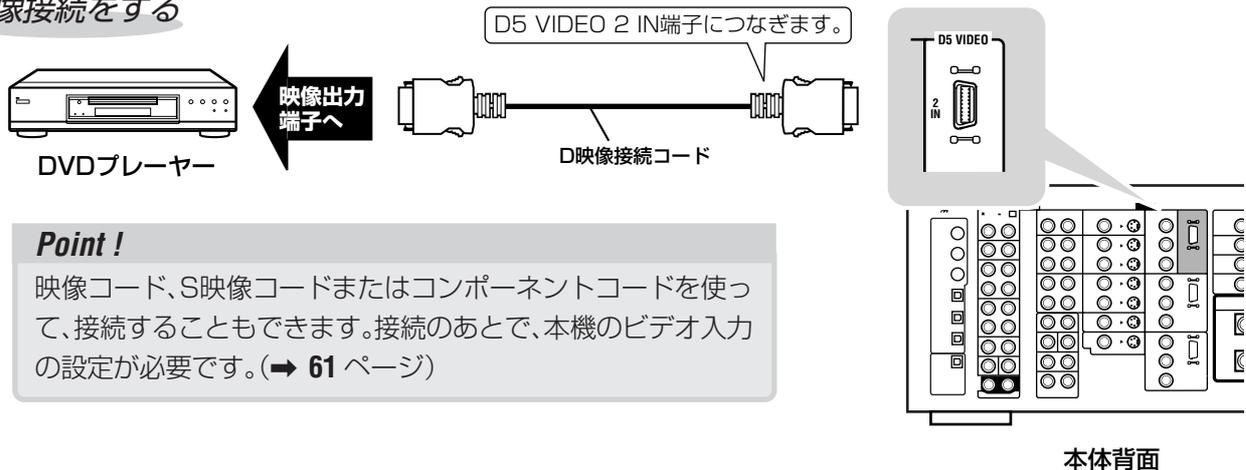
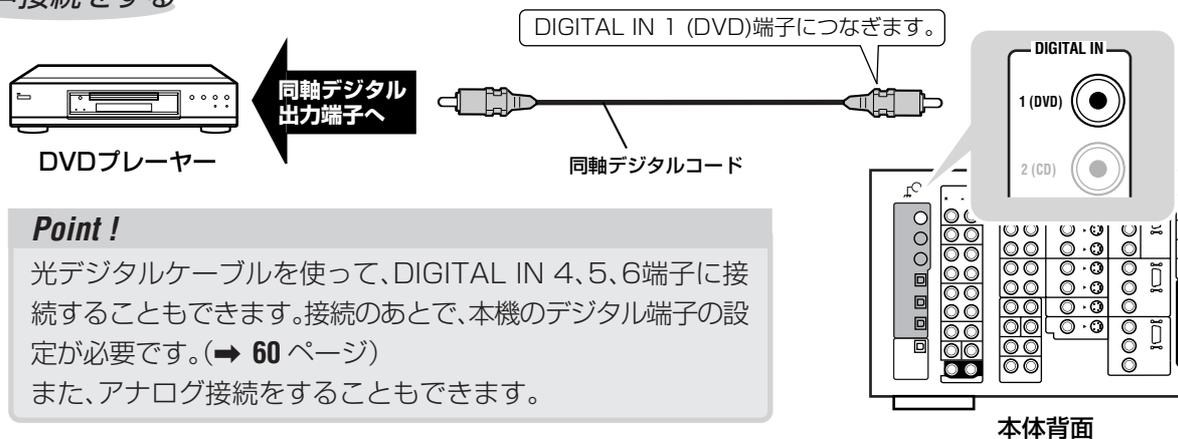
Point !

映像コード、S映像コードまたはコンポーネントコードを使って、接続することもできます。接続のあとで、本機のビデオ入力の設定が必要です。(➡ **61** ページ)

音声接続をする

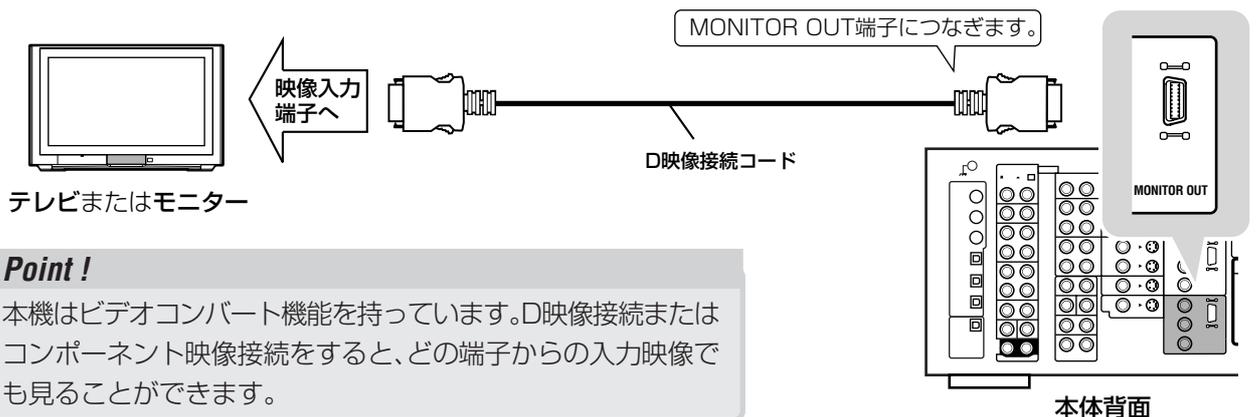
Point !

光デジタルケーブルを使って、DIGITAL IN 4、5、6端子に接続することもできます。接続のあとで、本機のデジタル端子の設定が必要です。(➡ **60** ページ)

また、アナログ接続をすることもできます。

STEP 2 テレビを接続する

テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

Point !

本機はビデオコンバート機能を持っています。D映像接続またはコンポーネント映像接続をすると、どの端子からの入力映像でも見ることができます。

STEP 3 スピーカーを接続する

スピーカーコードを用意します。スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

・ スピーカーの配置例として、**37** ページの図をご覧ください。

ご注意
本機に接続できるスピーカーのインピーダンスは6Ω〜16Ωです。この範囲外のスピーカーは接続しないでください。また、一つの端子に複数のケーブルを接続しないでください。故障や事故の原因となります。
フロントスピーカーは必ず接続してください。

左フロントスピーカー
左サラウンドスピーカー
左サラウンドバックスピーカー
右フロントスピーカー
センタースピーカー
右サラウンドスピーカー
右サラウンドバックスピーカー

スピーカー端子と背面端子の+/−を合わせて接続します。

本体背面

モノラル音声コード

音声入力端子へ

サブウーハー
(SX-DW7など)

スピーカーコードを端子に接続する

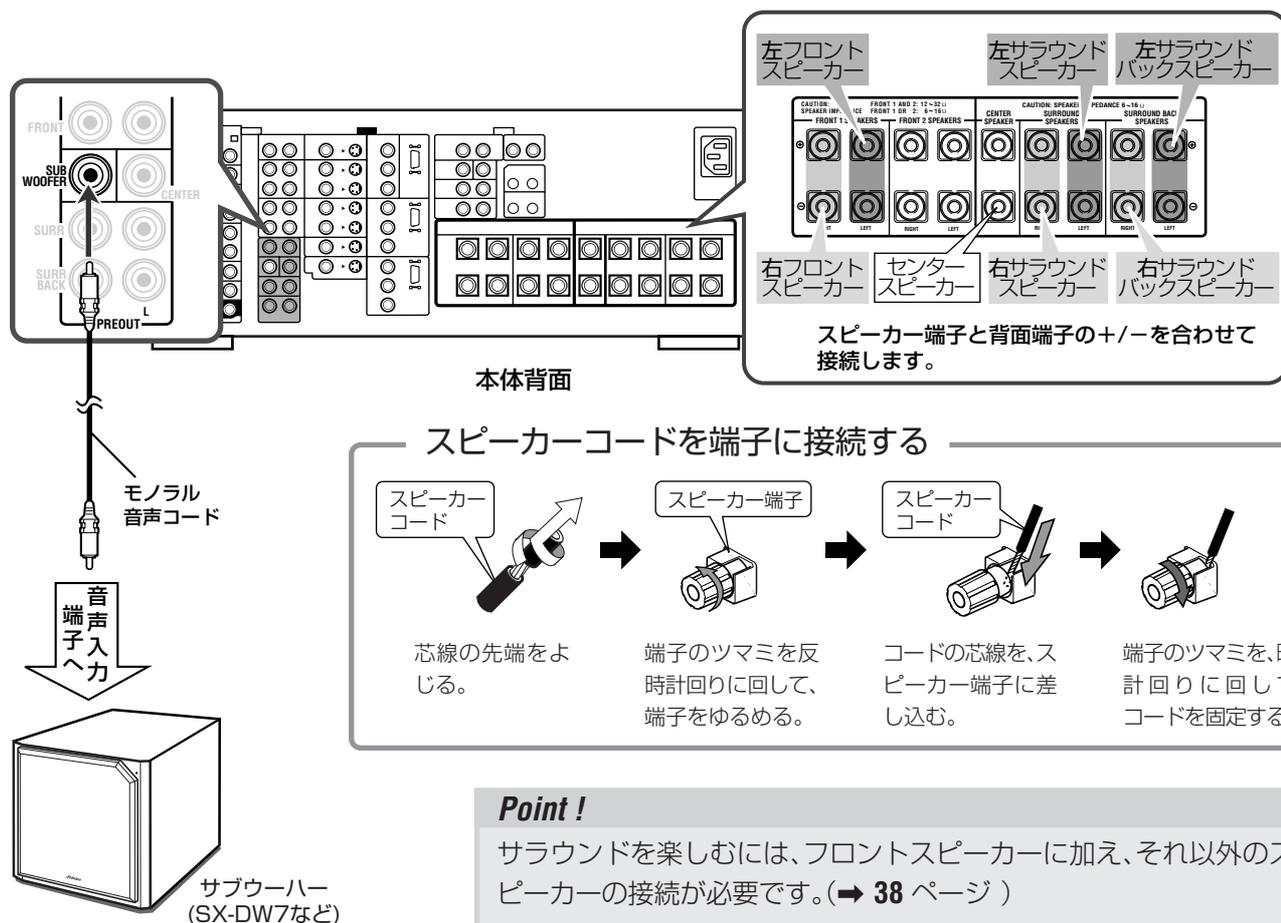
スピーカーコード → スピーカー端子 → スピーカーコード

芯線の先端をよじる。

端子のツマミを反時計回りに回して、端子をゆるめる。

コードの芯線を、スピーカー端子に差し込む。

端子のツマミを、時計回りに回してコードを固定する。

Point !
サラウンドを楽しむには、フロントスピーカーに加え、それ以外のスピーカーの接続が必要です。(➡ **38** ページ)

STEP 4 本機の準備をする

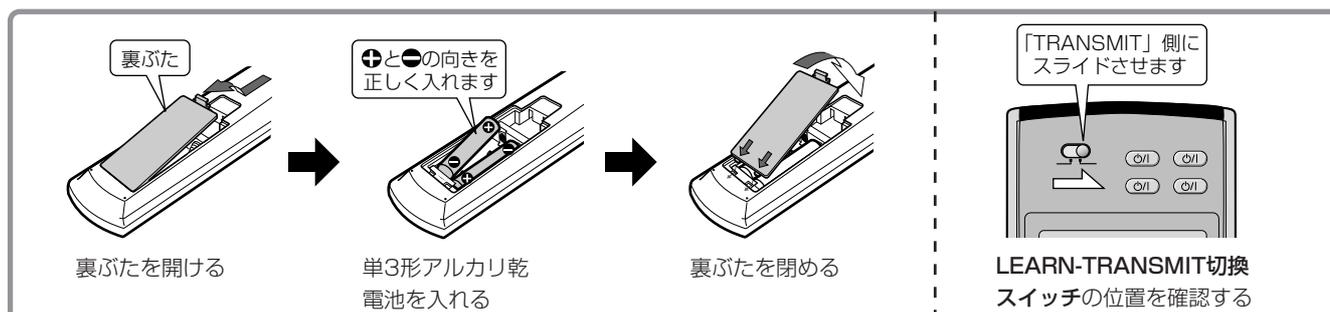
リモコンの準備をする

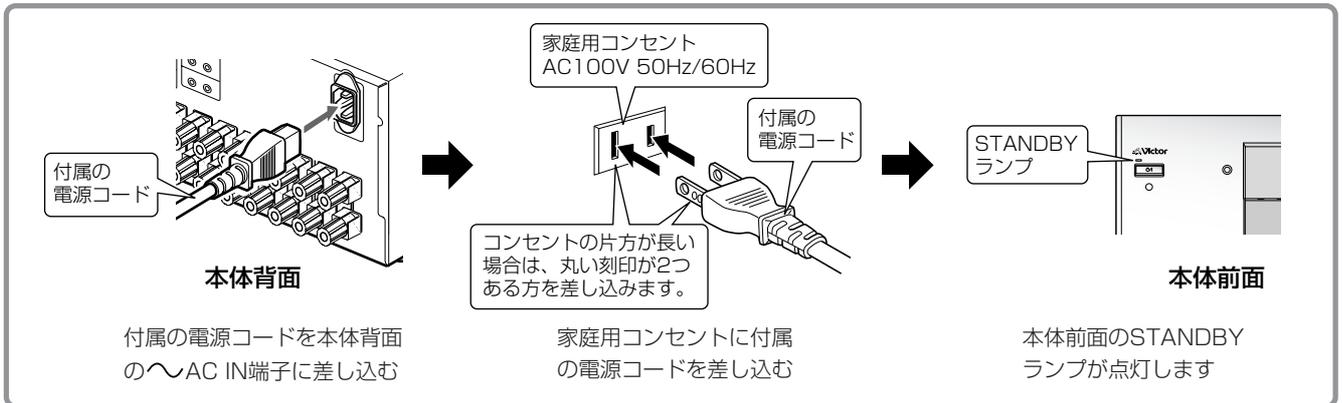
リモコン(RM-SAXV8000)に電池を入れ、準備をします。(➡ **50** ページ)

裏ぶたを開ける

単3形アルカリ乾電池を入れる

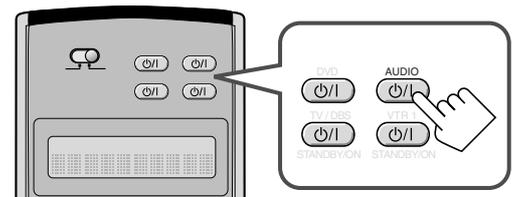
裏ぶたを閉める

LEARN-TRANSMIT切換スイッチの位置を確認する

・ 本機には、AVシステムコントローラー(RM-A2500X)が付属しています。いろいろな機能を学習させてご利用になることができます。詳しくは、AVシステムコントローラーの取扱説明書をご覧ください。

電源コードを接続する

接続と電源の準備ができたら、本機の電源を「入」にします。
ここでは、リモコン（RM-SAXV8000）を使っての操作を説明します。
リモコンは本体前面のリモコン受光部に向けて使います。

本機の電源を「入」にする

リモコンのAUDIO ⏻/I ボタンを押す
本体のSTANDBYランプが消え、現在選ばれているソース（音源）機器名などが本体表示窓に表示されます。

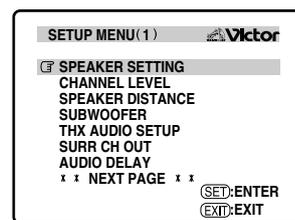
電源を「切」にするときは、リモコンのAUDIO ⏻/I ボタンを押します。

STEP 5 本機の設定をする

テレビの電源を「入」にする

本機のセットアップメニューをテレビ画面上で見るために、テレビの映像入力を本機に接続した外部入力へ切り換えます。

セットアップメニューで設定する

リモコンのSETUP MENUボタンを押す
テレビ画面上にセットアップメニュー（SETUP MENU）が現れます。
ここでは、接続例に合わせて次の設定をします。

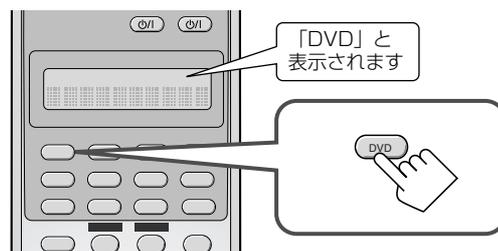
SETUP MENU（1）
SPEAKER SETTING
CHANNEL LEVEL
SPEAKER DISTANCE
SUBWOOFER
THX AUDIO SETUP
SURR CH OUT
AUDIO DELAY
NEXT PAGE
SET:ENTER
EXIT:EXIT

- **接続したスピーカーを設定する** ⇨ **スピーカー設定（SPEAKER SETTING）**で、項目「SUBWOOFER」を「YES」に設定します。また、接続したスピーカーごとに、サイズ（「LARGE」または「SMALL」、接続しないときは「NONE」）を設定します。（➡ **55** ページ）
- **DVDプレーヤーを接続したデジタル端子の設定をする** ⇨ 同軸デジタルコードでDIGITAL IN 1（DVD）端子に接続した場合は必要ありませんが、光デジタルケーブルでDIGITAL IN 4（CDR）端子に接続した場合は、**デジタル端子設定（DIGITAL IN/OUT）**で、項目「OPT IN 4」を「DVD」に設定します。（➡ **60** ページ）
- **DVDプレーヤーを接続した映像端子の設定をする** ⇨ **ビデオ入力設定（VIDEO INPUT）**で項目「VIDEO DVD」を「COMPO 2」に設定します。（➡ **61** ページ）

再生を始める

ソース(音源)をDVDにする

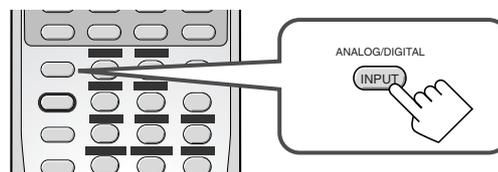
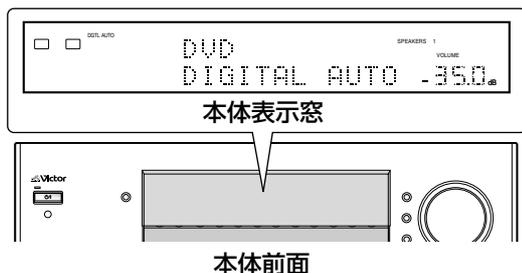
DVDボタンを押す

Point !

リモコンの液晶表示窓に「DVD」と表示されます。このとき、ビクター製のDVDプレーヤーを操作できます。(➡ 74 ページ)

デジタル/アナログ入力を切り換える

本機では、アナログ音声とデジタル音声を使い分けることができます。

デジタル音声を選ぶには、

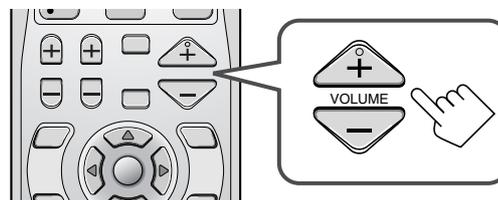
ANALOG/DIGITAL INPUT(アナログ/デジタル インプット)ボタンを押して本体表示窓に「DIGITAL AUTO(デジタル オート)」と表示させる

Point !

デジタル/アナログ入力の設定はソース(音源)ごとに記憶されます。

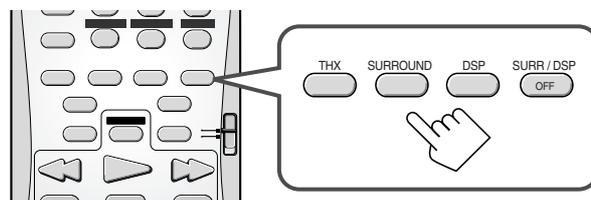
DVDプレーヤーの電源を「入」にし、再生を始める

DVDプレーヤーによっては、電源「入」と同時に再生が始まることもあります。
詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

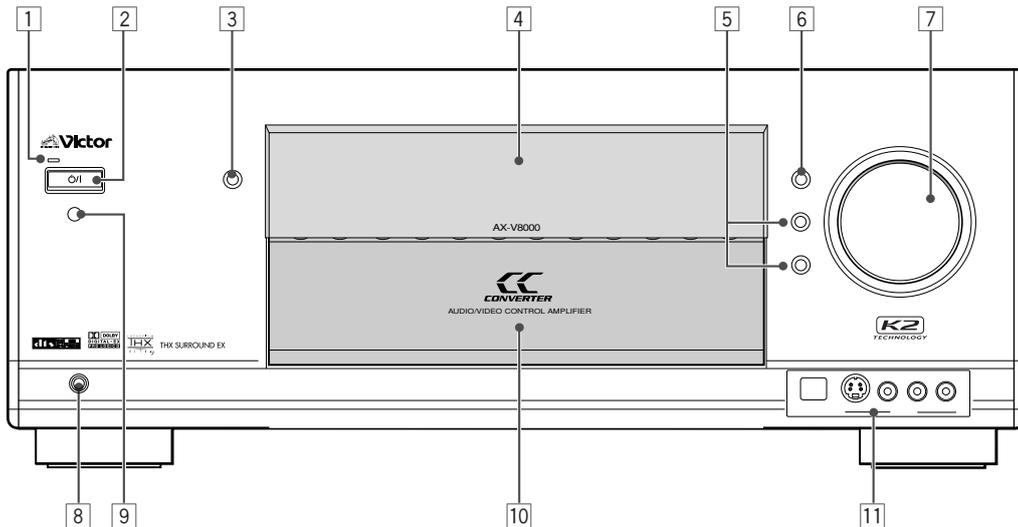
音量の調節をする

VOLUME(ボリューム) +/–ボタンを押す

サラウンドを楽しむ

THXボタン、SURROUND(サラウンド)ボタンまたはDSPボタンを押す

フロントスピーカー以外のスピーカーからも音声が聞こえます。
サラウンドについては、**24**〜**34**ページをご覧ください。

サラウンドを解除するには、SURR/DSP OFFボタンを押します。

各部の名称

本体

1 STANDBY(スタンバイ)ランプ ➡ **16 ページ**
電源「切」のとき点灯します。

2 ⏻/I STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)ボタン ➡ **16 ページ**
本機の電源を「入/切」します。

3 CC CONVERTER(コンバーター)ボタン ➡ **18 ページ**
CC コンバーターを「入/切」します。

4 本体表示窓 ➡ **13 ページ**
ソース(音源)名、主音量、サラウンドモードなどを表示します。

5 DOOR(ドア) UP(アップ)ボタンとDOOR(ドア) DOWN(ダウン)ボタン
操作パネル部を開閉します。

6 DIMMER(ディマー)ボタン ➡ **22 ページ**
本体表示窓の明るさを切り換えます。

7 MASTER(マスター) VOLUME(ボリューム) ➡ **16 ページ**
主音量を調節します。

8 PHONES(ホーンズ)端子
ヘッドホンプラグを接続します。接続すると、スピーカーからの音声は聞こえなくなります。

> **ご注意**
> **ヘッドホンを装着するときや、ヘッドホンプラグを抜き差しするときは、必ず主音量を最小にしてから行ってください。**
> **突然大きな音がでて聴力障害などの原因となったり、スピーカーを破損することがあります。**

9 リモコン受光部
リモコンからの信号を受ける部分です。
本機をリモコン操作するときは、本機とリモコンの間に障害物をおかないようにし、リモコンをここに向けて使います。

10 操作パネル部
3段階に開閉します。

11 前面VIDEO(ビデオ)入力端子 ➡ **50 ページ**

操作パネル部の開閉について

前面VIDEO入力端子カバーについて

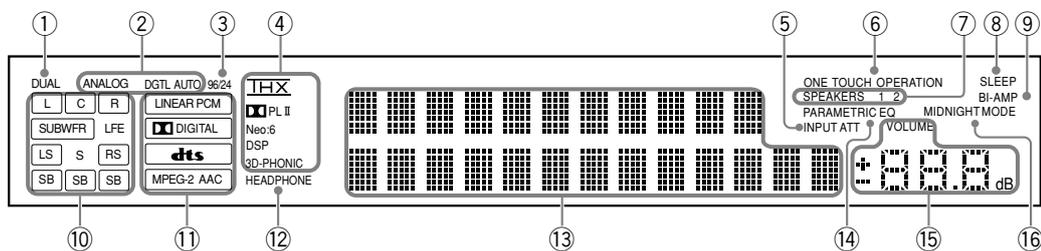
カバーを取り外すときは、「PUSH OPEN」と書かれている部分を押し込みます。

前面VIDEO入力端子を使わないときは、カバーを付けておきます。

操作パネル部と本体表示窓

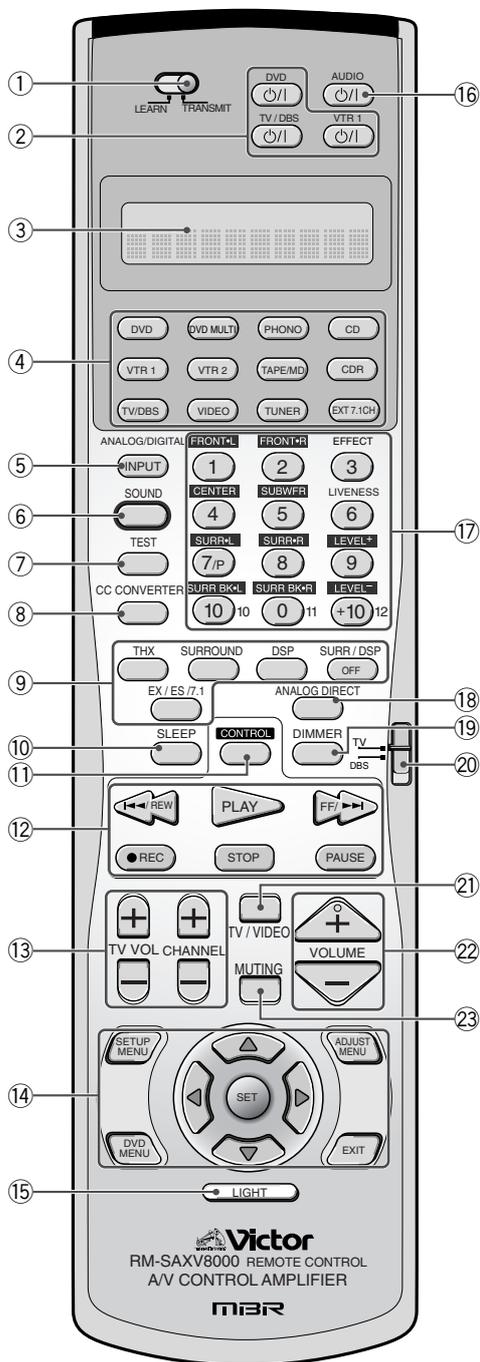
1 内部ボタン

① SPEAKERS 1、2ボタン ➡ **18 ページ**
② INPUT MODEボタン ➡ **20 ページ**
INPUT ATTボタン ➡ **19 ページ**
③ サラウンド操作ボタン ➡ **29 ページ**
④ メニュー操作ボタン ➡ **51 ページ**
⑤ REC SELECTORボタン ➡ **23 ページ**
⑥ ANALOG DIRECTボタン ➡ **19 ページ**

2 本体表示窓

① DUAL表示 ➡ **28 ページ**
② アナログ/デジタル音声表示 ➡ **20 ページ**
③ 96/24表示 ➡ **28 ページ**
④ サラウンドモード表示 ➡ **28 ページ**
⑤ INPUT ATT表示 ➡ **19 ページ**
⑥ ONE TOUCH OPERATION表示 ➡ **62 ページ**
⑦ SPEAKERS 1 2表示 ➡ **18 ページ**
⑧ SLEEP表示 ➡ **22 ページ**
⑨ BI-AMP表示 ➡ **62 ページ**
⑩ 入力音声信号表示/スピーカー表示 ➡ **28 ページ**
⑪ デジタル音声フォーマット表示 ➡ **28 ページ**
⑫ HEADPHONE表示 ➡ **18 ページ**
⑬ ソース/モード表示部 ➡ **28 ページ**
⑭ PARAMETRIC EQ表示 ➡ **64 ページ**
⑮ 主音量表示部 ➡ **16 ページ**
⑯ MIDNIGHT MODE表示 ➡ **65 ページ**

3 ソース(音源)選択ボタン ➡ **16 ページ**

各部の名称(つづき)

リモコン

① LEARN-TRANSMIT切換スイッチ ➡ **17、79** ページ
通常は「TRANSMIT」側にします。

② 他のAV機器の電源を「入/切」するボタン ➡ **75** ページ

③ リモコン液晶表示窓 ➡ **15** ページ
ソース(音源)名などが表示されます。

④ ソース(音源)選択ボタン ➡ **17** ページ
ソース(音源)を選択します。

⑤ ANALOG/DIGITAL INPUTボタン ➡ **20** ページ
アナログ/デジタル入力を切り換えます。

⑥ SOUNDボタン ➡ **34** ページ
スピーカー出力を調節するとき押します。

⑦ TESTボタン ➡ **57** ページ
テストトーンを使うとき押します。

⑧ CC CONVERTERボタン ➡ **18** ページ
CC コンバーターを「入/切」します。

⑨ サラウンド操作ボタン ➡ **29** ページ
サラウンドを「入/切」したり、サラウンドモードを切り換えます。

⑩ SLEEPボタン ➡ **22** ページ
おやすみタイマーを使うとき押します。

⑪ CONTROLボタン ➡ **73** ページ

⑫ 他のAV機器を操作するボタン ➡ **73** ページ

⑬ テレビ音量・チャンネルボタン ➡ **75** ページ

⑭ メニュー操作ボタン ➡ **52、75** ページ
本機やDVDのメニューを操作するとき使います。

⑮ LIGHTボタン
リモコンのボタンが数秒間点灯します。

⑯ AUDIO ⏻/I ボタン ➡ **17** ページ
本機の電源を「入/切」します。

⑰ 数字ボタン ➡ **73、75** ページ
スピーカー出力などを調節するとき(➡ **56** ページ)にも使います。

⑱ ANALOG DIRECTボタン ➡ **19** ページ
ANALOG DIRECTを「入/切」します。

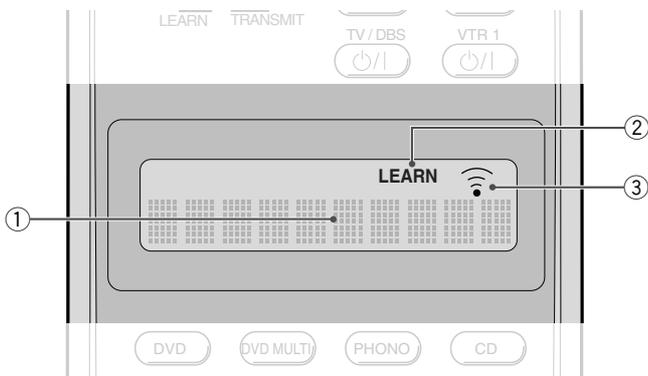
⑲ DIMMERボタン ➡ **22** ページ
本体表示窓の明るさを切り換えます。

⑳ TV-DBS切換スイッチ ➡ **17** ページ
テレビまたは衛星放送チューナーを操作するときに、操作する機器に合わせて切り換えます。

㉑ TV/VIDEOボタン ➡ **75** ページ

㉒ VOLUME +/−ボタン ➡ **17** ページ
主音量を調節します。

㉓ MUTINGボタン ➡ **17** ページ
一時的に音を消すときに使います。

リモコン液晶表示窓

① **リモコン操作モード表示**
ソース(音源)選択ボタンなどを押すと、リモコンのボタンで操作できる機器や調節できるスピーカー名などが表示されます。

② **LEARN(ラーン)表示**
LEARN-TRANSMIT切換スイッチが「LEARN」側にあるとき点灯します。

③ **送信表示**
リモコンから操作信号が送信されるとき点灯します。

リモコン操作モード表示について

リモコン操作モード表示には、次の3種類の表示があります。

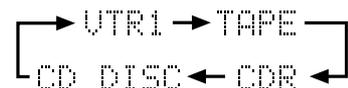
● **ソース(音源)名表示**(➡ **17** ページ)
ソース(音源)選択ボタンやCONTROLボタンを押したときに、ソース(音源)名が表示されます。

ボタン	リモコン操作モード表示
DVD、DVD MULTI	DVD
PHONO	PHONO
CD	C D
VTR1	VTR1
VTR2	VTR2

ボタン	リモコン操作モード表示
TAPE/MD	TAPE
CDR	CDR
TV/DBS	T V または DBS *
VIDEO	VIDEO
TUNER	TUNER
EXT 7.1CH	EXT.7.1CH

* TV-DBS切換スイッチが「TV」側のときは「TV」、「DBS」側のときは「DBS」と表示します。

CONTROLボタンを押すと、本体のソース(音源)を切り換えずにリモコン操作モードを切り換えることができます。CONTROLボタンを押すごとに、右のようにリモコン操作モードが切り換わります。

→ VTR1 → TAPE → CDR → CD DISC →

● **メニュー操作表示** (➡ **52** ページ)
本機のメニューやDVDプレーヤーのメニュー(DVDメニュー)を操作するときに、メニュー名が表示されます。
メニュー操作をするときは、リモコン操作モード表示を確かめてお使いください。

ボタン	リモコン操作モード表示
SETUP MENU	OSD MENU
ADJUST MENU	OSD MENU
DVD MENU	DVD MENU

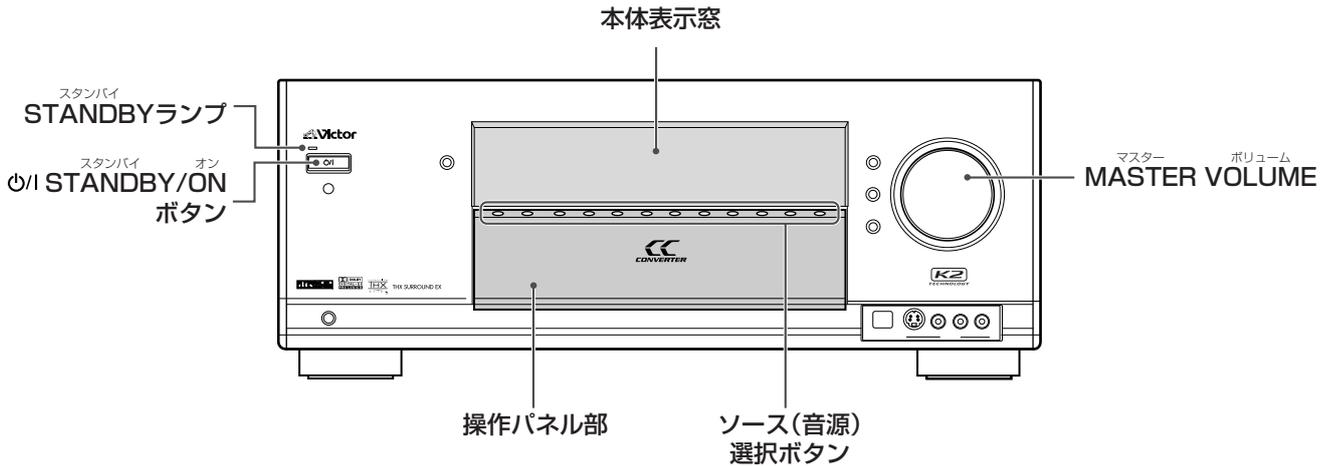
・本機のメニューは、SETUP MENUまたはADJUST MENUボタンを押してから、SET、▲/▼/◀/▶、EXITボタンで操作します。
・DVDメニューは、DVD MENUボタンを押してから、SET、▲/▼/◀/▶、EXITボタンで操作します。

● **スピーカー出力・サラウンド調節表示** (➡ **56** ページ)
スピーカー出力やサラウンド調節をするときに、スピーカー名などが表示されます。SOUNDボタンを押してから使います。

ボタン	リモコン操作モード表示
SOUND	SOUND
TEST	SOUND
EFFECT、LIVENESS	SOUND
FRONT・L、FRONT・R	FRONT L または R
CENTER	CENTER

ボタン	リモコン操作モード表示
SUBWFR	SUB WFR
SURR・L、SURR・R	SURR.L または R
SURR BK・L、SURR BK・R	SURR.BK L SURR.BK R
LEVEL ＋、LEVEL －	調節するスピーカー名

基本操作

本体の操作

本機の電源を「入/切」する

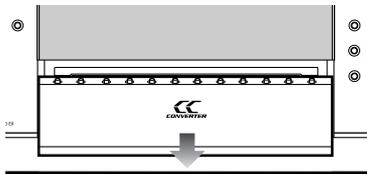
⏻/I STANDBY/ONボタンを押す

STANDBYランプが消え、現在選ばれているソース(音源)名とサラウンド効果などが本体表示窓に表示されます。

現在選ばれているソース(音源)名(例:DVDのとき)

最後に使ったサラウンドモードなどの表示

音量レベル

また、本体前面の操作パネル部が1段下がって、ソース(音源)選択ボタンが現れます。

• **電源を切るときは**

⏻/I STANDBY/ONボタンを押す

STANDBYランプが赤く点灯し、「切(待機状態)」になります。本体前面の操作パネル部が閉じます。

Information

• 「切(待機状態)」のときでも、わずかな電力が消費されています。長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

聞きたいソース(音源)を選ぶ

ソース(音源)選択ボタンを押す

選んだソース(音源)名が、本体表示窓に表示されます。

Information

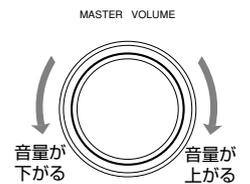
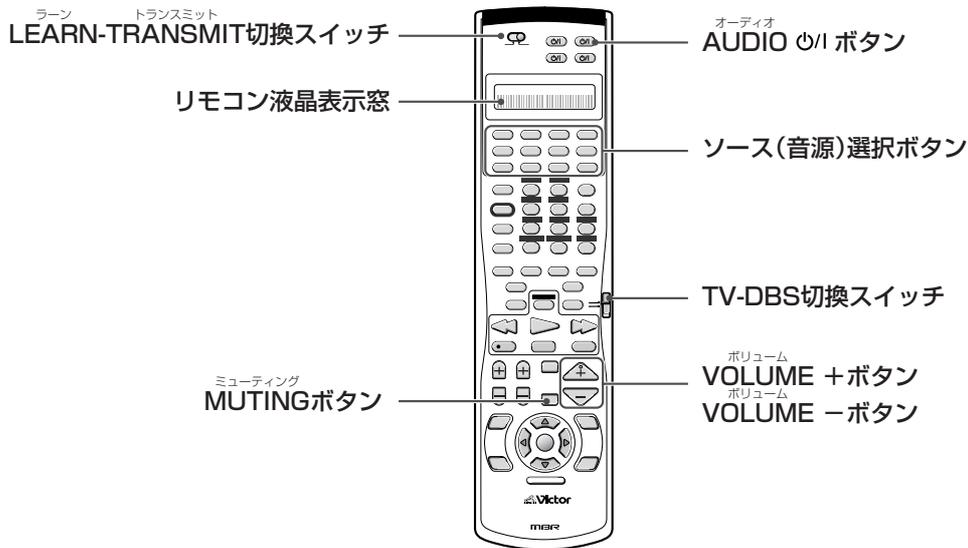
• ソース(音源)としてEXT 7.1CHを選ぶときは、先にDVDなどの映像ソースを選んでから、EXT 7.1CHボタンを押します。映像はそのままで、音声だけが切り換わります。

主音量を調節する

MASTER VOLUMEを回す

MASTER VOLUMEを回すと、本体表示窓の音量表示(デシベル表示)が変化します。

主音量は次の範囲で変化します。

(無音)　(最小)　(最大)

リモコンの操作

LEARN-TRANSMIT切換スイッチを確認する

LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「TRANSMIT」側にする

通常はこの位置でお使いください。

本機の電源を「入/切」する

AUDIO ⏻/I ボタンを押す

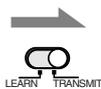
本体前面のSTANDBYランプが消え、現在選ばれているソース（音源）名とサラウンド効果などが本体表示窓に表示されます。

• 電源を切るときは

AUDIO ⏻/I ボタンを押す

本体前面のSTANDBYランプが赤く点灯し、「切（待機状態）」になります。このとき本体前面の操作パネル部が閉じます。

Information

・「切（待機状態）」のときでも、わずかな電力(1.7W)が消費されています。長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

聞きたいソース（音源）を選ぶ

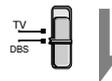
ソース（音源）選択ボタンを押す

選んだソース（音源）名が、本体表示窓に表示されます。また、リモコン液晶表示窓に選んだソース（音源）名が表示され、表示された機器の操作ができるようになります。

• DBSを選ぶときは

TV-DBS切換スイッチを「DBS」側にし、TV/DBSボタンを押す

TV
DBS

リモコン液晶表示窓に「DBS」と表示されます。
TVを選ぶときは、TV-DBS切換スイッチを「TV」側にします。

Information

・ソース（音源）としてEXT 7.1CHを選ぶときは、先にDVDなどの映像ソースを選んでから、EXT 7.1CHボタンを押します。映像はそのままで、音声だけが切り換わります。

主音量を調節する

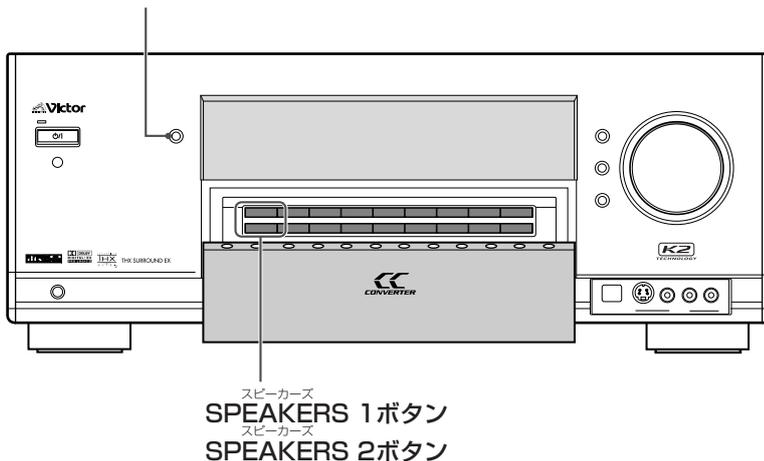
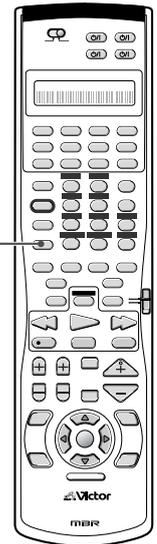
VOLUME ＋またはVOLUME －ボタンを押す

VOLUME ＋またはVOLUME －ボタンを押すと、本体表示窓の音量表示（デシベル表示）が変化します。

一時的に音声を消す（リモコンのみ）

MUTINGボタンを押す

スピーカーとヘッドホンからの音声が消えます。
もう一度押すと元の音声に戻ります。

便利な機能

CC CONVERTERを使う

CC コンバーターは、ハイビット(24bit)/ハイサンプリング(128 kHz、176.4 kHzまたは192 kHz)処理によって入力信号を作り直し、本来記録されているべき信号を補完した自然な音声再生を可能にします。

CC CONVERTERボタンを押す

ボタンを押すごとに「入/切」します。
「入」のとき、本体のボタンのランプが点灯します。

Information

- ANALOG DIRECTまたはTHXが「入」になると、CC コンバーターは「切」になり働きません。
- ソース(音源)が、EXT 7.1CHのとき、サラウンドバックスピーカーに対して、CC コンバーターは働きません。
- サンプリング周波数が48 kHz以下のデジタル信号入力時に、CC コンバーターは光デジタル出力に対しても働きます。
- サラウンドバックスピーカー用の信号があり、サラウンドバックスピーカーから音声が出るよう設定しているときは、CC コンバーターは光デジタル出力信号に働きません。

スピーカーを切り換える(本体のみ)

本機には2系統のフロントスピーカー端子があります。
ふだん聞くオーディオ用とDVDなどのマルチチャンネル用に別のスピーカーを使いたいときなどに切り換えて使うことができます。

本体のSPEAKERS 1ボタンを押す

ボタンを押すごとに、本体背面FRONT 1 SPEAKERS端子に接続したスピーカーが「入/切」します。
スピーカーが「入」のとき本体表示窓のSPEAKERS 1表示が点灯します。

SPEAKERS 1、2表示

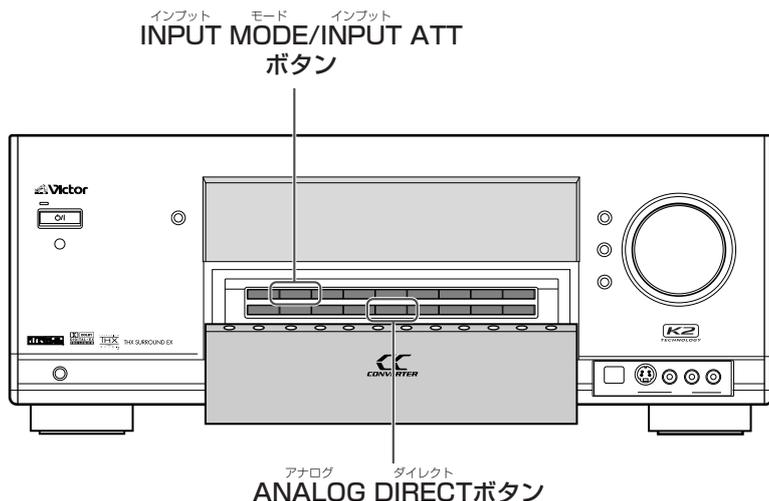
```
ANALOG
L  R        DVD                 SPEAKERS 1
                                VOLUME
            SURROUND OFF  -35.0dB
```

本体のSPEAKERS 2ボタンを押す

ボタンを押すごとに、本体背面FRONT 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーが「入/切」します。
スピーカーが「入」のとき本体表示窓のSPEAKERS 2表示が点灯します。

Information

- 2組のスピーカーを両方とも「切」にすると、本体表示窓に「HEADPHONE(ヘッドホン)」と表示され、スピーカーからの音声は聞こえなくなります。
- サラウンドが「入」のときは、2組のスピーカーを同時に「入」にすることはできません。
- BI-AMP(➡ **37**、**62** ページ)を使っているときは、SPEAKERS 2ボタンは働きません。

2組のスピーカーを両方とも「入」にして使用するときは、本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスが変わります。お使いのスピーカーを確認してください。(➡ **37** ページ)

ANALOG DIRECTを使う

アナログ音声入力時に、入力信号に忠実な音声の再生ができます（アナログダイレクト）。
ソース（音源）ごとに「入/切」が設定できます。

ANALOG DIRECTボタンを押す

ボタンを押すごとに「入/切」します。
「入」のとき、本体表示窓に「ANALOG DIRECT」と表示されます。

Information

- デジタル音声入力時には、アナログダイレクトは働きません。
- アナログダイレクトを「入」にすると、サラウンド、CC コンバーターは「切」になります。アナログダイレクトを「切」にすると、元に戻ります。
  このとき、再び音が出るまで、数秒かかります。
- アナログダイレクトが「入」のとき、アジャストメニュー(➡ **63** ページ)は表示されません。
- サラウンドを「入」にすると、アナログダイレクトは「切」になります。

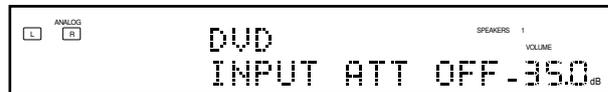
INPUT ATTを使う（本体のみ）

アナログ音声入力時に、ソース（音源）の信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。
ソース（音源）ごとに「入/切」が設定できます。

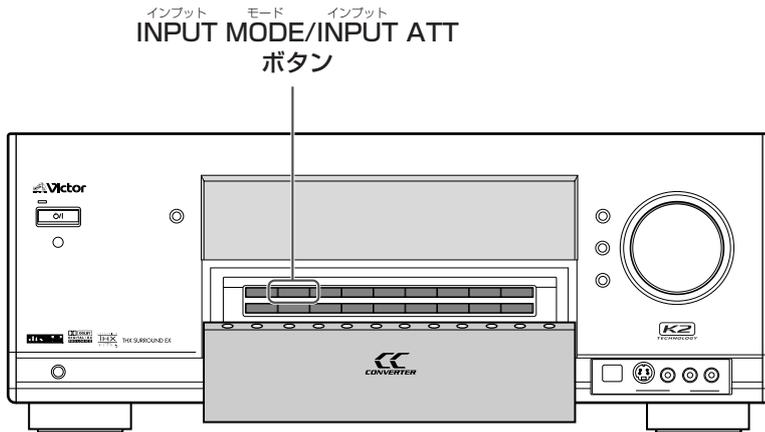
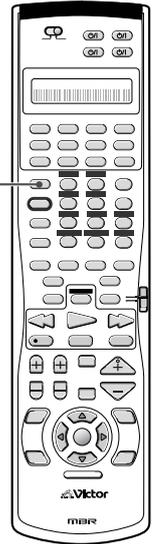
本体のINPUT MODE/INPUT ATTボタンを2秒間以上押す

ボタンを2秒間以上押すごとに「入/切」します。
「入」にすると、本体表示窓にINPUT ATT表示が点灯し、「INPUT ATT ON」と一時的に表示されます。

INPUT ATT表示

「切」にすると、本体表示窓にINPUT ATT表示が消え、「INPUT ATT OFF」と一時的に表示されます。

＊「ATT」は「attenuator（アッテネーター）」の略で「減衰器」を意味します。

Information

- デジタル音声入力時には、INPUT ATTは働きません。
- アナログダイレクトが「入」のときは、INPUT ATTは働きません。

アナログ/デジタル音声入力を切り換える

CDプレーヤーやDVDプレーヤーなどアナログ音声接続とデジタル音声接続の両方が可能なソース(音源)機器を使うときは、アナログ音声入力とデジタル音声入力のどちらで聞くかを選ぶことができます。
ソース(音源)ごとに設定することができます。

INPUT MODE/INPUT ATTボタン(リモコンではANALOG/DIGITAL INPUTボタン)を押す

ボタンを押すごとにアナログ音声/デジタル音声が切り換わります。

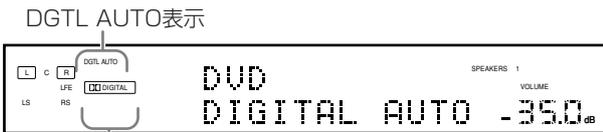
アナログ音声のとき(例:DVDのとき)

本体表示窓にANALOG表示が点灯し、「ANALOG」と表示されます。

ANALOG表示

デジタル音声のとき(例:DVDのとき)

本体表示窓にDGTL AUTO表示が点灯し、「DIGITAL AUTO」と表示されます。

DGTL AUTO表示

デジタル音声フォーマット表示

このときは、入力信号のデジタル音声フォーマットを自動判別します。判別したデジタル音声フォーマット表示が、本体表示窓に点灯します。

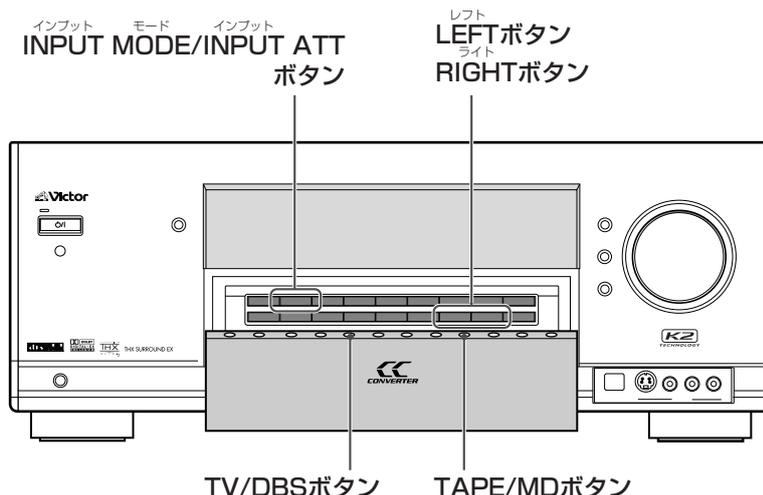
デジタル音声フォーマットを判別できないときは、どのデジタル音声フォーマット表示も点灯しません。

Information

- 6つのデジタル入力端子の登録名称は、必要に応じて変更することができます。(➡ **60** ページ)
- サラウンドを使っているときは、アナログ/デジタル音声の切り換えによって、サラウンドモードが切り換わることがあります。

デジタル音声フォーマットについて

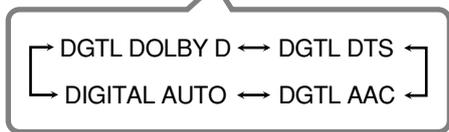
本機は、次の4つのデジタル音声フォーマットを判別することができます。

表示	説明
LINEAR PCM	入力信号がCDなどのリニアPCM信号のとき点灯します。
DIGITAL	入力信号がドルビーデジタル EXなどのドルビーデジタル信号のとき点灯します。
dts	入力信号が、DTS-ES、DTS 96/24などのDTS信号のとき点灯します。
MPEG-2 AAC	入力信号がMPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

デジタル音声フォーマットを手動で切り換える(本体のみ)

デジタル音声再生中、デジタル音声フォーマットが切り換わった場合などに、一時的にフォーマットを正しく判別できないことがあります。
このようなとき、手動でデジタル音声フォーマットを切り換えることができます。

1 本体のINPUT MODE/INPUT ATTボタンを押して、本体表示窓に「DIGITAL AUTO」と表示させる

2 「DIGITAL AUTO」表示中に、LEFTボタンまたはRIGHTボタンを押す

ボタンを押すごとにデジタル音声フォーマットが切り換わります。

適正な信号がなかったり、正しく判別できないとデジタル音声フォーマット表示の信号枠が点滅します。このようなときは、他の信号フォーマットを設定してください。

Information

- 電源を「切」にしたり、ソース(音源)選択ボタンで別のソース(音源)を選んだときは「DIGITAL AUTO」に戻ります。

ソース(音源)選択ボタンの登録名称を変更する(本体のみ)

本体のソース(音源)選択ボタンの**TAPE/MDボタン**と**TV/DBSボタン**は、本体背面に接続した機器に合わせて、登録機器名を変更することができます。
ここでは、TAPE/MDボタンの登録名を「TAPE」から「MD」に変更する手順を例に説明します。

1 本体のTAPE/MDボタンを押す

本体表示窓に「TAPE」と表示されます。

2 本体のTAPE/MDボタンを押し続ける

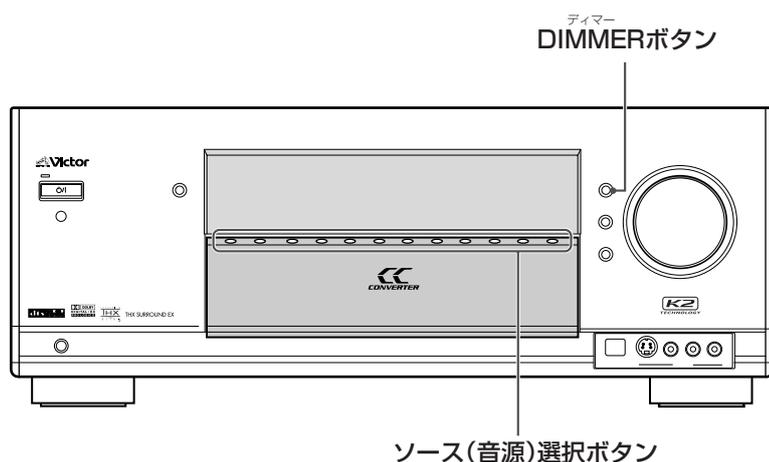
本体表示窓の表示が「ASSGN.MD」に変わったら変更完了です。

TV/DBSボタンも同じ手順で変更します。

「MD」から「TAPE」に戻すには

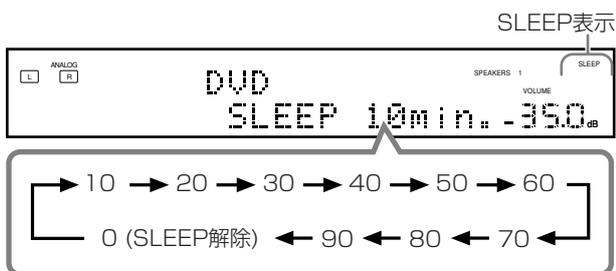
上の手順をくり返し、「ASSGN.TAPE」と表示させます。

Information

- リモコンのTAPE/MDボタンについては、本体のソース(音源)選択ボタンの登録名を変更しても、リモコン液晶表示窓の表示は変わりません。

おやすみタイマーを使う(リモコンのみ)

音楽を聞きながら眠りたいときなどに使います。
設定した時間(分単位)を経過すると、自動的に本機の電源が「切」になります。

SLEEPボタンをくり返し押して時間を設定する

ボタンを押すごとに、設定時間は次のように変化します。

SLEEP表示

タイマー動作中は、本体表示窓にSLEEP表示が点灯します。

・残り時間を確認するには

SLEEPボタンを押す

残り時間が本体表示窓に表示されます。

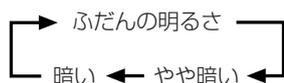
・おやすみタイマーを解除するには

SLEEPボタンをくり返し押して「0min.」を表示させる

本体表示窓のSLEEP表示が消えます。
・電源を「切」にしたときも、解除されます。

本体表示窓の明るさを調節する

DIMMERボタンを押す

ボタンを押すごとに、本体表示窓の明るさが次のように変化します。

映像を見ながらCDなどの音声を聞く

お好みの映像機器からの映像を見ながら、音声だけを別のソース(音源)に切り換えることができます。

1 映像機器のソース(音源)選択ボタン(DVD、DVD MULTI、VTR1、VTR2、TV/DBS、VIDEO)のいずれかを押す

本体: DVD　DVD MULTI　VTR 1　VTR 2　TV/DBS　VIDEO

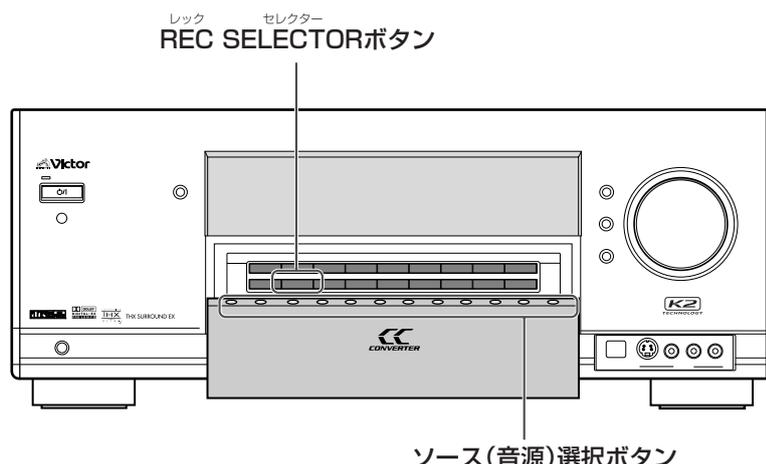
リモコン: DVD　DVD MULTI　VTR 1　VTR 2　TV/DBS　VIDEO

2 音声機器のソース(音源)選択ボタン(PHONO、CD、TAPE/MD、CDR、TUNER、EXT 7.1CH)のいずれかを押す

本体: CD　PHONO　TAPE/MD　CDR　TUNER　EXT 7.1CH

リモコン: PHONO　CD　TAPE/MD　CDR　TUNER　EXT 7.1CH

映像はそのままで、音声だけが切り換わります。

映像と音声を一致させるには
映像機器のソース(音源)選択ボタンを押します。またその他の映像機器を選んでも、新しく選んだ映像は、音声と一致します。

REC SELECTORを使う（本体のみ）

現在選んでいるソース（音源）とは別のソース（音源）機器の音声を選んで、アナログ録音をすることができます。
例えば、DVDプレーヤーで再生すると同時にCDの曲を、接続したカセットデッキでアナログ録音することができます。

録音したいソース（音源）機器と録音機器の両方を本機にアナログ音声接続する必要があります。

・DVD MULTI、EXT 7.1CHは、REC SELECTORの録音ソース（音源）として選ぶことはできません。

1 本体のREC SELECTORボタンを押す

本体表示窓に「REC SELECT」と表示されます。

ANALOG L R　REC SELECT　SPEAKERS 1　VOLUME
SOURCE　-35.0 dB

2「REC SELECT」表示中に、本体のソース（音源）選択ボタンを押して、録音したいソース（音源）を選ぶ

再生しているソース（音源）は切り換わりません。
録音したいソース（音源）の音声は、すべてのアナログ録音用端子から出力されます。

• REC SELECTORを解除するには

本体のREC SELECTORボタンを押して「SOURCE」と表示させる

Information

・ 録音したいソース（音源）機器または録音機器がデジタル音声接続のみのときは、録音できません。
・ 録音する音声にはサラウンドなどの効果は含まれません。

設定を記憶させる

本機では、次のような操作をしたとき、自動的にソース（音源）ごとの設定を記憶します。

・本機の電源を「切」にしたとき
・本機のソース（音源）を切り換えたとき ➡ **16** ページ
・ONE TOUCH OPERATIONの設定を「ON」にしたとき ➡ **62** ページ
・ソース（音源）選択ボタンの登録名称を変更したとき ➡ **21** ページ

記憶されたソース（音源）ごとの設定は、再び同じソース（音源）を選んだときに呼び出されます。
ソースごとに次の内容が記憶されます。

・アナログ音声/デジタル音声入力の設定 ➡ **20** ページ
・INPUT ATTの設定 ➡ **19** ページ
・ANALOG DIRECTの設定 ➡ **19** ページ
・サラウンドの設定 ➡ **29** ページ
・MIDNIGHT MODEの設定 ➡ **65** ページ
・PARAMETRIC EQの設定 ➡ **64** ページ

さらに、ONE TOUCH OPERATIONの設定を「ON」にすると、ソース(音源)ごとに主音量を記憶することもできます。
このとき、本体表示窓にONE TOUCH OPERATION表示が点灯します。（➡ **62** ページ）

基本の操作

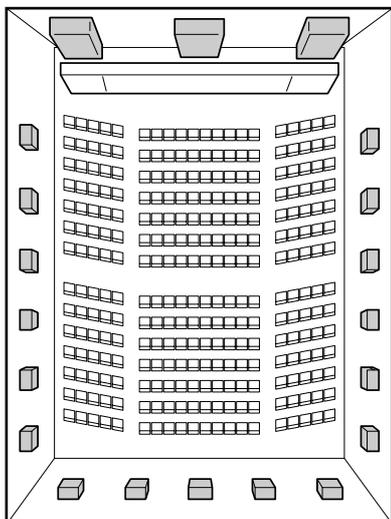
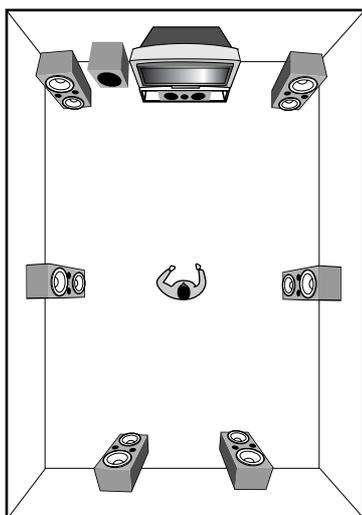
サラウンドを使う

はじめに

サラウンドとは

映画館では、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。

多数のスピーカーを客席を包みこむように配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めることが可能になります。この劇場の効果をサラウンドと言います。

本機は、最大7つのスピーカー（とサブウーハー）を使うことで映画館そのままのサラウンドをご家庭で実現します。

劇場

ホームシアター

音声信号について

本機では、次の入力信号に対してサラウンドを使うことができます。

アナログ音声信号

本機とアナログ接続したソース（音源）機器からの信号です。

- **2ch**　レコードプレーヤーやカセットデッキなどのアナログ機器や、本機とアナログ接続したAV機器からの信号です。
- **5.1ch**　本体背面AUDIO DVD IN端子からの入力信号です。ソース（音源）としてDVD MULTIを選びます。
- **7.1ch**　本体背面EXT 7.1CH INからの入力信号です。ソース（音源）としてEXT 7.1CHを選びます。

デジタル音声信号（デジタル音声フォーマット）

本機とデジタル接続したソース（音源）機器からの信号です。

- **リニアPCM**

  CDなどで使われている2ch音声信号です。本体表示窓の **LINEAR PCM** が点灯します。

- **Dolby Digitalソフト**

  本体表示窓の **DD DIGITAL** が点灯します。

  Dolby Digital信号:
  最も普及したマルチチャンネル信号のひとつで、1chから5.1chまで対応します。

  Dolby Digital EX信号:
  5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1chの音声信号です。

  Dual Mono信号:
  左右に異なる音声を持った2ch信号です。本体表示窓のDUAL表示も点灯します。

- **DTSソフト**

  本体表示窓の **dts** が点灯します。

  DTS信号:
  DVD、CD、LDなど多様なメディアで使用されているマルチチャンネル信号です。1chから5.1chまで対応します。

  DTS 96/24信号:
  サンプリングレート96kHz/量子化ビット数24bitの高音質5.1chの音声信号です。本体表示窓の96/24表示も点灯します。

  DTS-ES Matrix/Discrete信号:
  5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1chの音声信号です。マトリクス処理をしたMatrix信号と、マトリクス処理なしのDiscrete信号があります。

  Dual Mono信号:
  左右に異なる音声を持った2ch信号です。本体表示窓のDUAL表示も点灯します。

- **MPEG-2 AAC**　衛星デジタル放送で使われている5.1chまでの音声信号です。本体表示窓の **MPEG-2 AAC** が点灯します。

  Dual Mono信号:
  左右に異なる音声を持った2ch信号です。本体表示窓のDUAL表示も点灯します。

サラウンドモードについて

Home THX*1

THX（ティーエッチエックス）はTHX社が提唱する劇場用音響の品質規定です。Home THXでは、このTHX規定に、空間サイズや音響特性の違いなどの処理を加味し、ご家庭でも映画製作者の製作意図に忠実な音場を再現します。本機は、従来のTHXサラウンドモードに加え、最新のTHX Ultra2 CinemaモードやTHX Musicモードにも対応しています。
THXサラウンドモードを選ぶと、本体表示窓に THX 表示が点灯します。THXサラウンドモードは次の通りです。
( )内は本体表示窓の表示です。

モード	説明
・THX Ultra2 Cinema (THX U2 CINEMA)	7.1ch再生のサラウンドモードで、映画ソフトに適しています。
・THX Music (THX MUSIC)	7.1ch再生のサラウンドモードで、音楽ソフトに適しています。
・THX Surround EX (THX SURR EX)	Dolby Digital EX信号の再生に適したモードです。
・THX + DTS-ES (THX ES MATRIX) (THX ES DSCRT)	DTS-ES DiscreteまたはMatrix信号の再生に適したモードです。
・THX Cinema (THX CINEMA) (PLIIMOVIE THX) (PRO LOGIC THX) (NEO:6 C THX)	上記以外のサラウンド再生に適したモードです。

ドルビーデジタル*2ソフト

ドルビーデジタルソフト向けのサラウンドモードは次の通りです。( )内は本体表示窓の表示です。

モード	説明
・Dolby Digital EX (DOLBY D EX)	Dolby Digital EX信号または4ch以上のDolby Digitalソフト向けのモードです。7.1chサラウンド再生が可能です。
・Dolby Digital (DOLBY DIGITAL)	2ch以外のDolby Digitalソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
・Dolby Pro Logic II Movie (PLII MOVIE)	映画ソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。本体表示窓に DD PLⅡ 表示が点灯します。
・Dolby Pro Logic II Music (PLII MUSIC)	音楽ソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。本体表示窓に DD PLⅡ 表示が点灯します。
・Dolby Pro Logic (PRO LOGIC)	2ch音声信号向けのモードです。左右フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（モノラル）の4chサラウンド再生が可能です。本体表示窓に DD PL 表示が点灯します。
・Dual Mono (DUAL MONO)	デュアルモノソフト向けのモードです。左右の音声を選択して聞くことができます。

DTS*3ソフト

DTSソフト向けのサラウンドモードは次の通りです。
( )内は本体表示窓の表示です。

モード	説明
・DTS-ES Discrete (DTS-ES DSCRT)	DTS-ES Discrete信号向けのモードです。7.1chサラウンド再生が可能です。
・DTS-ES Matrix (DTS-ES MATRIX)	DTS-ES Matrix信号向けのモードです。7.1chサラウンド再生が可能です。
・DTS Surround (DTS SURROUND)	2ch以外のDTSソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
・DTS Neo:6 Cinema (NEO:6 CINEMA)	2chおよびデジタル4ch以上の信号向けです。6.1ch再生のサラウンドモードで、映画ソフトに適しています。本体表示窓に Neo:6 表示が点灯します。
・DTS Neo:6 Music (NEO:6 MUSIC)	2chおよびデジタル4ch以上の信号向けです。6.1ch再生のサラウンドモードで、音楽ソフトに適しています。本体表示窓に Neo:6 表示が点灯します。
・Dual Mono (DUAL MONO)	デュアルモノソフト向けです。左右の音声を選択して聞くことができます。

MPEG-2 AAC*4

MPEG-2 AACのサラウンドモードは次の通りです。
( )内は本体表示窓の表示です。

モード	説明
・AAC (AAC SURROUND)	5.1chサラウンドまで対応するモードです。
・Dual Mono (DUAL MONO)	デュアルモノ信号向けです。左右の音声を選択して聞くことができます。

*1 THX、THX Ultra2は、THX社の商標です。
*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX 及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*3 DTSおよびDTS-ES Extended Surround、Neo：6、DTS Digital Surroundは、デジタル･シアター･システムズ社の商標です。
*4 米国パテントナンバー

5,297,236	5,481,614	5,490,170	5848391
4,914,701	5,592,584	5,291,557	5,235,671
5,781,888	5,451,954	07/640,550	08/039,478
5 400 433	5,579,430	08/211,548	5,222,189
08/678,666	5,703,999	5,357,594	98/03037
08/557,046	5 752 225	97/02875	08/894,844
5,394,473	97/02874	5,583,962	98/03036
5,274,740	5,227,788	5,633,981	5,285,498

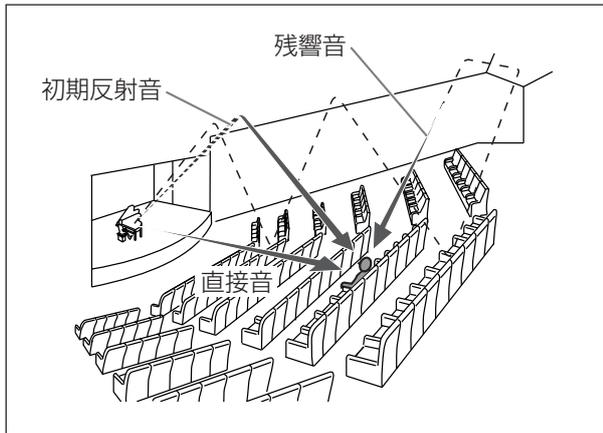
本機を使いこなす

次ページに続く

サラウンドを使う(つづき)

サラウンドモードについて(つづき)

DSPモード

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音(直接音)と天井や壁などに反射してから耳に届く音(初期反射音)、そして何回も反射をくり返してから耳に届く音(残響音)によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、リスナーと壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

DSPモードでは、日本ビクター独自の音響処理により、オリジナル信号に対し残響音や初期反射音を加え、サラウンドを実現します。7.1chのサラウンド再生が可能です。

DSPモードには、次のモードが用意されています。

- LARGE HALL1 : シューボックス形のクラシック音楽用コンサートホール(収容人数2000人程度)の音響効果を再現します。
- LARGE HALL2 : ワインヤード形のクラシック音楽用コンサートホール(収容人数2000人程度)の音響効果を再現します。
- RECITAL HALL : 収容人数500人程度のクラシック音楽用リサイタルホールの音響効果を再現します。
- OPERA HOUSE : オペラ劇場の音響効果を再現します。
- CHURCH : 教会の音響効果を再現します。
- LIVE CLUB : 小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。
- DANCE CLUB : 天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。
- PAVILION : ドーム形状の広い空間の音響効果を再現します。
- ALL CH STEREO : より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。
- LARGE THEATER : 収容人数600人程度の映画館の音響効果を再現します。
- SMALL THEATER : 収容人数300人程度の映画館の音響効果を再現します。
- STEREO FILM : ステレオ音声の映像ソフト向けです。
- MONO FILM : モノラル音声の映像ソフト向けです。

オールチャンネルステレオ(ALL CH STEREO)について

オールチャンネルステレオでは、スピーカー設定メニューで「LARGE」または「SMALL」に設定したすべてのスピーカーを使って、ステレオ音声をより広い範囲でお楽しみいただけます。

- サラウンドスピーカーを接続・設定していないとお使いになれません。
- アジャストメニューのエフェクト設定はお使いになれません。

ステレオフィルムとモノラルフィルム(STEREO FILMとMONO FILM)について

ステレオ音声やモノラル音声(アナログやデジタル2ch信号)の映像をご覧のときに、よりアコースティックな音場を再現します。
サラウンド効果が働き、画面に登場する人の声がより定位感を増して聞こえるようになります。
スピーカー設定メニューで接続・設定されたすべてのスピーカーから音声が聞こえます。

センタースピーカーが接続・設定されているとき

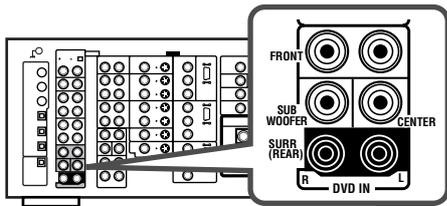
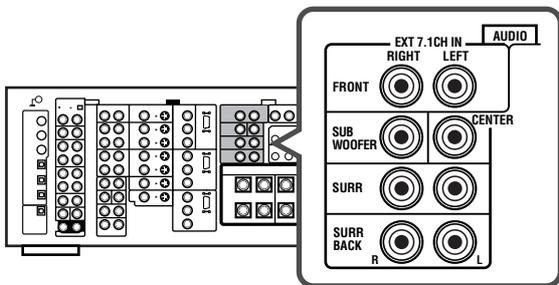
センタースピーカーから定位感が増すように音声が出力されます。これによって、画面上の人物の音声が、目の前で話しているように聞こえてきます。

ドルビーデジタルの音声出力補正機能について

ドルビーデジタルのソフトには基準の音声レベルが記録されており、本機はこれをもとにエンコード再生したときのばらつきを補正し、実際にお楽しみいただくとき、ほぼ同一の音声レベルで再生できるよう調節をうながす機能を持っています。
再生中のソフトの音声出力が標準レベルよりも高いとき、または低いときに本体の表示窓に「DIAL.NORM:XX 」と表示されます。ソフトごとに異なる音声レベルを一定に保つためには、表示中の「XX 」に従って、ボリュームを調節します。
例えば、「DIAL.NORM:+4 」と表示されているときには、ボリュームを4dB 分下げます。

アナログマルチチャンネル

本機には、5.1ch(DVD MULTI)と7.1ch(EXT 7.1CH)のアナログマルチチャンネル入力端子があります。
アナログマルチチャンネルサラウンドを使うには、本体背面の次の端子に再生機器をアナログ接続することが必要です。
(➡ **48** ページ)

5.1chアナログマルチチャンネルの端子

7.1chアナログマルチチャンネルの端子

接続のあと、入力に応じたソース(音源)選択ボタンを押すだけで、アナログマルチチャンネルのサラウンド再生がお楽しみいただけます。
さらに、THXサラウンドモードやDSPモードも合わせて使うことができます。

3D-PHONIC表示について

本機では、スピーカー設置数が少ないとき(例えばフロントスピーカーのみ)でも、設置数に合わせたサラウンドをお楽しみいただけます。本機内蔵の3D PHONIC(フォニック)回路が、フロントスピーカーだけの構成でもサラウンドに近い効果をつくりだします。

- THXサラウンドモードやDSPモードのオールチャンネルステレオのときは、3D PHONIC回路は働きません。

3D PHONIC回路は次の場合に働きます。

- サラウンドスピーカーを使わない設定のときに、DSPモード(オールチャンネルステレオをのぞく)を選んだ場合
- フロントスピーカーのみを使う設定のときに、ドルビーデジタルソフト、DTSソフト、MPEG-2 AAC向けのサラウンドモードを選んだ場合

3D PHONIC回路が働くと、本体表示窓の3D-PHONIC表示が点灯します。

プレシジョン ダウンミックス コンバーターについて

DVD MULTI (5.1ch)またはEXT 7.1CH (7.1ch)の入力時に、5.1chアナログマルチチャンネル信号に対して、フロント(L/R)chにアナログ信号の状態でミキシングすることができます。このため幅広いスピーカー設定(サブウーハーを使わない5.0chやセンタースピーカーを使わない4.1ch等。下の構成表参照)において、DVDオーディオなどのマルチチャンネルソースの高音質をデジタルに変換することなく楽しむことができます。

使用しないスピーカーを設定メニューで「NONE」または「NO」に設定(➡ **55** ページ)すると、CENTER、SUBWOOFERはFRONT LとFRONT Rに均等に、SURR RはFRONT Rに、SURR LはFRONT Lにダウンミックスされます。このときのミキシングレベルは、レベル設定(➡ **56** ページ)により−10dBから+10dBまでの範囲でそれぞれ独立して調節できます。

Information

- EXT 7.1CH入力時のサラウンドバック音声にはダウンミックス機能が働きません。

ダウンミックスch構成表(5.1chのアナログマルチチャンネル信号時)

ダウンミックス後	FRONT(LR)	CENTER	SUBWOOFER	SURR(LR)
5.0ch	2.0ch	1.0ch	ダウンミックス	2.0ch
4.1ch	2.0ch	ダウンミックス	0.1ch	2.0ch
4.0ch	2.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス	2.0ch
3.1ch	2.0ch	1.0ch	0.1ch	ダウンミックス
3.0ch	2.0ch	1.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス
2.1ch	2.0ch	ダウンミックス	0.1ch	ダウンミックス
2.0ch	2.0ch	ダウンミックス	ダウンミックス	ダウンミックス

ヘッドホンをお使いのときは

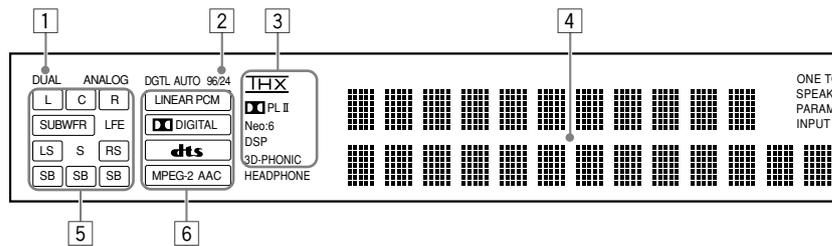
本機では、ヘッドホンを使っても次のようなサラウンドをお楽しみいただけます。

- ドルビーデジタルソフト、DTSソフト、MPEG-2 AAC向けのサラウンドモードのとき
  ➡ 3D HEADPHONEモード
- DSPモードのとき
  ➡ DSP+HEADPHONEモード(DSPモードを切り換えることができます)

アナログマルチチャンネルのときは、全チャンネルの音声が2chにダウンミックスされます。

本機を使いこなす

入力音声信号などの表示について

サラウンドに関する本体表示窓の表示について説明します。

1 **DUAL表示**
デュアルモノ信号が入力すると点灯します。

2 **96/24表示**
DTS 96/24信号が入力すると点灯します。

3 **サラウンドモード表示**
現在選択中のサラウンドのモードに応じて点灯します。

4 **ソース/モード表示**
現在選択中のソース（音源）機器名とサラウンドを表示します。

5 **入力音声信号表示とスピーカー表示**

入力音声信号
本機に入力する音声信号に応じて点灯します。

L　：左フロントスピーカー音声信号
R　：右フロントスピーカー音声信号
C　：センタースピーカー音声信号
LFE：サブウーハー用LFE信号
LS　：左サラウンドスピーカー音声信号
RS　：右サラウンドスピーカー音声信号
S　：サラウンドスピーカー音声信号（モノラル）
SB　：サラウンドバックスピーカー音声信号

L C R
SUBWFR LFE
LS S RS
SB SB SB

・SUBWFRは、本機のスピーカー設定でサブウーハーを「YES」にすると、周りの枠とともに常に点灯します。
・S点灯時は、左右のサラウンドスピーカーから同じ音声が出力されます。
・SBは、サラウンドバックスピーカー音声信号入力時に点灯します。

スピーカー表示
音声が出ているスピーカーは、入力信号の周りの枠として表示されます。フロントスピーカー以外のスピーカーから音声を出力するには、本機のスピーカー設定で、各スピーカーを「LARGE」または「SMALL」（サブウーハーは「YES」）に設定し、サラウンドを使う必要があります。

6 **デジタル音声フォーマット表示**
本機に入力中のデジタル音声フォーマットを表示します。

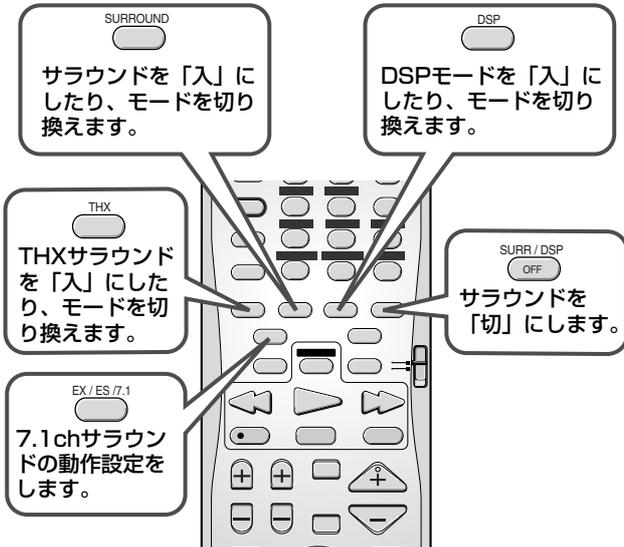
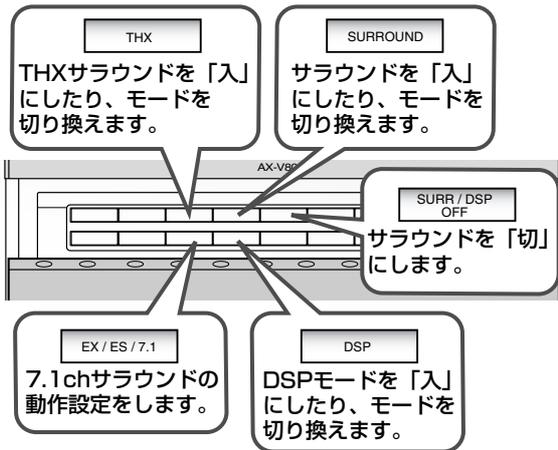
サラウンドモード時の表示例

下図は、サラウンドを使っているときの表示例です。スピーカー設定などの参考にしてください。

サラウンドモードによっては、設定していても使われないスピーカーがあります。

サラウンド操作ボタンについて

サラウンド操作に使うボタンを説明します。

リモコン

本体・内部ボタン

7.1chサラウンドの設定をする

デジタル4ch以上の入力音声信号に対する、7.1chサラウンドモードの動作を設定します。

EX/ES/7.1ボタンを押す

ボタンを押すごとに、本体表示窓に次のように表示され、設定が切り換わります。

AUTO：ドルビーデジタル EX信号またはDTS-ES信号入力時のみ、7.1chサラウンドを再生します。

ON：4ch以上の音声信号入力時に、7.1chサラウンドを再生します。

OFF：7.1chサラウンドを再生しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1chサラウンドまでの再生になります。

Information

・ サラウンドバックスピーカーのスピーカー設定(➡ **55** ページ)が「NONE」のときやセットアップメニューのバイアンプ設定(➡ **62** ページ)が「BI-AMP OUT」のときは、「NO SURRBACK」と表示され、EX/ES/7.1の設定はできません。
・ THXのサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカー設定も関係します。(➡ **55** ページ)
・ サラウンドを使っているときは、EX/ES/7.1設定を切り換えると、サラウンドモードも切り換わることがあります。各設定での詳しい動作については、**30**〜**33** ページをご覧ください。

サラウンドを「入」にする

1 ソース(音源)を選び、再生を始める

2 サラウンドを「入」にする

・THXサラウンドを楽しむには
THXボタンを押します。

THXボタンはフロントスピーカー以外のスピーカー設定を「NONE」に設定しているときは、働きません。

・THXサラウンドモード以外の、サラウンドモードを楽しむには
SURROUNDボタンを押します。

・DSPモードを楽しむには
DSPボタンを押します。

3 サラウンドモードを選ぶ

スピーカー設定や入力音声信号によっては、選べないモードがあったり、モードの切り換えができないことがあります。(➡ **30**〜**33** ページ)

・お好みのTHXサラウンドモードを選ぶとき
THXボタンをくり返し押します。

・THXサラウンドモード以外の、お好みのサラウンドモードを選ぶとき
SURROUNDボタンをくり返し押します。

・お好みのDSPモードを選ぶとき
DSPボタンをくり返し押します。

サラウンドを「切」にするときは、SURR/DSP OFFボタンを押します。

Information

・ サラウンドを「入」にすると、アナログダイレクト(➡ **19** ページ)は「切」になり、働きません。THXサラウンドのときは、CC コンバーター(➡ **18** ページ)、PARAMETRIC EQ(➡ **64** ページ)、ミッドナイトモード(➡ **65** ページ)も働きません。
・ 録音する音声にはサラウンドなどの効果は含まれません。

本機を使いこなす

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドモード対応表

DSPモードは、どの入力信号のときでも選べます。（サラウンドスピーカーのスピーカ設定（➡ **55** ページ）が「NONE」のときは「ALL CH STEREO」は選べません）

THXボタン、SURROUNDボタンから選べるサラウンドモードは、ソース（音源）の種類、EX/ES/7.1設定、スピーカーの設定などによって異なります。ここでは、再生している音声信号別に、THXボタンとSURROUNDボタンで選べるサラウンドモードを示します。再生中の音声信号については、本体表示窓の入力音声信号表示や再生しているソフトの取扱説明書をご覧ください。

- サブウーハーの設定はサラウンドモードの選択に関係ありません。
- 表中のモード名は、本体表示窓に表示されるモード名です。
- スピーカー表示は、サラウンドが「入」のときのものです。

■ Dolby Digitalソフトを再生しているとき

1 サラウンドバックスピーカー設定が「NONE」、その他のスピーカー設定が下図の場合

入力信号の種類（入力音声信号表示）	THXボタンで選べるモード	SURROUNDボタンで選べるモード
DUAL MONO 信号	無効	DUAL MONO
2ch（L、R） ドルビーサラウンド 2ch（L、R、S）	PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C） 3ch（L、R、S）、4ch（L、R、C、S） 4ch（L、R、LS、RS）、5ch（L、C、R、LS、RS） Dolby Digital EX 信号	THX CINEMA	DOLBY DIGITAL

フロントスピーカー以外のスピーカー設定が「NONE」のときは、THXボタンは無効です。

2 サラウンドバックスピーカー設定が「1SPK」

入力信号の種類（スピーカー表示）			THXボタンで選べるモード	SURROUNDボタンで選べるモード
DUAL MONO 信号			無効	DUAL MONO
2ch（L、R） ドルビーサラウンド 2ch（L、R、S）			PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C） 3ch（L、R、S）、4ch（L、R、C、S）			THX CINEMA	DOLBY DIGITAL
4ch（L、R、LS、RS） 5ch（L、C、R、LS、RS）	EX/ES/7.1 設定	「OFF」 「AUTO」	THX CINEMA	DOLBY DIGITAL
		「ON」	THX SURR EX	DOLBY D EX
Dolby Digital EX 信号	EX/ES/7.1 設定	「OFF」	THX CINEMA	DOLBY DIGITAL
		「AUTO」 「ON」	THX SURR EX	DOLBY D EX

3 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」

入力信号の種類（スピーカー表示）			THXボタンから選べるモード	SURROUNDボタンから選べるモード
DUAL MONO 信号			無効	DUAL MONO
2ch（L、R） ドルビーサラウンド 2ch（L、R、S）			PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C）			THX CINEMA	DOLBY DIGITAL
3ch（L、R、S）、 4ch（L、R、C、S）	EX/ES/7.1 設定	「OFF」		
		「AUTO」 「ON」	THX U2 CINEMA THX MUSIC	
4ch（L、R、LS、RS） 5ch（L、C、R、LS、RS）	EX/ES/7.1 設定	「OFF」	THX CINEMA	
		「AUTO」	THX U2 CINEMA THX MUSIC	
		「ON」	THX SURR EX THX U2 CINEMA THX MUSIC	DOLBY D EX
Dolby Digital EX 信号	EX/ES/7.1 設定	「OFF」	THX CINEMA	DOLBY DIGITAL
		「AUTO」 「ON」	THX SURR EX	DOLBY D EX

DTSソフトを再生しているとき

1 サラウンドバックスピーカー設定が「NONE」、その他のスピーカー設定が下図の場合

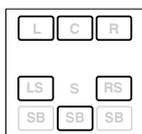
入力信号の種類（入力音声信号表示）	THXボタンで選べるモード	SURROUNDボタンで選べるモード
DUAL MONO 信号	無効	DUAL MONO
2ch（L、R）	PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C） 3ch（L、R、S）、4ch（L、R、C、S） 4ch（L、R、LS、RS）、5ch（L、C、R、LS、RS） DTS 96/24 信号、DTS-ES Matrix 信号 DTS-ES Discrete 信号	THX CINEMA	DTS SURROUND

フロントスピーカー以外のスピーカー設定が「NONE」のときは、THXボタンは無効です。

次ページに続く

サラウンドモード対応表（つづき）

■ DTSソフトを再生していると（つづき）

2 サラウンドバックスピーカー設定が「1SPK」

入力信号の種類（スピーカー表示）			THXボタンで選べるモード	SURROUNDボタンで選べるモード
DUAL MONO 信号			無効	DUAL MONO
2ch（L、R）			PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C） 3ch（L、R、S）、4ch（L、R、C、S）			THX CINEMA	DTS SURROUND
4ch（L、R、LS、RS） 5ch（L、C、R、LS、RS） DTS 96/24 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」 「AUTO」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「ON」	THX DTS NEO:6	DTS NEO:6
DTS-ES Matrix 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」 「ON」	THX ES MATRIX	DTS-ES MATRIX
DTS-ES Discrete 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」 「ON」	THX ES DSCRT	DTS-ES DSCRT

Information

- DTS 96/24ソフトで、96/24音声を聞くときは、EX/ES/7.1設定を「OFF」または「AUTO」にします。

3 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」

入力信号の種類（スピーカー表示）			THXボタンから選べるモード	SURROUNDボタンから選べるモード
DUAL MONO 信号			無効	DUAL MONO
2ch（L、R）			PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C）			THX CINEMA	DTS SURROUND
3ch（L、R、S） 4ch（L、R、C、S）	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」 「ON」	THX U2 CINEMA THX MUSIC	DTS SURROUND
4ch（L、R、LS、RS） 5ch（L、C、R、LS、RS） DTS 96/24 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」	THX U2 CINEMA THX MUSIC	DTS SURROUND
		「ON」	THX DTS NEO:6 THX U2 CINEMA THX MUSIC	DTS NEO:6
DTS-ES Matrix 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」 「ON」	THX ES MATRIX	DTS-ES MATRIX
DTS-ES Discrete 信号	EX/ES/7.1設定	「OFF」	THX CINEMA	DTS SURROUND
		「AUTO」 「ON」	THX ES DSCRT	DTS-ES DSCRT

Information

- DTS 96/24フォーマットのDTS-ES Matrixソフトで、96/24音声を聞くときは、EX/ES/7.1設定を「OFF」にします。マトリクス処理はされません。

MPEG-2 AACを再生しているとき

1 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」以外

入力信号の種類 （入力音声信号表示）	THXボタンで 選べるモード	SURROUNDボタン で選べるモード
DUAL MONO 信号	無効	DUAL MONO
2ch（L、R）	PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
1ch（C）、3ch（L、R、C） 3ch（L、R、S）、4ch（L、R、C、S） 4ch（L、R、LS、RS）、5ch（L、C、R、LS、RS）	THX CINEMA	AAC SURROUND

フロントスピーカー以外のスピーカー設定が「NONE」のときは、THXボタンは無効です。

2 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」

<table>
<tr><th colspan="3">入力信号の種類
（スピーカー表示）</th><th>THXボタンで
選べるモード</th><th>SURROUNDボタン
で選べるモード</th></tr>
<tr><td colspan="3">DUAL MONO 信号</td><td>無効</td><td>DUAL MONO</td></tr>
<tr><td colspan="3">2ch（L、R）</td><td>PLII MOVIE THX
PRO LOGIC THX
NEO:6 C THX</td><td>PLII MOVIE
PLII MUSIC
PRO LOGIC
NEO:6 CINEMA
NEO:6 MUSIC</td></tr>
<tr><td colspan="3">1ch（C）、3ch（L、R、C）</td><td rowspan="2">THX CINEMA</td><td rowspan="3">AAC SURROUND</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3ch（L、R、S）
4ch（L、R、C、S）
4ch（L、R、LS、RS）
5ch（L、C、R、LS、RS）</td><td rowspan="2">EX/ES/7.1
設定</td><td>「OFF」</td></tr>
<tr><td>「AUTO」
「ON」</td><td>THX U2 CINEMA
THX MUSIC</td></tr>
</table>

アナログ/リニアPCM音声を再生しているとき

1 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」以外

入力信号の種類 （入力音声信号表示）	THXボタンで 選べるモード	SURROUNDボタン で選べるモード
2ch（L、R）	PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
5ch(ソース（音源）がDVD MULTIのとき) 7ch(ソース（音源）がEXT 7.1CHのとき)	無効	無効

フロントスピーカー以外のスピーカー設定が「NONE」のときは、THXボタンは無効です。

2 サラウンドバックスピーカー設定が「2SPK」

入力信号の種類 （入力音声信号表示）	THXボタンで 選べるモード	SURROUNDボタン で選べるモード
2ch（L、R）	PLII MOVIE THX PRO LOGIC THX NEO:6 C THX	PLII MOVIE PLII MUSIC PRO LOGIC NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC
5ch(ソース（音源）がDVD MULTIのとき) 7ch(ソース（音源）がEXT 7.1CHのとき)	THX U2 CINEMA THX MUSIC	無効

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドを調節する

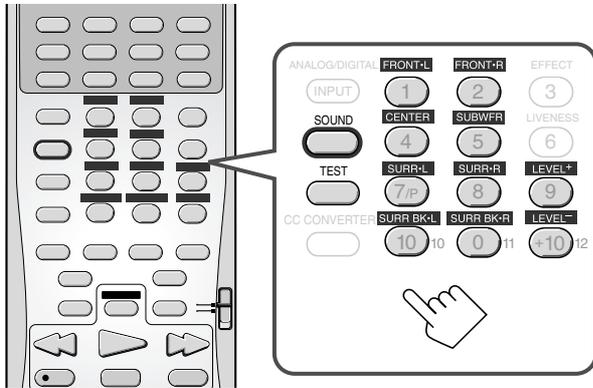
サラウンドを使用中に各スピーカーの出力レベルなどを調節することができます。

スピーカーの出力レベルを調節する

1 ソース（音源）を選び、再生を始める

2 THXボタン、SURROUNDボタンまたはDSPボタンを押してサラウンドモードを選ぶ

3 リモコンのSOUNDボタンを押す

リモコン液晶表示窓に「SOUND」と表示されます。
これで、下図のボタンが出力レベルの調節のために働くようになります。

4 調節するスピーカーのボタンを押す

リモコン液晶表示窓にスピーカー名が表示されます。

・スピーカー設定やサラウンドモードによっては選べないスピーカーがあります。

> TESTボタンを押すと、再生中の音声のかわりにテストトーンが出力されます。テレビ画面上にメニュー画面（➡ **56** ページ）が表示されます。

5 LEVEL＋ボタン、LEVEL－ボタンを押して調節する

ボタンを押すごとに調節値が増減します。

6 手順*4*と*5*をくり返し、他のスピーカーの出力レベルを調節する

Information

- 手順*4*で、テストトーンを使わないで、出力レベルを調節した時は、調節内容は一時的なものです。他のソース（音源）を選ぶと、調節内容は失われます。サラウンド再生ごとに調節して下さい。
- 手順*4*で、テストトーンを使って、出力レベルを調節した時は、セットアップメニューでの出力レベル調節（➡ **56** ページ）と同じく、すべてのソース（音源）やサラウンドモードに反映します。

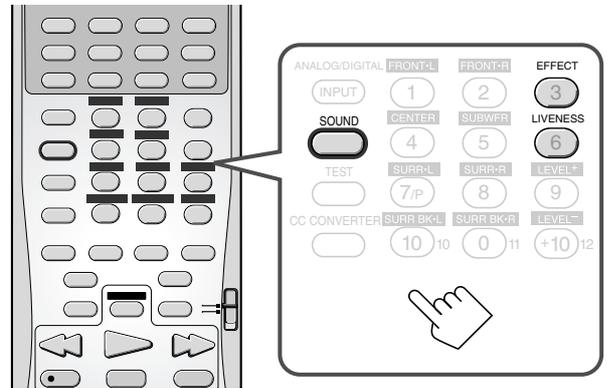
EFFECT、LIVENESSを調節する

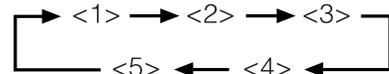
DSPモード（「ALL CH STEREO」を除く）を選んでいるときのみ調節することができます。

1 ソース（音源）を選び、再生を始める

2 DSPボタンを押してDSPモードを選ぶ

3 リモコンのSOUNDボタンを押す

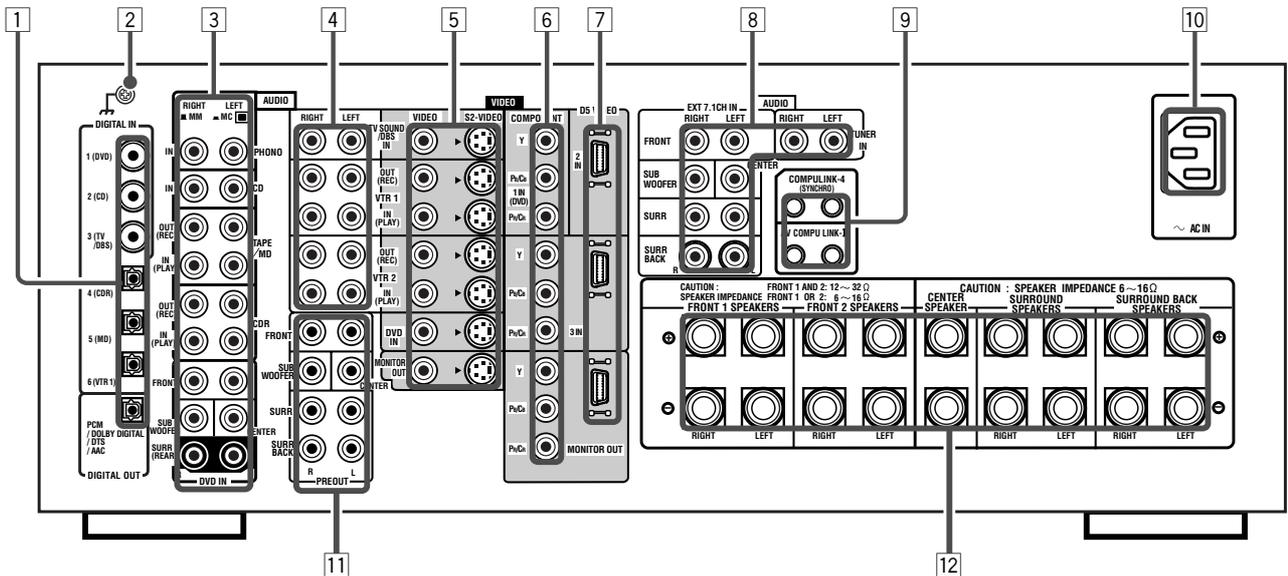
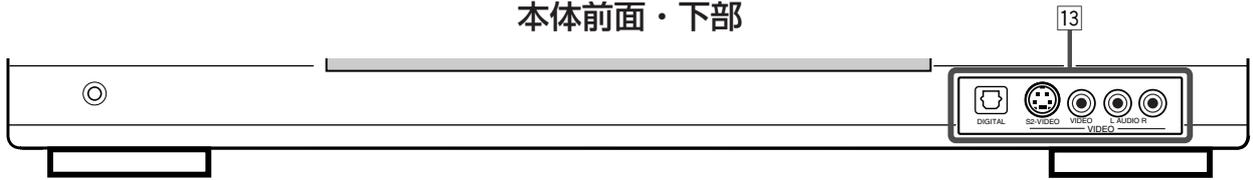
リモコン液晶表示窓に「SOUND」と表示されます。
これで、EFFECTボタンとLIVENESSボタンが働くようになります。

4 EFFECTボタンまたはLIVENESSボタンを押す

ボタンをくり返し押すと、それぞれの調節内容が次のように切り換わります。

・数字が大きくなるほど、効果が大きくなります。

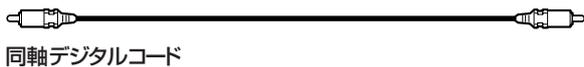
5 手順*4*をくり返し、他方を調節する

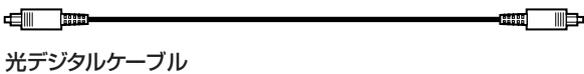
Information

- EFFECTやLIVENESSについて、詳しくはアジャストメニュー（➡ **63** ページ）をご覧ください。アジャストメニューでは、この他にROOM SIZEやWALL TYPEなどを調節することもできます。

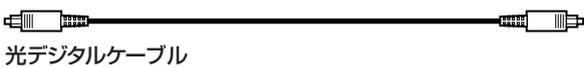
接続端子と接続コード

1 DIGITAL IN（デジタル音声入力端子）

同軸デジタル1(DVD)、2(CD)、3(TV/DBS)

同軸デジタルコード

光デジタル4(CDR)、5(MD)、6(VTR 1)

光デジタルケーブル

DIGITAL OUT（デジタル音声出力端子）

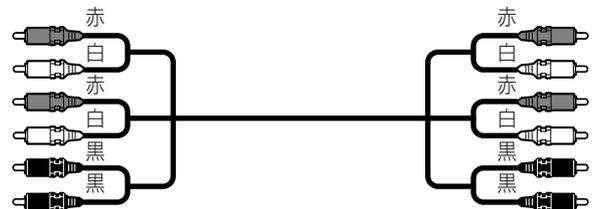
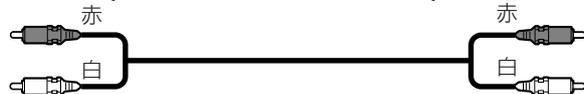
PCM/DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

光デジタルケーブル

2 アース（⏚）端子

レコードプレーヤーのアース線を接続するとき使います。

3 AUDIO（アナログ音声入出力端子）

アナログ音声コード（RCAピンプラグ、ステレオ用、赤白）

5.1ch用音声コード（RCAピンプラグ、マルチチャンネル用、赤白黒2組）

音声入力端子：
PHONO IN、CD IN、TAPE/MD IN(PLAY)、CDR IN (PLAY)、DVD IN（FRONT、CENTER、SUBWOOFER、SURR (REAR)）

音声出力端子（録音用端子）：
TAPE/MD OUT(REC)、CDR OUT(REC)

4 AUDIO（映像機器・アナログ音声入出力端子）

アナログ音声コード（RCAピンプラグ、ステレオ用、赤白）

音声入力端子：
TV SOUND/DBS IN、VTR 1 IN(PLAY)、VTR 2 IN (PLAY)

音声出力端子（録音用端子）：
VTR 1 OUT(REC)、VTR 2 OUT(REC)

接続端子と接続コード(つづき)

5 VIDEO、S2-VIDEO(映像入出力端子)

ビデオコード(RCAピンプラグ、黄)

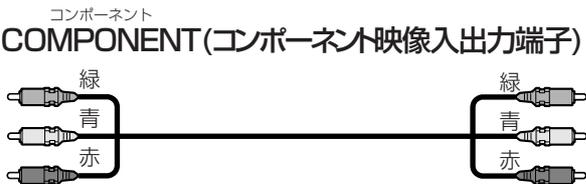
VIDEO(映像)入力端子:
　TVSOUND/DBS IN、VTR 1 IN(PLAY)、
　VTR 2 IN(PLAY)、DVD IN

VIDEO(映像)出力端子:
　VTR 1 OUT(REC)、VTR 2 OUT(REC)、
　MONITOR OUT

S映像コード

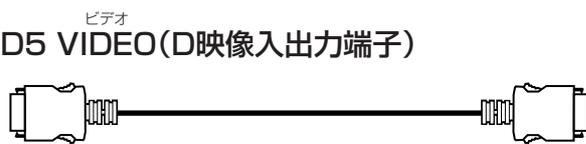
S2-VIDEO(S映像)入力端子:
　TVSOUND/DBS IN、VTR 1 IN(PLAY)、
　VTR 2 IN(PLAY)、DVD IN

S2-VIDEO(S映像)出力端子:
　VTR 1 OUT(REC)、VTR 2 OUT(REC)、
　MONITOR OUT

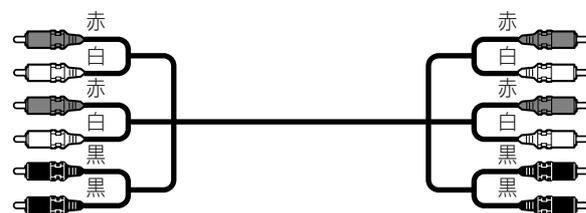
6 COMPONENT(コンポーネント映像入出力端子)

コンポーネントコード(RCAピンプラグ、赤青緑)

COMPONENT(コンポーネント映像)入力端子:
　1 IN(DVD) (Y、PB/CB、PR/CR)、
　3 IN (Y、PB/CB、PR/CR)

COMPONENT(コンポーネント映像)出力端子:
　MONITOR OUT(Y、PB/CB、PR/CR)

7 D5 VIDEO(D映像入出力端子)

D映像接続コード(Dプラグ～Dプラグ)

D5 VIDEO(D映像)入力端子:2 IN、3 IN
D5 VIDEO(D映像)出力端子:MONITOR OUT

8 AUDIO(アナログ音声入力端子)

5.1ch用音声コード(RCAピンプラグ、マルチチャンネル用、赤白黒2組)

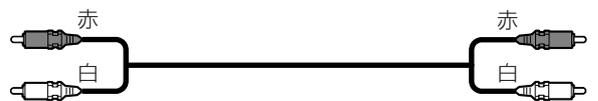
EXT 7.1CH IN(FRONT、CENTER、
SUBWOOFER、SURR、SURR BACK)、TUNER IN

9 コンピュリンク、AVコンピュリンク端子

COMPU LINK-4 (SYNCHRO) x2
AV COMPU LINK-Ⅲ x2

10 ～ AC IN(電源プラグ端子)

付属の電源コードをお使いください。

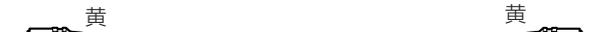
11 PREOUT(アナログ音声出力端子)

アナログ音声コード(RCAピンプラグ、ステレオ用、赤白)

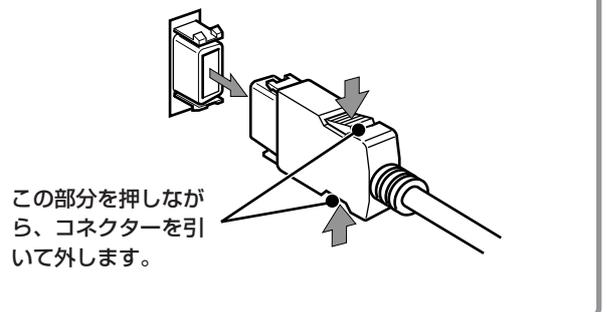
FRONT、CENTER、SUBWOOFER、SURR、SURR BACK

12 スピーカー端子

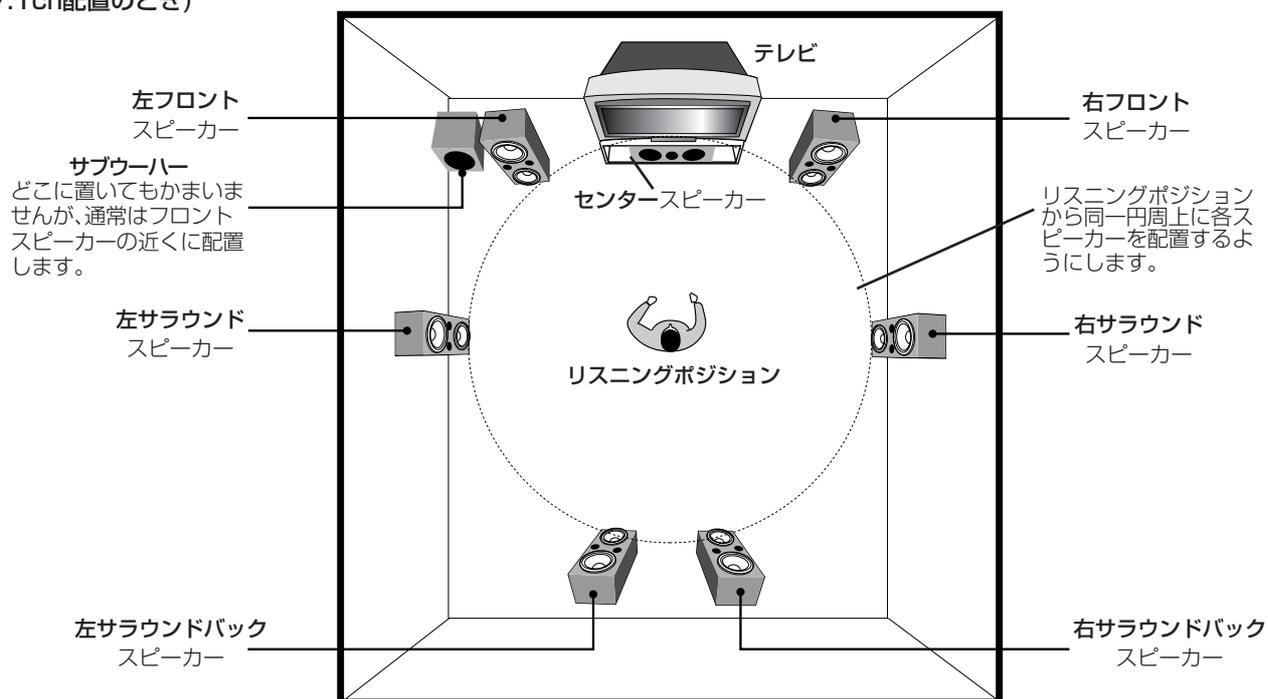
FRONT 1 SPEAKERS (LEFT、RIGHT)
FRONT 2 SPEAKERS (LEFT、RIGHT)
CENTER SPEAKER
SURROUND SPEAKERS (LEFT、RIGHT)
SURROUND BACK SPEAKERS (LEFT、RIGHT)

13 前面VIDEO入力端子

光デジタル入力端子:DIGITAL

アナログ音声コード(RCAピンプラグ、ステレオ用、赤白)

D映像端子コネクターの外しかた

スピーカーの配置

本機では、スピーカーを同時に8本使用して、より臨場感のある音場をつくることができます。
スピーカーを配置するには、下の配置例を参考に実際に音声をお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。
また、部屋の間取りなどで理想的な配置がむずかしいときでも、スピーカー距離を正しく設定することで音場の調節をすることができます。(➡ **57** ページ)
サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、L側の端子(SURROUND BACK L端子)に接続し、サラウンドバックスピーカーの設定を「1SPK」にします。(➡ **55** ページ)

理想的なスピーカー配置例
(7.1ch配置のとき)

・テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

■ 接続するスピーカーについて

本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは次の通りです。

接続端子	スピーカー公称インピーダンス
FRONT 1 SPEAKERSまたはFRONT 2 SPEAKERS	6 Ω〜16 Ω
FRONT 1 SPEAKERSとFRONT 2 SPEAKERSを同時に使用するとき*	12 Ω〜32 Ω
CENTER SPEAKER	6 Ω〜16 Ω
SURROUND SPEAKERS	6 Ω〜16 Ω
SURROUND BACK SPEAKERS	6 Ω〜16 Ω

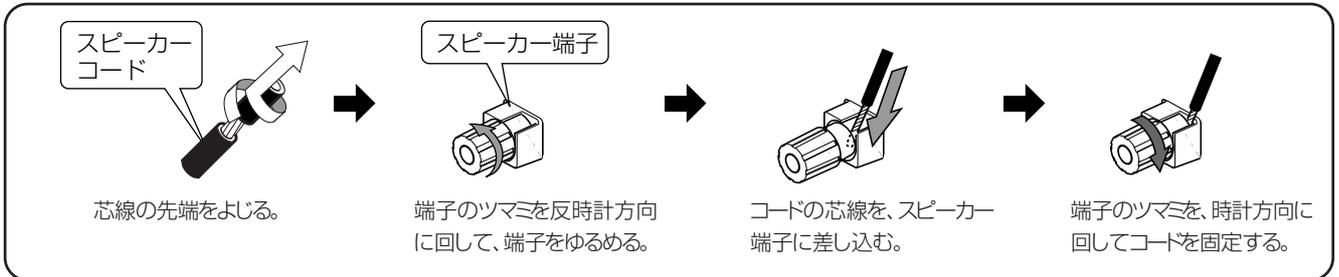
* BI-AMP使用時を除く

■ 設置上のご注意

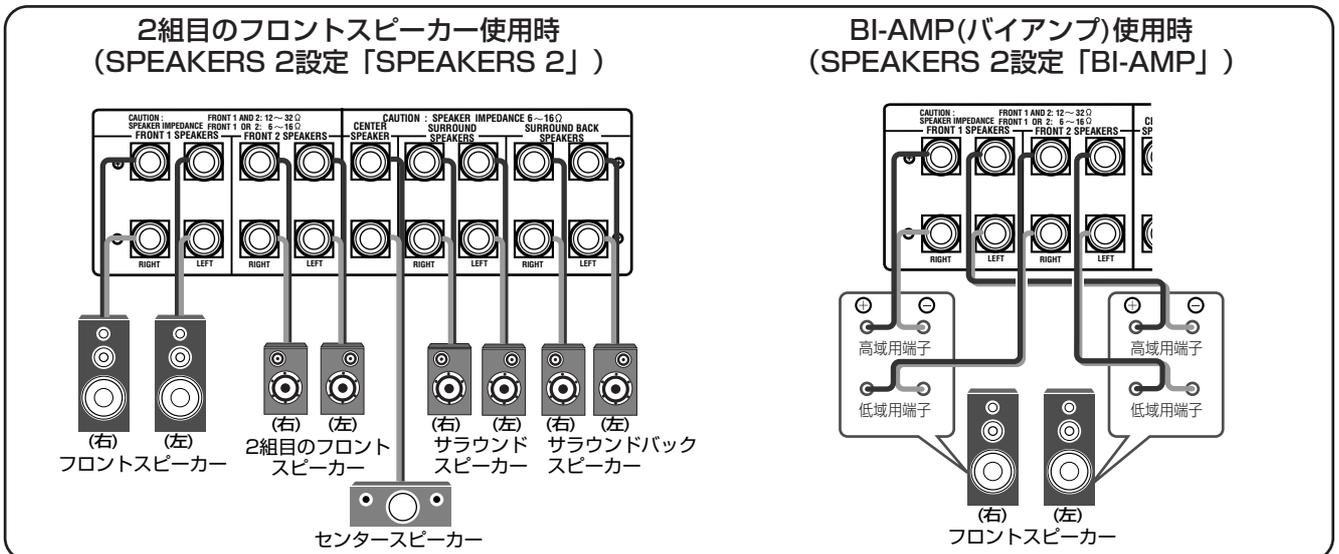
本機はハイパワーであるため、連続動作や大音量動作で内部の温度が上昇することがあります。
十分な放熱効果を得るため本体周囲の通風孔をふさがないようご注意ください。

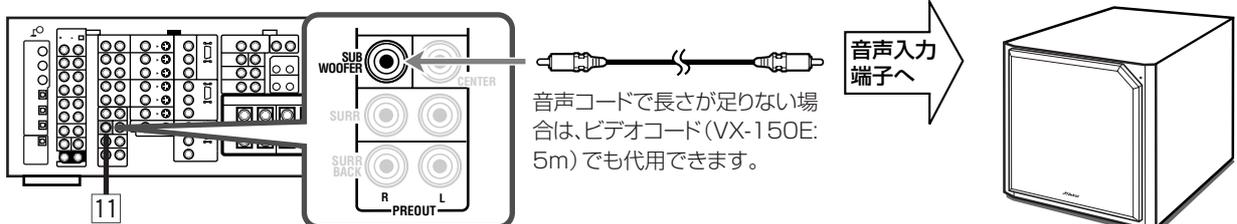
スピーカーの接続

■ スピーカーの接続

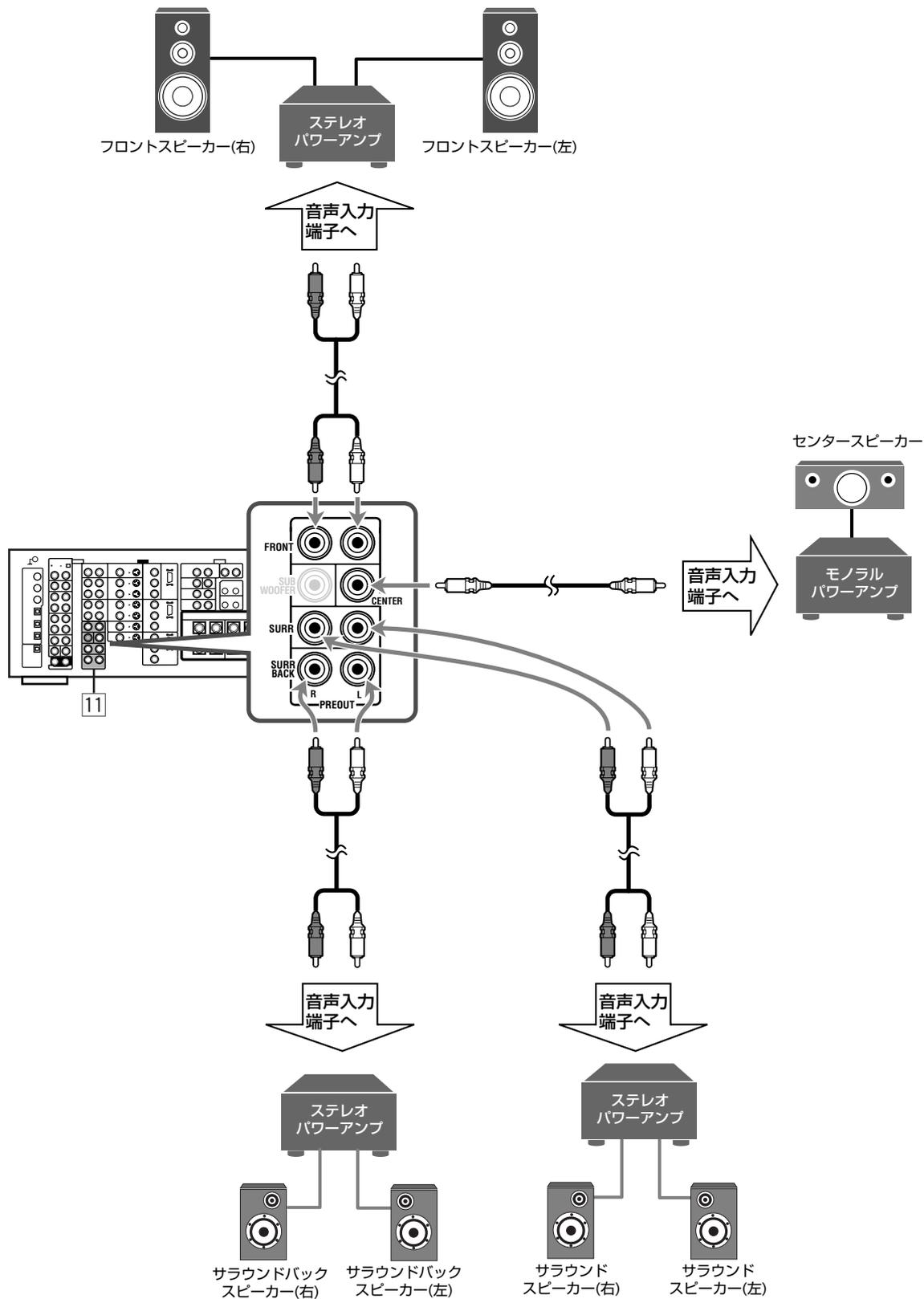
各スピーカーを本機背面のスピーカー端子に接続します。

- スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えて接続すると、ステレオ感や音質がそこなわれます。また、サラウンド効果の音像が正しく定位しないことがあります。
- スピーカーコードはスピーカー端子の極性(⊕、⊖)と本機の端子の極性(⊕、⊖)に合わせて、マークや線のあるほうを⊖側などと決めて接続すると、接続ミスが防げます。
- 一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。故障や事故の原因となります。

本機のフロントスピーカーは、2系統を接続し切り換えて使用することができます。(➡ **18** ページ)
例えば、FRONT 1 SPEAKERS端子にふだんお使いのオーディオ用のフロントスピーカーを接続し、FRONT 2 SPEAKERS端子にサラウンドシステム用のフロントスピーカーを接続し、使い分けることもできます。

また、本機はBI-AMP(バイアンプ)機能を搭載しています。(➡ **62** ページ)
FRONT 1 SPEAKERS端子とFRONT 2 SPEAKERS端子に接続したバイアンプ対応スピーカーを、高域側と低域側それぞれ独立したアンプで駆動することができます。(サラウンドバックスピーカーは使えなくなります)

■ サブウーハーの接続

LFE(Low Frequency Effect)信号を持つソフトを再生する時などに、サブウーハーで重低音が楽しめます。また、ステレオ再生でもサブウーハーを使って、低音を強調することができます。接続するときは、RCAピンプラグコードでSUBWOOFER端子に接続します。接続したらサブウーハーの設定で「YES」に設定します。(➡ **55** ページ)
サブウーハーの取扱説明書もご覧ください。

■ 外部にアンプを接続する

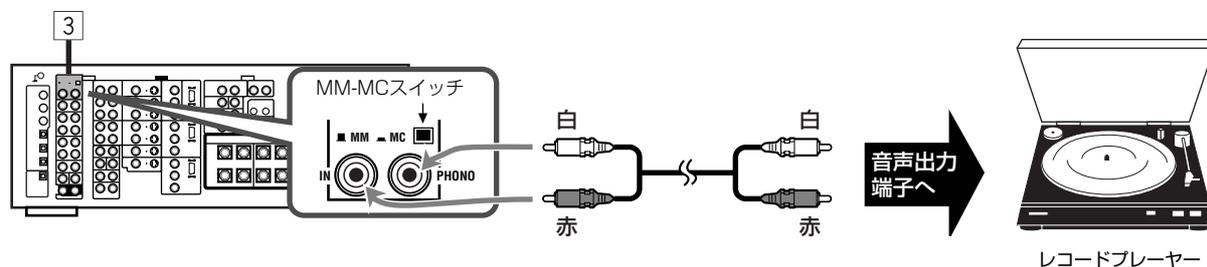
本機はプリアウト(PREOUT)出力端子を装備しています。
外部にパワーアンプなどを接続して、より高品位な再生システムを構成することができます。

本機を使いこなす

オーディオ機器を接続する

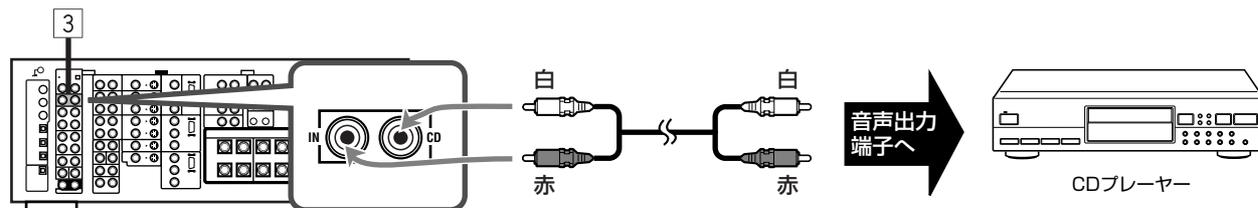
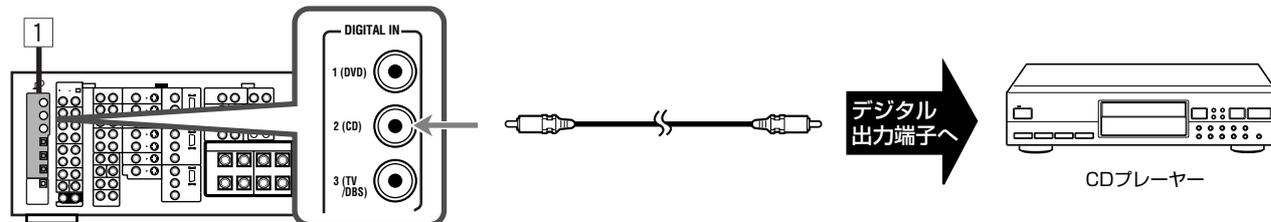
本機にオーディオ機器を接続します。

- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
- REC SELECTOR(レックセレクター機能)を使って録音するにはアナログ接続が必要です。
- 本機と接続する機器の間に、グラフィックイコライザーなどの機器を接続すると音がひずむことがありますので、ご注意ください。
- ビクター製のコンピュリンク対応の機器をお使いの場合には、COMPU LINK-3、4端子を使って接続すると、一体型システムのような連係操作が可能になります。(➡ **69** ページ)

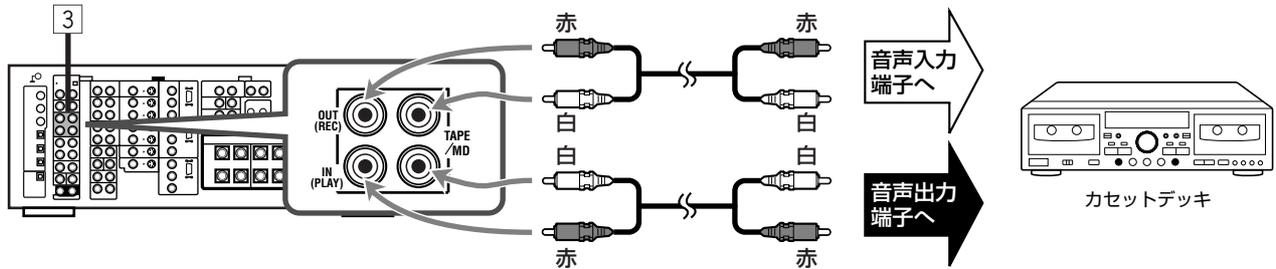
レコードプレーヤー

接続するときは、レコードプレーヤーのアース線を本機のアース(⏚)端子(2)に接続してください。
お使いのカートリッジに合わせて、本機背面のMM-MCスイッチを切り換えてください。(▘ MMまたは▂ MC)
MCカートリッジのレコードプレーヤーをお使いのときに、スイッチを押した状態(▂ MC)にします。

PHONO端子には、レコードプレーヤー以外のオーディオ機器を接続しないでください。
特に、MM-MCスイッチを押した状態(▂ MC)にしているときは、MCカートリッジ以外のレコードプレーヤーを絶対に接続しないでください。アンプ内部で大きな増幅をしていますので、故障の原因になることがあります。

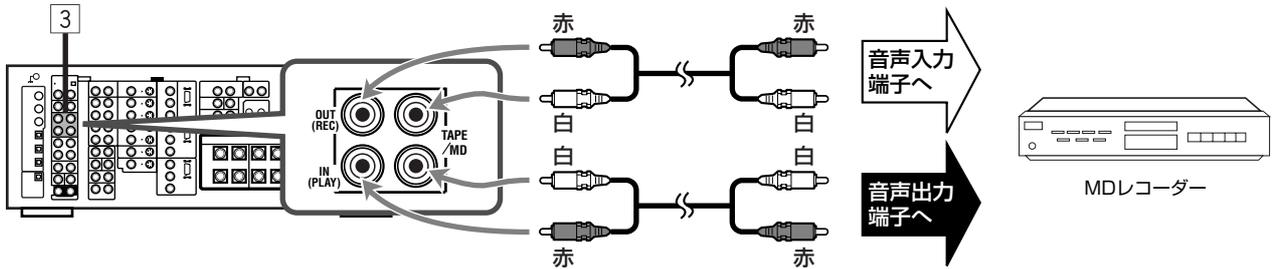
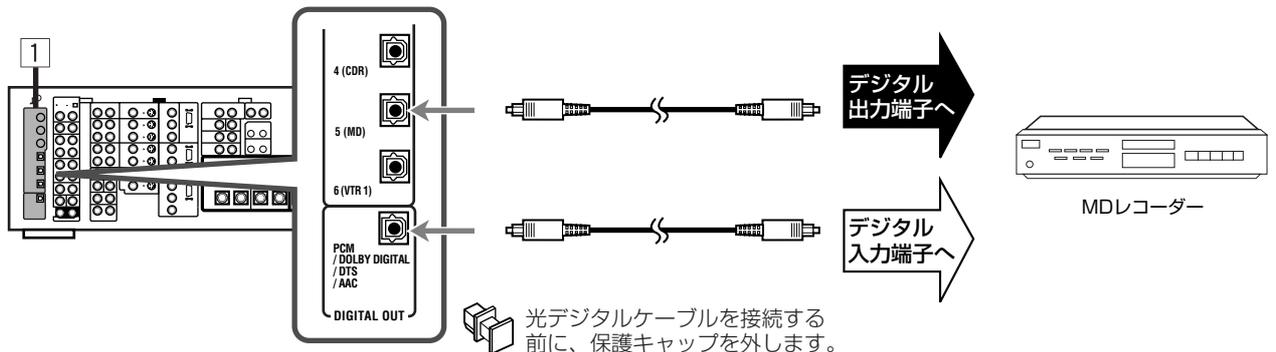
CDプレーヤー

アナログ接続

デジタル接続(同軸デジタル端子)

- DIGITAL IN 2(CD)端子以外の同軸デジタル端子や光デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。(➡ **60** ページ)
- REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。(➡ **23** ページ)

カセットデッキ

カセットデッキを接続するときは、本体のTAPE/MDボタンのソース（音源）名を「TAPE」に変更します。（➡ **21** ページ）
・ お買い上げ時は、ソース（音源）名が「TAPE」に設定されています。

MDレコーダー

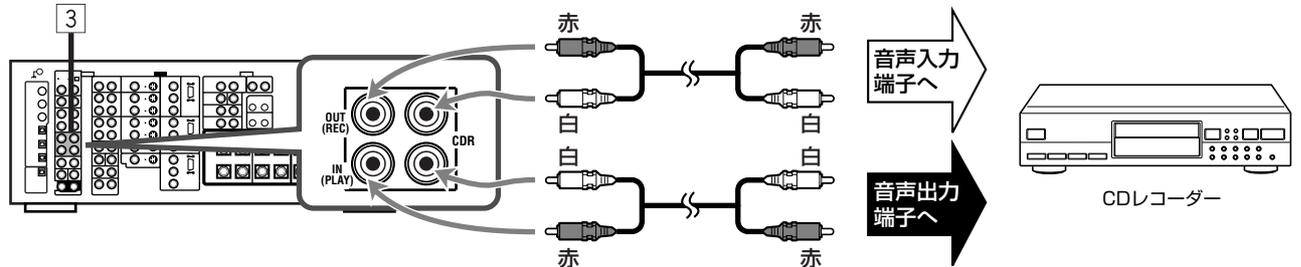
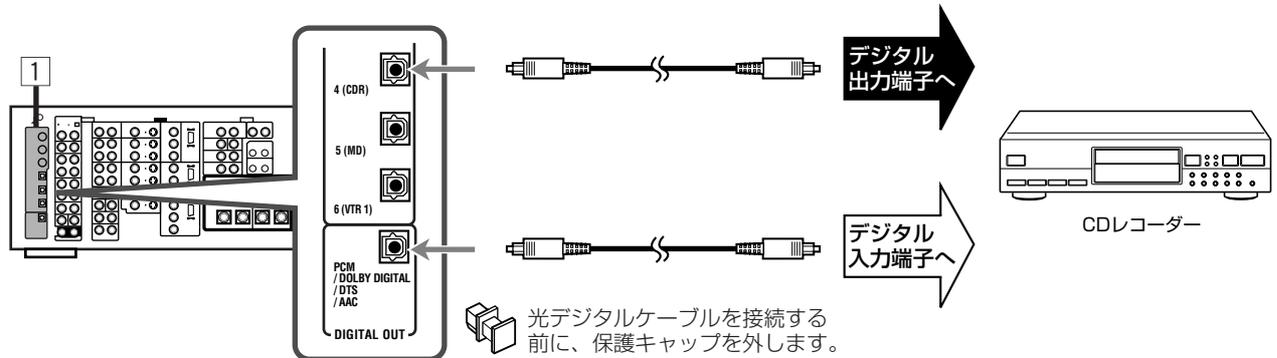
MDレコーダーを接続するときは、本体のTAPE/MDボタンでソース（音源）名を「MD」に変更します。（➡ **21** ページ）
変更しないと、デジタル音声はお楽しみいただけません。
・ お買い上げ時は、ソース（音源）名が「TAPE」に設定されています。

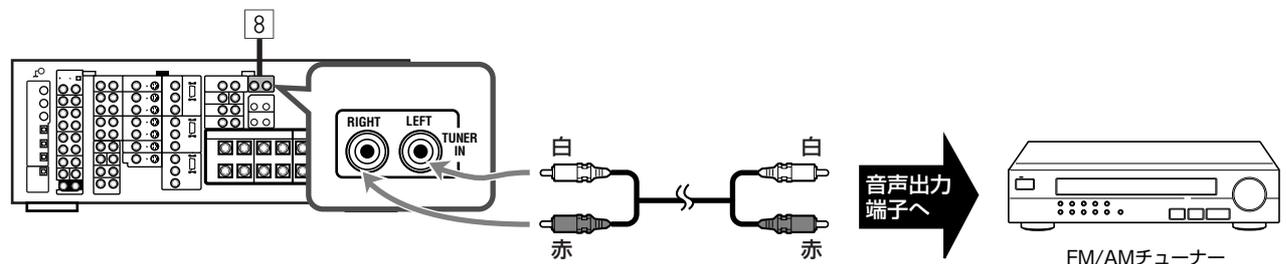
アナログ接続

デジタル接続（光デジタル端子）

・ DIGITAL IN 5（MD）端子以外の光デジタル端子や同軸デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。（➡ **60** ページ）
・ 同軸デジタル端子から入力した信号も、光デジタル端子から出力されます。
・ 本機とデジタル接続したMDレコーダーで録音をするときは、デジタル出力設定を「PCM」にします。（➡ **61** ページ）
・ 本機にアナログ入力された信号をデジタル端子から出力することはできません。
・ REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。（➡ **23** ページ）

次ページに続く

オーディオ機器を接続する(つづき)

CDレコーダー

アナログ接続

デジタル接続(光デジタル端子)

- DIGITAL IN 4(CDR)端子以外の光デジタル端子や同軸デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。(➡ **60** ページ)
- 同軸デジタル端子から入力した信号も、光デジタル端子から出力されます。
- 本機とデジタル接続したCDレコーダーで録音をするときは、デジタル出力設定を「PCM」にします。(➡ **61** ページ)
- 本機にアナログ入力された信号をデジタル端子から出力することはできません。
- REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。(➡ **23** ページ)

FM/AMチューナー

ビデオ機器を接続する

本機にビデオ機器を接続します。
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
- REC SELECTOR(レックセレクター機能)を使って録音するにはアナログ音声接続が必要です。
- 本機と接続する機器の間に、グラフィックイコライザーなどの機器を接続すると音がひずむことがありますので、ご注意ください。
- 日本ビクター製のAVコンピュリンク対応の機器をお使いの場合には、AVコンピュリンク端子を使って接続すると、一体型システムのような連係操作が可能になります。(➡ **70** ページ)

映像入出力端子について

本機には、映像入出力端子として、次の端子が装備されています。

コンポジット映像端子:
通常の映像端子です。

S映像端子:
映像を輝度信号と色信号に分けたもので、色のにじみなどが低減されます。本機のS映像端子は、ビデオカメラなどのワイドモードや、ワイドテレビなどのワイド画面(スクイーズ)判別信号にも対応するS2映像端子です。

コンポーネント映像端子:
色差信号とも呼ばれ、映像を色信号2本(色の三原色の赤・緑・青を青信号成分と赤信号成分に分けたもの)と輝度信号1本に分けたもので、色の発色が良く、高い映像品位が特長です。

D5映像端子:
扱う信号はコンポーネント映像端子と同じものですが、コード1本で接続でき、送られる映像の信号フォーマットや縦横比(アスペクト比)の検出信号をもっているのが特長です。
BS・110度CSデジタルハイビジョンチューナーやDVDプレーヤーなどに使われています。

これらの端子は、お使いになる映像機器ごとに合わせて使い分けてください。

D映像端子で接続するときのご注意

本機はプログレッシブ(順次走査)方式時1125pまでの信号を扱うことができるD5映像端子を装備しています。このため、D1からD5映像端子までのD映像端子をもったDVDプレーヤーやBS・110度CSデジタルハイビジョンチューナーなどを接続することができます。また、本機では入力された信号をそのまま出力するため、端子のレベルの低い(D1やD2など)テレビではご覧になれないことがあります。このようなときは再生している映像機器側でD映像端子への出力信号のフォーマットを切り換えてご覧ください。切り換えの詳しい説明は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

D映像端子の種類と扱える信号フォーマット一覧

端子の種類	信号フォーマット
D1	525i
D2	525p (525i)
D3	1125i (525i、525p)
D4	750p (1125i、525p、525i)
D5	1125p (750p、1125i、525p、525i)

( )内の数字は、端子の種類に含まれる信号フォーマットですが、機器によっては出力されないことがあります。
表中の「i」はインターレース、「p」はプログレッシブの略です。

ビデオコンバーターについて

本機にはビデオコンバート機能が搭載されています。映像端子やS映像端子からの入力信号を、コンポーネント映像信号に変換しコンポーネント映像端子またはD映像端子から出力することができます。

ただし、コンポーネント映像端子やD映像端子からの入力信号を映像端子やS映像端子から出力することはできません。本機と録画機器が映像端子またはS映像端子で接続されているときは、本機と再生機器を映像端子またはS映像端子でも接続する必要があります。

S映像・映像信号入力時

ビデオコンバート機能によりS映像端子からの入力信号をD映像端子に出力する場合、ワイド画面(スクイーズ)判別信号は出力されません。

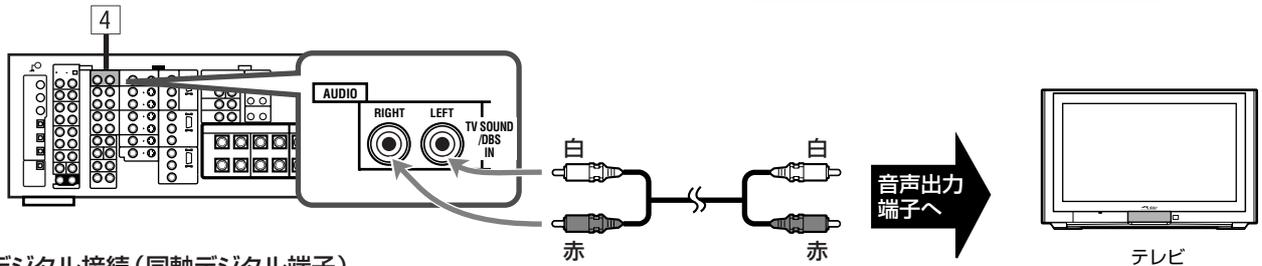
D映像・コンポーネント映像信号入力時

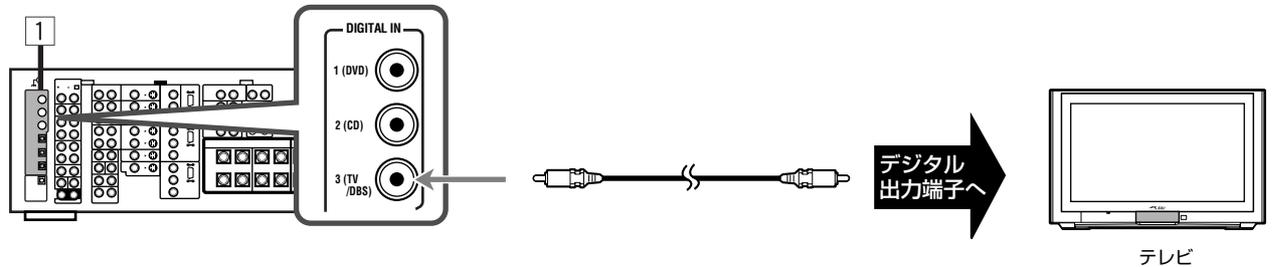
ビデオコンバート機能を使うと、再生映像によっては、画面が乱れることがあります。このような場合には、S映像端子または映像端子を使ってテレビと接続してください。

ビデオ機器を接続する(つづき)

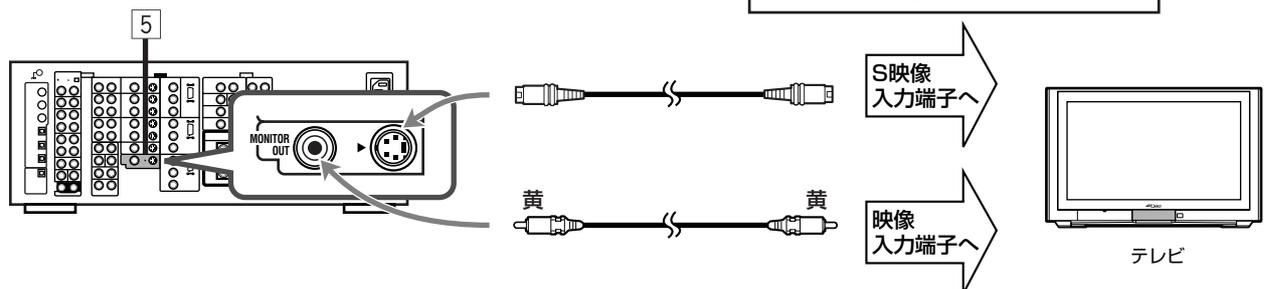
テレビまたはモニター

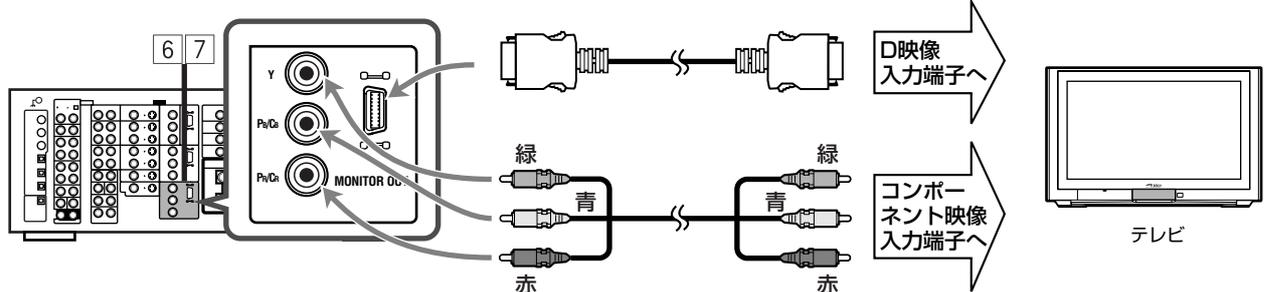
テレビの音声を本機で再生するときは、本体のTV/DBSボタンでソース(音源)名を「TV」に変更します。(➡ **21** ページ)
・ お買い上げ時は、ソース(音源)名が「TV」に設定されています。

テレビの音声を本機で再生するための接続です。

アナログ接続

デジタル接続(同軸デジタル端子)

- **テレビの音声を本機で再生しないときは、接続する必要はありません。**
- DIGITAL IN 3(TV/DBS)端子以外の同軸デジタル端子や光デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。(➡ **60**ページ)
- REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。(➡ **23** ページ)

映像・S映像接続

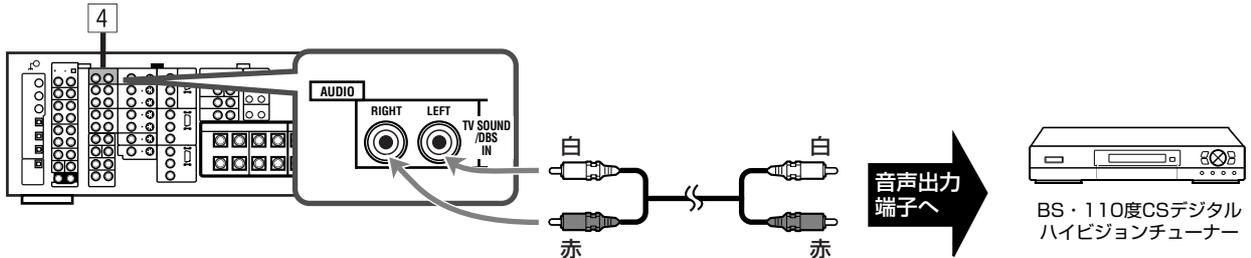
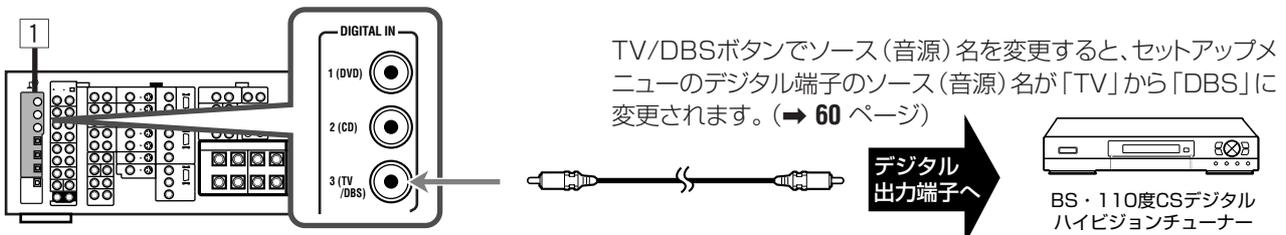
本機に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るための接続です。

- 本機とTVをD映像端子またはコンポーネント映像端子で接続しないときは、再生機器(ビデオデッキ、DVDプレーヤーなど)と本機の接続も、映像またはS映像接続にします。

コンポーネント映像・D映像接続

- D映像端子とコンポーネント映像端子は、どちらか一つだけを接続します。両方同時に接続して使うことはできません。

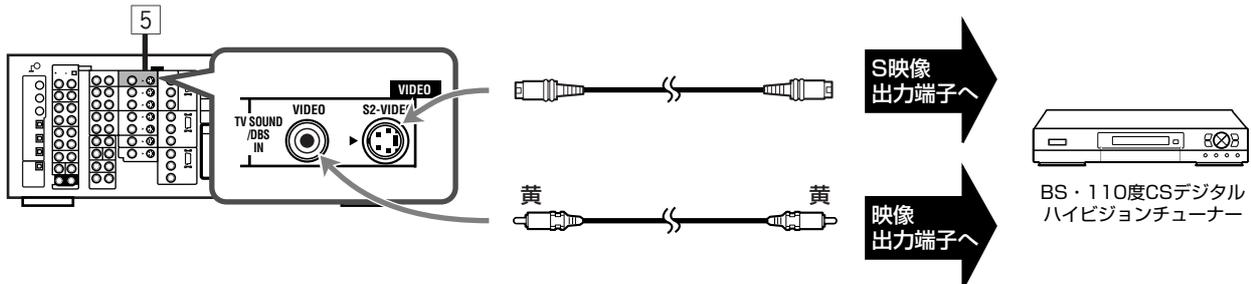
BS・110度CSデジタルハイビジョンチューナー

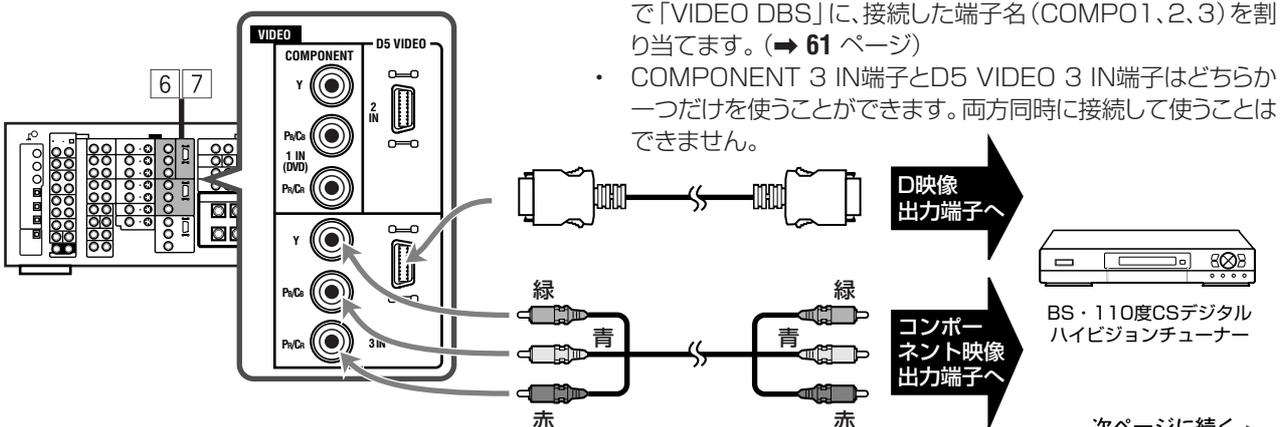
BS・110度CSデジタルハイビジョンチューナーを映像接続するときは、本体のTV/DBSボタンでソース（音源）名を「DBS」に変更します。（➡ **21** ページ）変更しないと、テレビで映像を見ることができません。

- お買い上げ時は、ソース（音源）名が「TV」に設定されています。

アナログ接続

デジタル接続（同軸デジタル端子）

TV/DBSボタンでソース（音源）名を変更すると、セットアップメニューのデジタル端子のソース（音源）名が「TV」から「DBS」に変更されます。（➡ **60** ページ）

- DIGITAL IN 3（TV/DBS）端子以外の同軸デジタル端子や光デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。（➡ **60** ページ）
- REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。（➡ **23** ページ）

映像・S映像接続

- ビデオ入力設定の「VIDEO DBS」を「S/C」にします。（➡ **61** ページ）

コンポーネント映像・D映像接続

- 1〜3のどの端子にも接続することができます。ビデオ入力設定で「VIDEO DBS」に、接続した端子名（COMPO1、2、3）を割り当てます。（➡ **61** ページ）
- COMPONENT 3 IN端子とD5 VIDEO 3 IN端子はどちらか一つだけを使うことができます。両方同時に接続して使うことはできません。

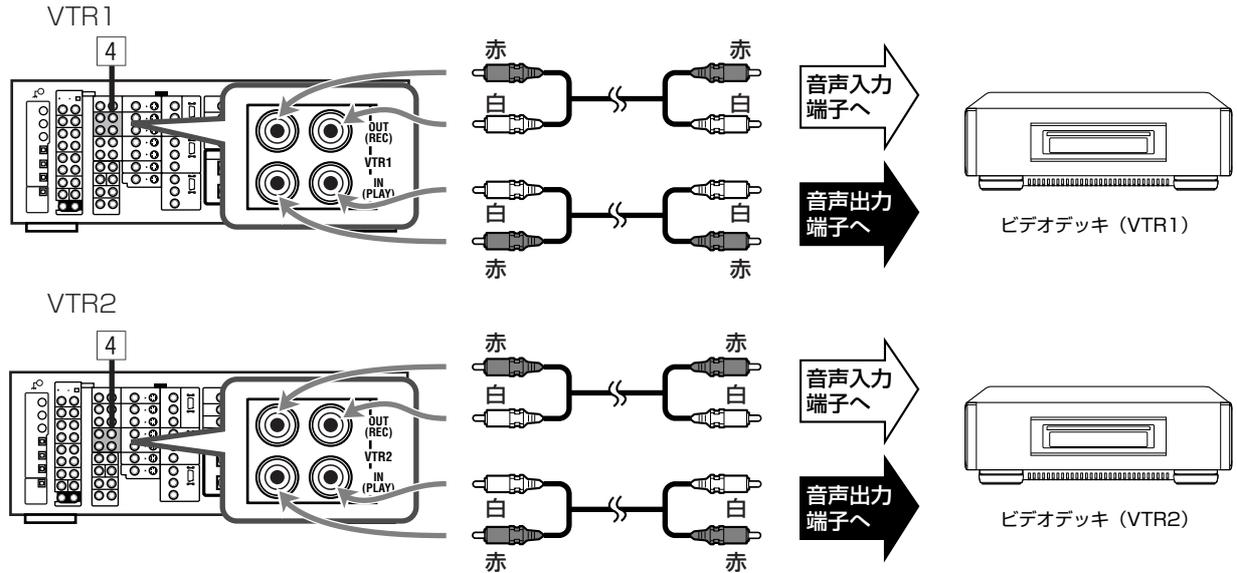
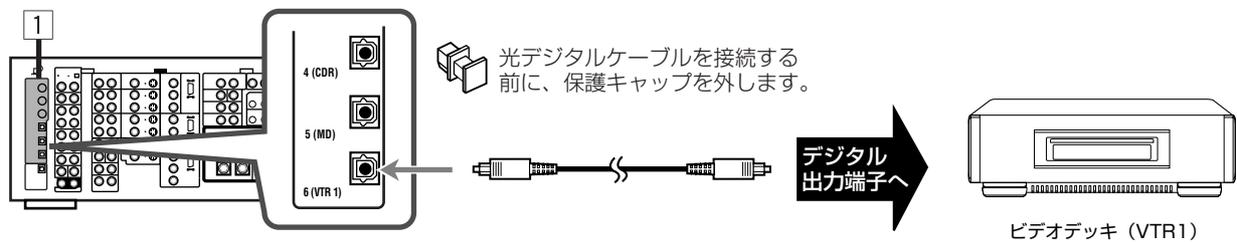
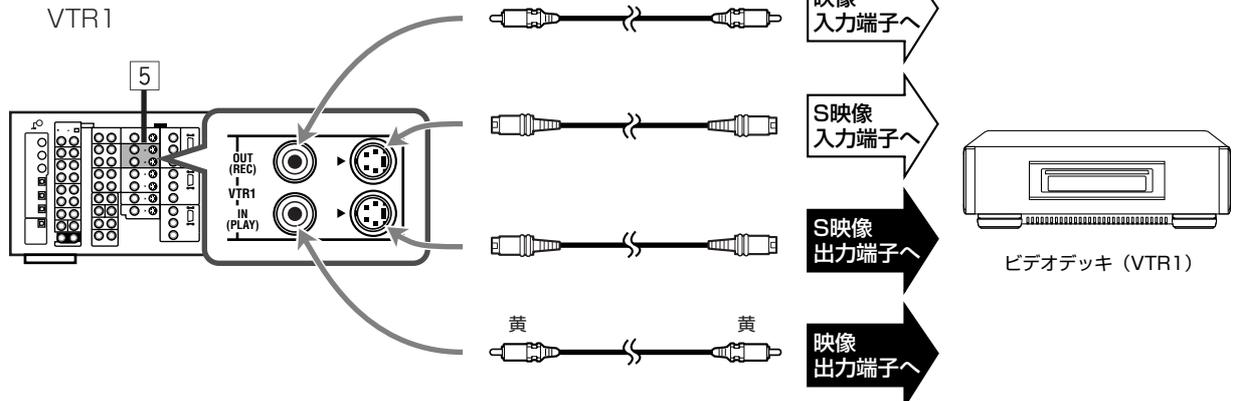
次ページに続く

本機を使いこなす

ビデオ機器を接続する(つづき)

ビデオデッキ

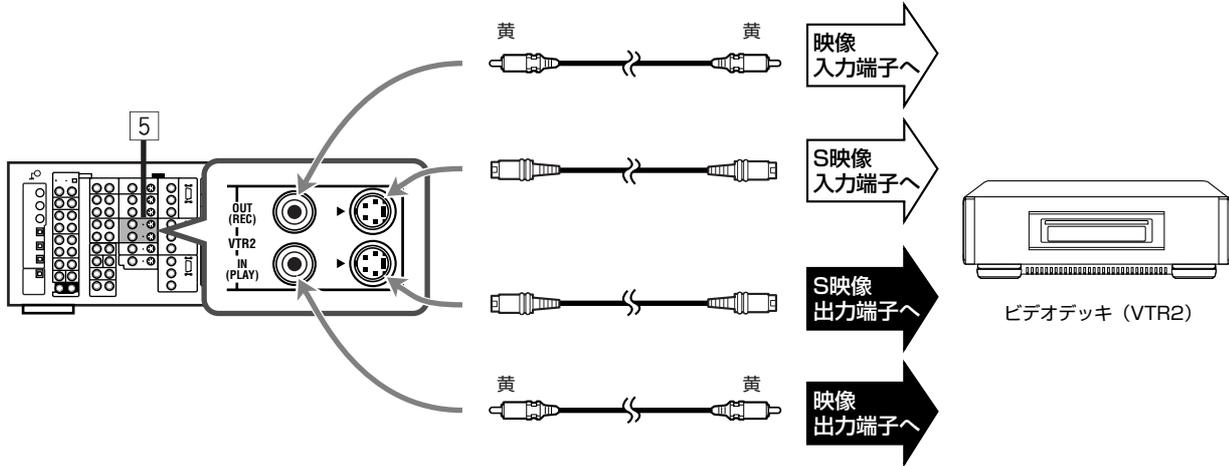
2台のビデオデッキを接続することができます。
本機をセレクターとしてダビングなどをするときは、接続端子にご注意ください。(➡ **43** ページ)
AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、ビデオ入力設定が必要です。(➡ **61**、**70** ページ)

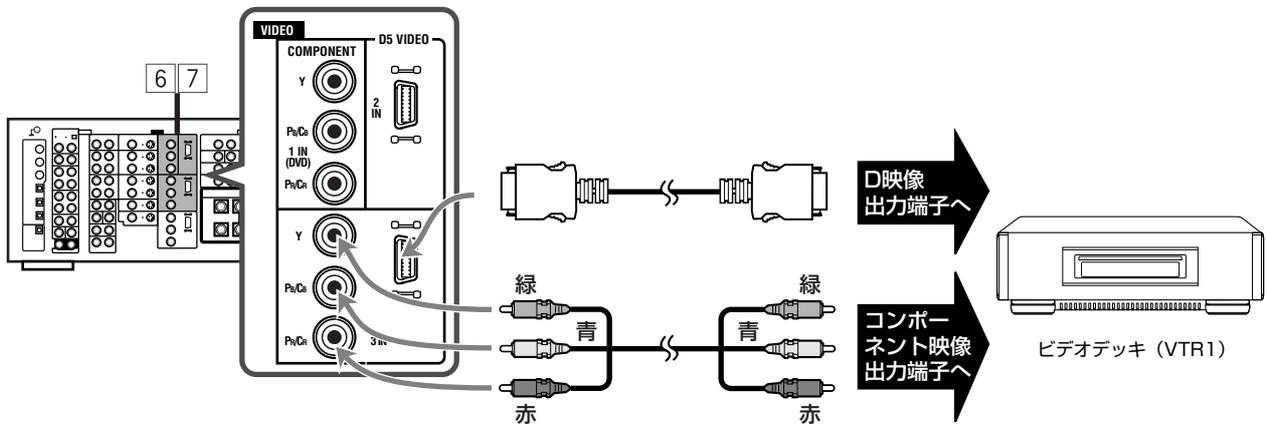
アナログ接続

デジタル接続(光デジタル端子)(VTR1のみ)

- DIGITAL IN 6(VTR1)端子以外の光デジタル端子や同軸デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。(➡ **60** ページ)
- REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続が必要です。(➡ **23** ページ)

映像・S映像接続

- ビデオ入力設定の「VIDEO VTR1」を「S/C」にします。(➡ **61** ページ)
- 再生機器の接続がコンポーネント映像またはD映像接続だけのときは、録画はできません。

ビデオデッキ(つづき)

映像・S映像接続

VTR2

・ 再生機器の接続がコンポーネント映像またはD映像接続だけのときは、録画ができません。

コンポーネント映像・D映像接続(VTR1のみ)

・ 1〜3のどの端子にも接続することができます。ビデオ入力設定で「VIDEO VTR1」に、接続した端子名(COMPO1、2、3)を割り当てます。(➡ **61** ページ)
・ COMPONENT 3 IN端子とD5 VIDEO 3 IN端子はどちらか一つだけを使うことができます。両方同時に接続して使うことはできません。

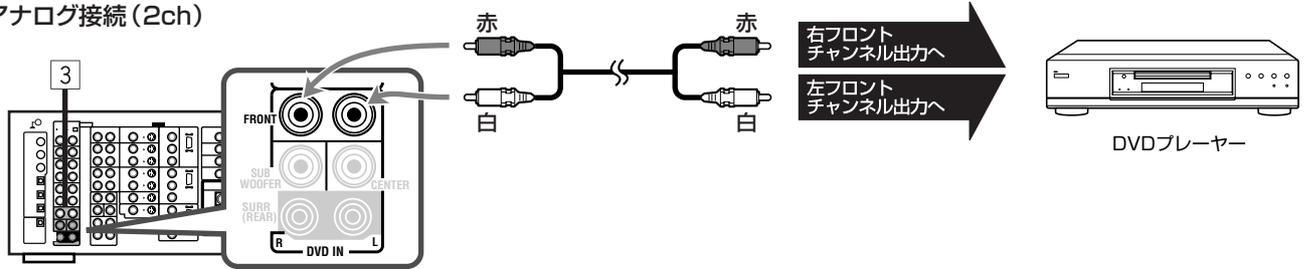
本機を使いこなす

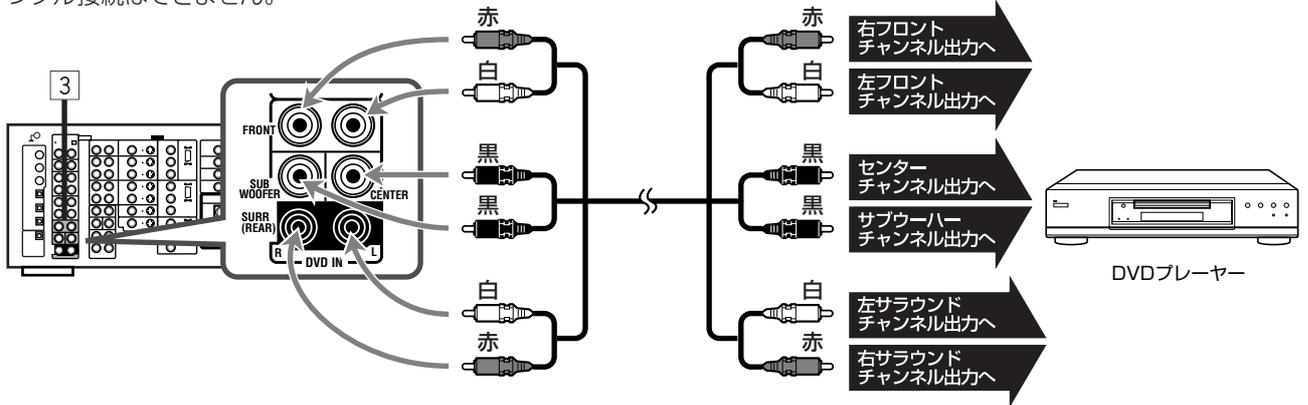
次ページに続く

ビデオ機器を接続する(つづき)

DVDプレーヤー

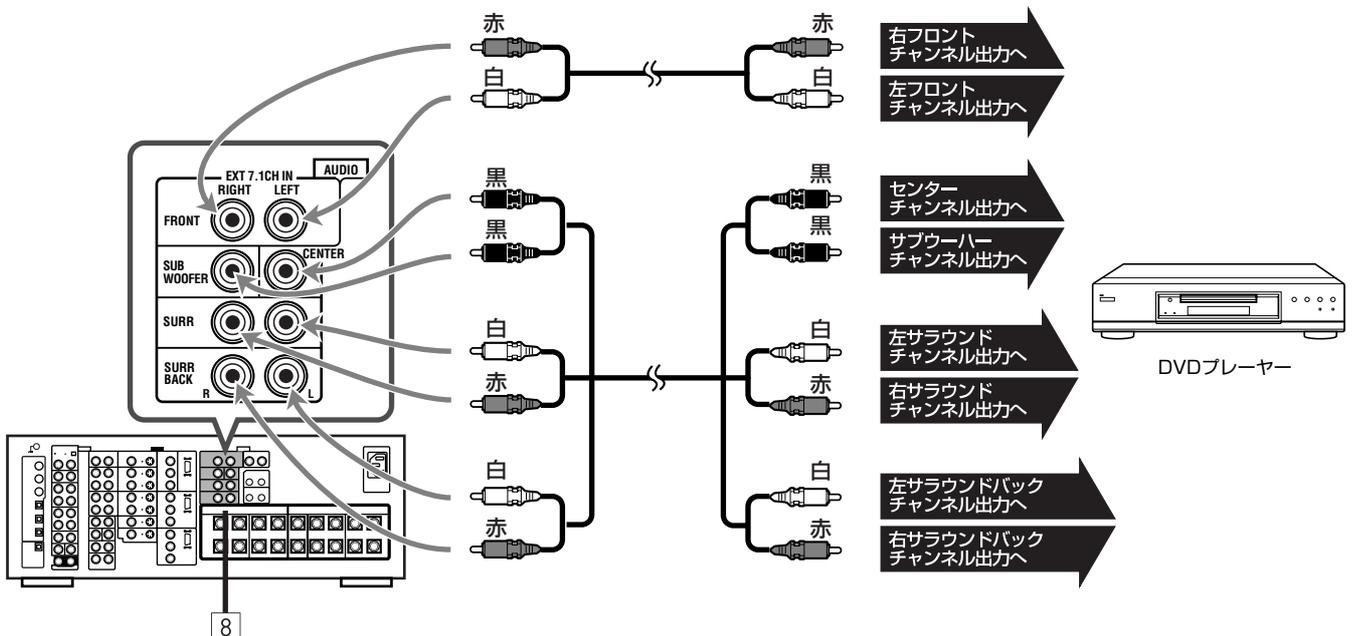
DVDプレーヤーのアナログ接続の方法は、3通りあります。お手持ちのDVDプレーヤーの出力端子をお確かめの上、接続を選んでください。

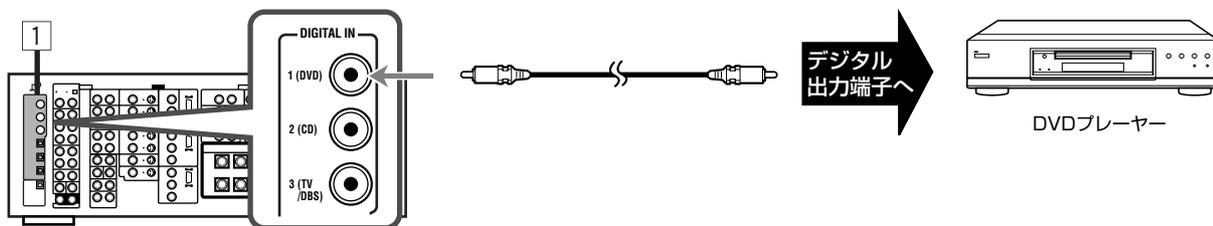
アナログ接続(2ch)

アナログ接続(5.1ch)

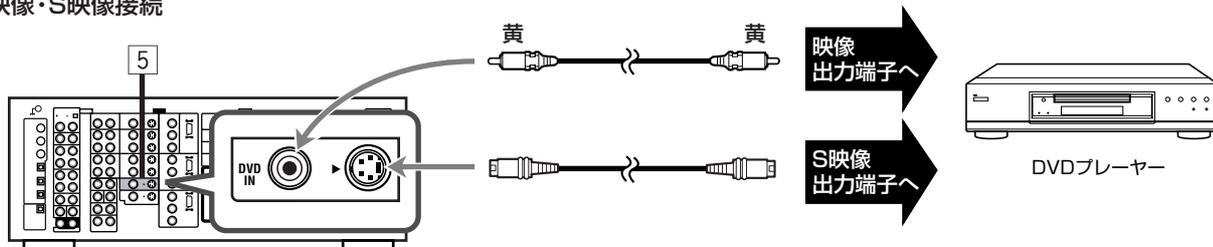
この接続のときは、DVDプレーヤーをソース(音源)に選ぶには、ソース(音源)選択ボタンのDVD MULTIボタンで選びます。デジタル接続はできません。

アナログ接続(7.1ch)

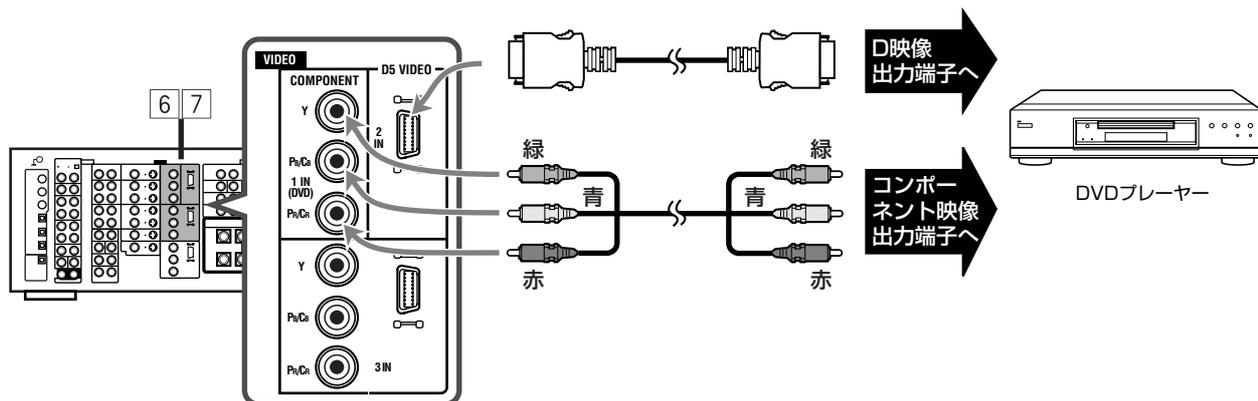
この接続のときは、DVDプレーヤーをソース(音源)に選ぶには、ソース(音源)選択ボタンのEXT 7.1CHボタンで選びます。デジタル接続はできません。

この端子はZIST入力端子となっています。接続する機器によっては、ノイズが発生する場合があります。このようなときは、映像信号コードなど、音声以外のコードを接続することで、ノイズの発生を抑えることができます。

- **DVDソフトの映像を見るには、ソース(音源)選択ボタンのDVDボタンを押してから、EXT 7.1CHボタンを押します。**

DVDプレーヤー(つづき)

デジタル接続(同軸デジタル端子)

・ DIGITAL IN 1(DVD)端子以外の同軸デジタル端子や光デジタル端子に接続するときは、セットアップメニューでの設定が必要です。(➡ **60** ページ)
・ REC SELECTORを使って録音するにはアナログ接続(2ch)が必要です。(➡ **23** ページ)

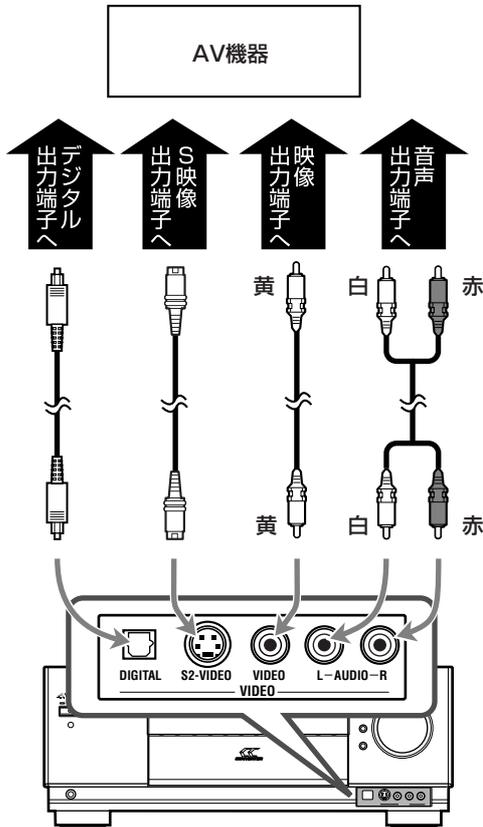
映像・S映像接続

・ ビデオ入力設定の「VIDEO DVD」を「S/C」にします。(➡ **61** ページ)
・ プログレッシブ信号で出力するときは、映像・S映像接続はしないでください。メニュー画面が乱れることがあります。

コンポーネント映像・D映像接続

・ 1〜3のどの端子にも接続することができます。ビデオ入力設定で「VIDEO DVD」に、接続した端子名(COMPO1、2、3)を割り当てます。(➡ **61** ページ)
・ COMPONENT 3 IN端子とD5 VIDEO 3 IN端子はどちらか一つだけを使うことができます。両方同時に接続して使うことはできません。

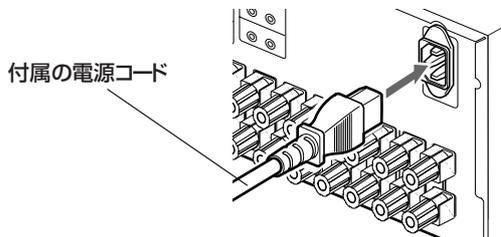
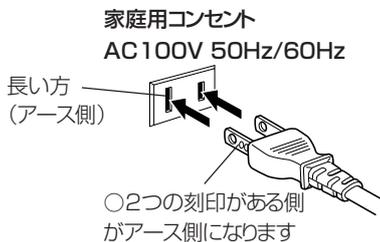
次ページに続く

ビデオ機器を接続する(つづき)

本体の前面VIDEO入力端子に接続する

ビデオカメラ、ゲーム機、ポータブルオーディオ機器などのAV機器を接続します。

光デジタルケーブルは、向きを合わせてそのまま差し込んでください。

電源コードについて

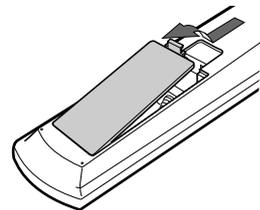
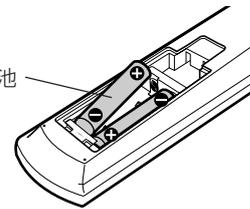
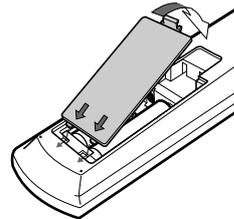
接続がすべて終わってから、付属の電源コードを本体背面の〜AC IN端子に差し込みます。

次に電源プラグを家庭用コンセントにつないでください。電源コードを接続すると、STANDBYランプが赤く点灯します。

電源コードの極性について

本機の電源プラグの一方には、極性を示す刻印があります。これはよりよい音質でお楽しみいただけるよう、各機器の電源コードの極性を合わせるための印です。
刻印が入っている側を家庭用コンセントの差し込み口の長い方(アース側)になるよう差し込みます。

ご注意

電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
電源プラグをコンセントから抜くときは、電源コードではなく、必ず電源プラグを持って抜いてください。
濡れた手で電源プラグに触らないでください。

リモコンについて

付属の単3形アルカリ乾電池をリモコンに入れます。

リモコンを使って操作するときは、リモコンを本体のリモコン受光部に向けてください。

付属の電池は、動作確認用です。
操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池を交換してください。
交換の際は、2本とも同じ種類の新しい乾電池(アルカリ乾電池)と交換してください。

ご注意

長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
乾電池のプラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きは、リモコン内部の表示通り正しく入れてください。
このリモコンには学習(LEARN)機能があり、学習した内容を保持するため、通常のリモコンより電池容量を多く必要とします。電池を交換するときは、必ずアルカリ乾電池をお使いください。

設定・調節

本機の設定・音質の調節などのメニュー操作を、**テレビ画面**（本機とお手持ちのテレビとの映像接続が必要です）または**本体表示窓**を使って行うことができます。ここでは主に、リモコンを使ってのテレビ画面上のメニュー操作を説明します。

メニューについて

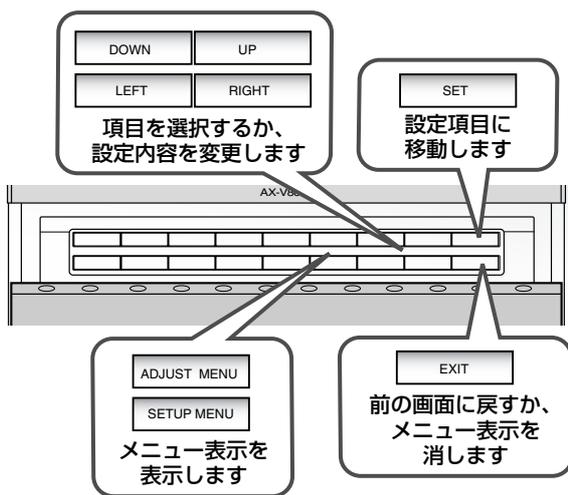
スピーカーの接続と設置、外部機器の接続が終わったら、スピーカーの設定と調節を行ってください。
とくにマルチチャンネル音声をサラウンドで楽しむには、スピーカーの設定と調節が大切です。
これらの設定に2つのメニューが用意されています。

・SETUP MENU（セットアップ メニュー）　：　本機の一般的な設定をするためのメニューです。
スピーカーや外部機器などについて設定を行います。

・ADJUST MENU（アジャスト メニュー）　：　ミッドナイトモードやサラウンド使用中の音質や効果などを調節をするためのメニューです。

メニューは、テレビ画面と本体表示窓に表示されます。どちらのメニューも、リモコンのボタンまたは本体のボタンを使って操作できます。

本体からのメニューの操作

メニュー操作の例として、デジタル音声入力端子のソース（音源）機器名を変更します。

1 SETUP MENUボタンを押す

前回設定したサブメニュー名が表示されます。

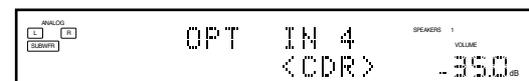
例：SP SETTINGが表示されているとき

なにも操作をしないと、約1分後に通常表示に戻ります。

2 DOWNまたはUPボタンを押して「DIGITAL I/O」を表示させ、SETボタンを押す

「DIGITAL I/O」の設定項目が表示されます。

3 DOWNまたはUPボタンを押して「OPT IN 4」を表示させる

OPT IN 4
<CDR>
-35.0dB

4 RIGHTまたはLEFTボタンを押して登録したいソース（音源）機器名を選ぶ

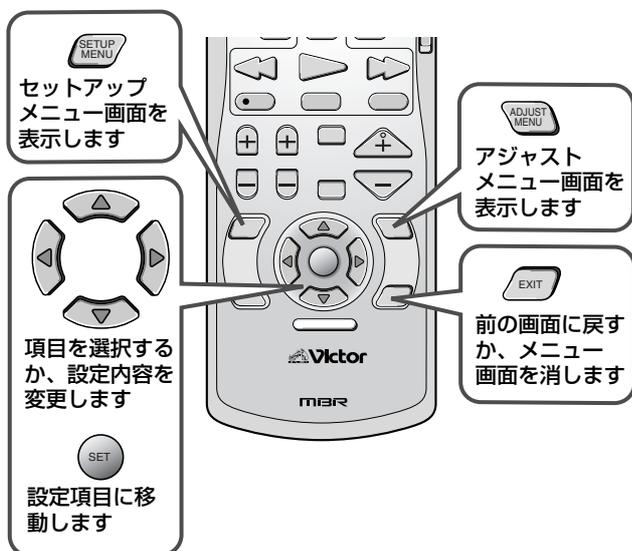
ここでは例として「**DVD**」を選びます。

・操作ガイドの「<」「>」表示はそれぞれ、LEFTボタンとRIGHTボタンでの操作ができるとき表示されます。

5 SETUP MENUボタンを押してメニュー画面を消す

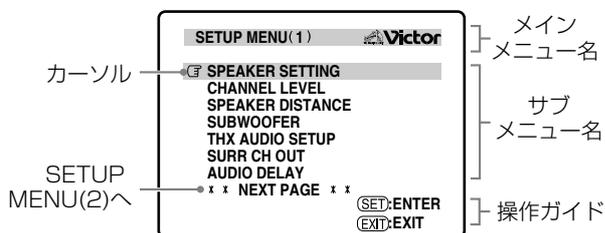
EXITボタンを押すと、サブメニュー「DIGITAL I/O」に戻り、続けて他の項目の設定ができます。もう一度押すと、本体表示窓は通常表示に戻ります。

リモコンからのメニューの操作

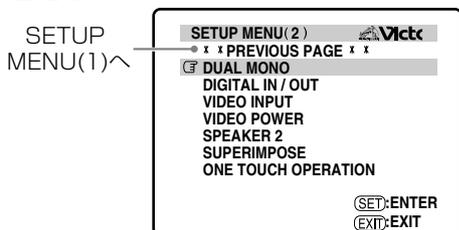
メニュー操作の例として、デジタル音声入力端子のソース(音源)機器名を変更します。

Information

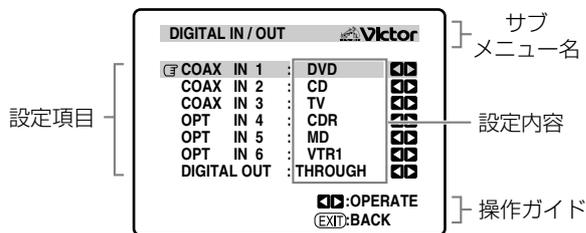
- D映像端子またはコンポーネント映像端子を使ってDVDなどのプログレッシブ映像を再生中にメニューを表示させると、一瞬テレビ画面が乱れることがあります。
- メニュー画面を操作しているとき、本体表示窓にもメニュー画面で選択しているサブメニューと同じサブメニューが表示されます。
- 本体表示窓の最大表示文字数に制限があるため、同じサブメニューや設定項目でも本体表示窓とテレビ画面上に現れる表示が異なるときがあります。
  例:テレビ画面上の「SPEAKER SETTING」は、本体の表示窓では「SP SETTING」と表示されます。
  :テレビ画面上の「SPEAKER DISTANCE」は、本体の表示窓では「SP DISTANCE」と表示されます。

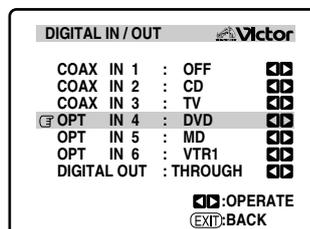
1 SETUP MENUボタンを押す

メインメニューがテレビ画面上に表示されます。
前回設定したサブメニューによって、表示されるメインメニューは「SETUP MENU(1)」または「SETUP MENU (2)」のいずれかになります。

例:SETUP MENU(1)が表示されているとき

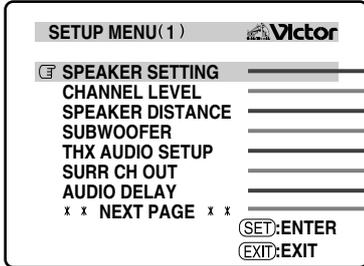
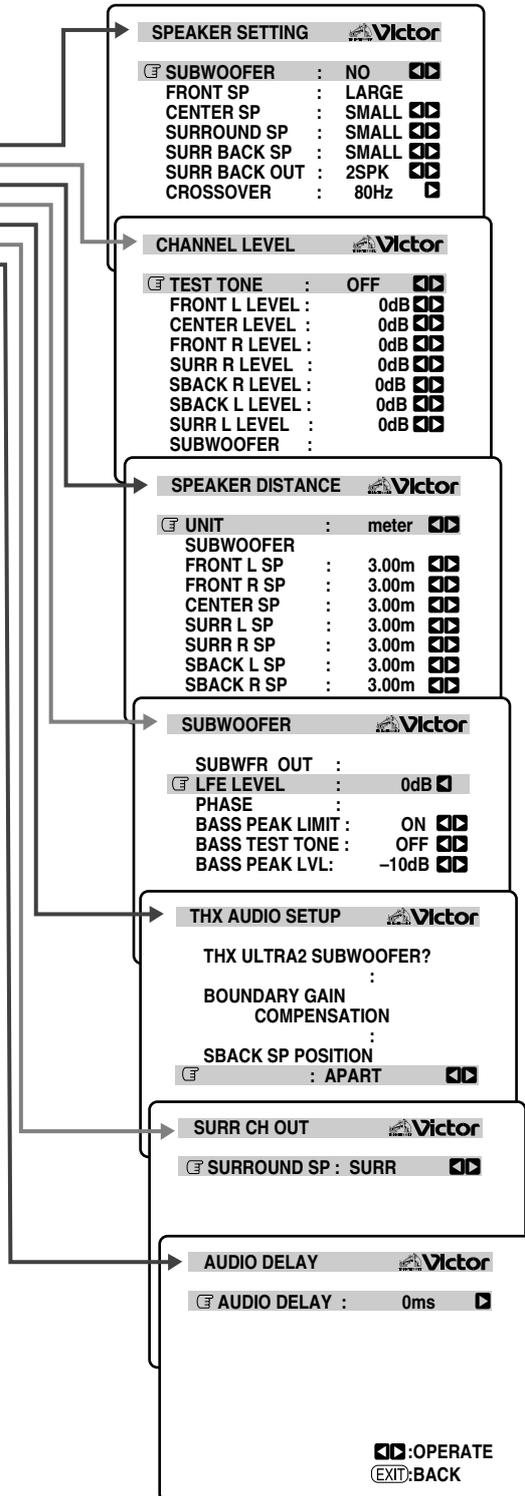
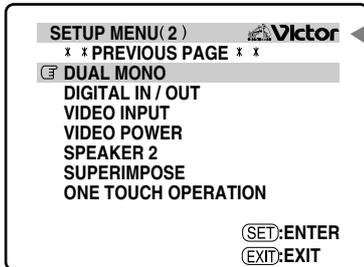
なにも操作をしないと、約1分後に通常画面に戻ります。

2 ▼ボタンを押してカーソルを「** NEXT PAGE **」まで移動させ、「SETUP MENU(2)」を表示させる

3 ▼ボタンを押してカーソルをサブメニュー「DIGITAL IN/OUT」まで移動させ、SETボタンを押す

サブメニュー「DIGITAL IN/OUT」が表示されます。

4 ▼ボタンを押してカーソルを設定項目「OPT IN 4」まで移動させ、►または◄ボタンを押して登録したいソース(音源)機器名を選ぶ

ここでは例として「DVD」を選びます。

5 SETUP MENUボタンを押してメニュー画面を消す

EXITボタンを押すと、SETUP MENU(2)画面に戻り、続けて他の項目の設定ができます。もう一度押すと、メニュー画面は消えます。

セットアップメニューの構成

1 スピーカー設定
本機に接続したどのスピーカーを使用するか、また、接続したスピーカーのサイズについて設定するメニューです。
(➡ 55 ページ)

2 チャンネルレベル設定
テストトーンを「入/切」したり、各スピーカー、サブウーハーの出力レベルを設定するメニューです。
(➡ 56 ページ)

3 スピーカー距離設定
各スピーカーとリスニングポジションまでの距離を設定し、音の到達時間を調節するメニューです。
(➡ 57 ページ)

4 サブウーハー設定
サブウーハーの出力について設定するメニューです。
(➡ 58 ページ)

5 THX設定
THXサラウンド時のサブウーハーやサラウンドバックスピーカーについて設定するメニューです。
(➡ 59 ページ)

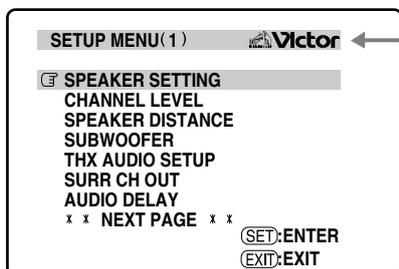
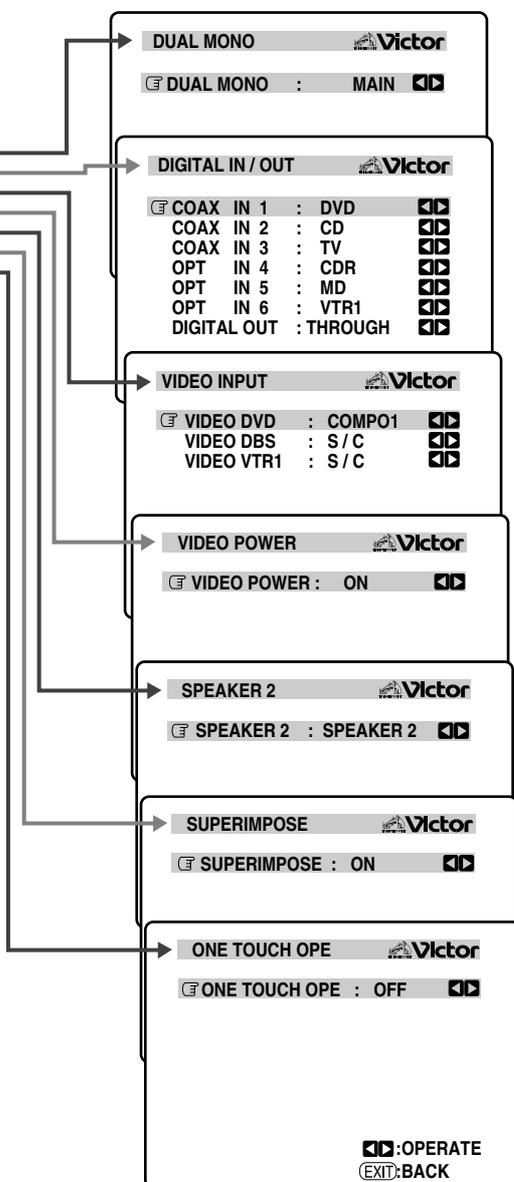
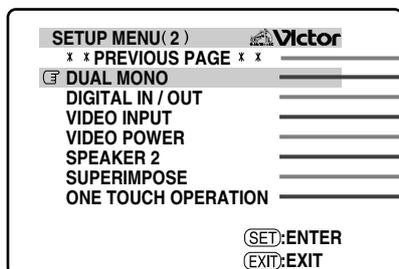
6 サラウンドスピーカー設定
サラウンドスピーカーの出力先について設定するメニューです。
(➡ 59 ページ)

7 オーディオ遅延設定
映像ソフトの音声のタイミングを調節するメニューです。
(➡ 60 ページ)

ご注意

上の画面の項目の設定内容は、工場出荷時のものです。メニューや設定項目のなかには、現在の設定内容により、設定を変更したり、表示したりできないものがあります。(詳しくは、それぞれの説明をご覧ください)

次ページに続く

セットアップメニューの構成(つづき)

8 デュアルモノ設定

デュアルモノ音声のチャンネルを選ぶメニューです。 (➡ 60 ページ)

9 デジタル端子設定

デジタル入力端子のソース(音源)機器名やデジタル出力のフォーマットを設定するメニューです。 (➡ 60 ページ)

10 ビデオ入力設定

コンポーネントビデオ入力端子についての設定をするメニューです。 (➡ 61 ページ)

11 ビデオ回路電源設定

ビデオ入力回路を使うようにするか、しないかを設定するメニューです。 (➡ 62 ページ)

12 バイアンプ設定

2組目のフロントスピーカーについて設定するメニューです。 (➡ 62 ページ)

13 メニュー画面表示設定

本機のメニュー画面の表示について設定するメニューです。 (➡ 62 ページ)

14 主音量記憶設定

主音量をソース(音源)ごとに記憶させるかどうかを設定するメニューです。 (➡ 62 ページ)

セットアップメニューの詳細

各項目の( )内は本体表示窓の表示です。また表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

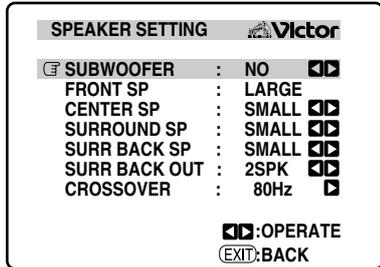
1 スピーカー設定

本機にスピーカーを接続するか、しないかの設定と接続したスピーカーのサイズを設定します。

SPEAKER SETTING Victor

SUBWOOFER : NO
FRONT SP : LARGE
CENTER SP : SMALL
SURROUND SP : SMALL
SURR BACK SP : SMALL
SURR BACK OUT : 2SPK
CROSSOVER : 80Hz

:OPERATE
EXIT:BACK

SP SETTING -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

■ サブウーハー(SUBWOOFER)の設定:

サブウーハーの設定をします。
サブウーハーは低音増強用スピーカーで、フロントスピーカーが低音を出せる大きさ(LARGE)のときは、サブウーハーを「NO」に設定することもできます。

YES	：サブウーハーを接続したとき。本体表示窓の SUBWFR 表示が点灯します。
[NO]	：サブウーハーを接続していないとき。

■ フロントスピーカー(FRONT SP)、センタースピーカー(CENTER SP)、サラウンドスピーカー(SURROUND SP)、サラウンドバックスピーカー(SURR BACKSP)の設定:

各スピーカーのサイズの設定をします。
サイズは搭載ユニットのコーンサイズで分類します。「LARGE」または「SMALL」を選びます。
お買い上げ時は、フロントスピーカーが「LARGE」その他のスピーカーは「SMALL」に設定されています。

LARGE(ラージ)	：12cm以上のユニットが搭載されているとき。
SMALL(スモール)	：12cm以下のユニットのとき。
NONE	：スピーカーを接続していないとき(フロントスピーカーに対しては選べません)。

Information

- サブウーハーを「NO」に設定すると、フロントスピーカーは「SMALL」に設定できません。
- フロントスピーカーを「SMALL」に設定すると、センタースピーカーとサラウンド、サラウンドバックスピーカーは「LARGE」に設定できません。
- サラウンドスピーカーを「SMALL」に設定すると、サラウンドバックスピーカーは「SMALL」に設定されます。
- サラウンドスピーカーを「NONE」に設定すると、サラウンドバックスピーカーは「NONE」に設定されます。
- 「NONE」または「NO」に設定したスピーカーについては、設定・調節はできません。
- ソース(音源)がDVD MULTIまたはEXT 7.1CHでアナログダイレクトを使っていないときは、この設定はサラウンドバックスピーカー以外に対して有効です。

■ サラウンドバックスピーカーの設定(SURR BACK OUT/SBACK OUT):

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を設定します。
「1SPK(スピーカー)」のとき、選べないサラウンドがあります。詳しくは「サラウンドを使う」(➡ **24**～**34** ページ)をご覧ください。

[2SPK]	：サラウンドバックスピーカーを2本使うとき。
1SPK	：サラウンドバックスピーカーを1本使うとき。

Information

- 「1SPK」のときは、R側の端子(SURROUND BACK R)に接続したスピーカーからは音声が出力されません。
- 「1SPK」に設定すると、チャンネルレベル設定のサラウンドバックスピーカー表示は「SBACK LEVEL」に、スピーカー距離設定のサラウンドバックスピーカー表示は「SBACK SP」になります。

■ クロスオーバー周波数の設定(CROSSOVER):

お使いになるフロントスピーカーのユニットサイズに合わせてクロスオーバー周波数を設定します。

[80Hz]	：フロントスピーカーのユニットサイズが12cm以上のとき。 ・THX認定スピーカーをお使いのときは、クロスオーバー周波数を「80Hz」に設定してください。
100Hz	：フロントスピーカーのユニットサイズが10cmくらいのとき。
120Hz	：フロントスピーカーのユニットサイズが8cm以下のとき。

Information

- 接続したすべてのスピーカーをスピーカー設定メニューで「LARGE」に設定したとき、このクロスオーバー設定は「OFF」になります。
- クロスオーバー周波数の設定は、ヘッドホンで「3D HEADPHONE」を使っているときは無効です。
- アナログダイレクトを使っているときは、働きません。

本機を使いこなす

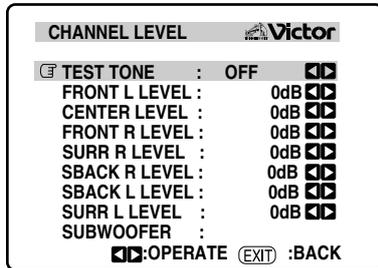
次ページに続く

セットアップメニューの詳細(つづき)

2 チャンネルレベル設定

セットアップメニューで設定した各スピーカーのレベルを調節します。
それぞれのスピーカーからテストトーンを出して、リスニングポジションで、その音量がどのスピーカーからも同じ程度の音量で聞こえるように調節します。

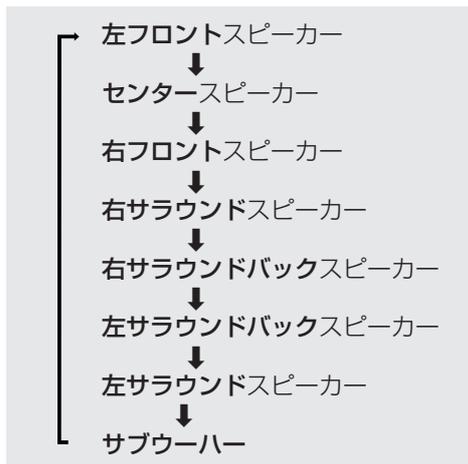
```
CHANNEL LEVEL                Victor

TEST TONE      :   OFF
FRONT L LEVEL :      0dB
CENTER LEVEL  :      0dB
FRONT R LEVEL :      0dB
SURR R LEVEL  :      0dB
SBACK R LEVEL :      0dB
SBACK L LEVEL :      0dB
SURR L LEVEL  :      0dB
SUBWOOFER     :
     :OPERATE  EXIT  :BACK
```

```
ANALOG  L  R  SUBWFR     LEVEL     SPEAKERS 1  VOLUME  -35.0 dB
```

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

■ **テストトーンの設定(TEST TONE):**

テストトーンを出すかどうかの設定をします。
「AUTO」、「MANUAL」を選んでから3秒後にテストトーンが出力されます。

ご注意
テストトーンは、主音量に関わらず0dBで出力されます。
このため大きな音になります。深夜などに、この調節をしないようご注意ください。

AUTO	:スピーカー設定メニューで設定されているすべてのスピーカーから順番に2秒間ずつテストトーンが出力されます。テストトーンが出力される順序は次のようになります。

MANUAL(マニュアル)	:テストトーンを出しながら調節したいスピーカーを▲または▼ボタン使って選ぶとき。
[OFF]	:テストトーンを出力しません。

Information

- スピーカー設定メニューで、「NO」または「NONE」に設定したスピーカーまたはサブウーハーからはテストトーンが出力されません。

■ **各スピーカーのレベル設定:**

メニューには、テストトーンを出して調節できるスピーカーの一覧が表示されます。調節できる範囲は、それぞれのスピーカーについて、－10dBから＋10dBの範囲です。お買い上げ時は「0dB」に設定されています。

FRONT L LEVEL	:左フロントスピーカーのレベル調節をします。
CENTER LEVEL	:センタースピーカーのレベル調節をします。
FRONT R LEVEL	:右フロントスピーカーのレベル調節をします。
SURR R LEVEL	:右サラウンドスピーカーのレベル調節をします。
SBACK R LEVEL	:右サラウンドバックスピーカーのレベル調節をします。
SBACK L LEVEL	:左サラウンドバックスピーカーのレベル調節をします。
SURR L LEVEL	:左サラウンドスピーカーのレベル調節をします。
SUBWOOFER	:サブウーハーのレベル調節をします。

Information

- DVD MULTIおよびEXT 7.1CHの入力では、スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」に設定したスピーカー音声のダウンミックス量の調節ができます。センタースピーカー、サブウーハーは左右フロントスピーカーに均等に、右サラウンドスピーカーは右フロントスピーカーに、左サラウンドスピーカーは左フロントスピーカーにそれぞれ設定したレベルでミキシングされます。ただし、サラウンドバックスピーカーはダウンミックスできません。
- スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」に設定したスピーカーのレベルの調節はできません。
- 市販のサウンドレベルメーターを使って、より精密にレベル設定をするときは、TEST TONE設定を「MANUAL」にして行います。各スピーカーのレベルがリスニングポジションで75 dBになるように調節します。この際、サウンドレベルメーターは、周波数特性設定を「C」、動特性設定を「SLOW」に設定してください。

チャンネルレベルの調節のしかた

レベル調節は、テストトーンの「AUTO」、「MANUAL」のどちらかを選んで行います。

レベル調節の手順:

1. ▼または▲ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して「TEST TONE」を選ぶ
2. ►または◄ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押して「AUTO」または「MANUAL」を選んで、テストトーンを出力する
3. ▼または▲ボタン(DOWNまたはUPボタン)を押して調節したいスピーカーを選ぶ
4. ►または◄ボタン(RIGHTまたはLEFTボタン)を押してスピーカー出力を調節する
5. 各スピーカーのバランスを確認する
6. 必要なら手順 3 と 4 をくり返して、他のスピーカーの調節をする
7. 調節終了後、「TEST TONE」の「OFF」を選んでテストトーンを消す

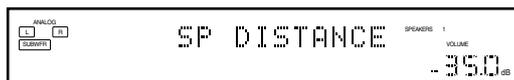
Information

- リモコンのTESTボタンを押しても、このメニューが表示されます。
- テストトーンを「OFF」にしても、それぞれの設定値は調節ができますが、スピーカー全体の音量バランスを調節するのを目的としているため、お勧めできません。

3 スピーカー距離設定

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離による音のばらつきを調節します。各スピーカーの配置がリスニングポジションから等距離にできなかったときも、この距離設定で調節できます。

```
SPEAKER DISTANCE                Victor

UNIT          :  meter   ◄►
SUBWOOFER
FRONT L SP    :  3.00m   ◄►
FRONT R SP    :  3.00m   ◄►
CENTER SP     :  3.00m   ◄►
SURR L SP     :  3.00m   ◄►
SURR R SP     :  3.00m   ◄►
SBACK L SP    :  3.00m   ◄►
SBACK R SP    :  3.00m   ◄►
      ◄►:OPERATE  EXIT:BACK
```

```
ANALOG  L  R  SUBWFR     SP DISTANCE     SPEAKERS 1  VOLUME -35.0dB
```

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

■ 距離の単位の設定(UNIT):

距離単位は「UNIT」でmeter(メートル)とfeet(フィート)から選ぶことができます。

[meter]	メートル表示にするとき。
feet	フィート表示にするとき。

■ それぞれのスピーカーの距離の設定:

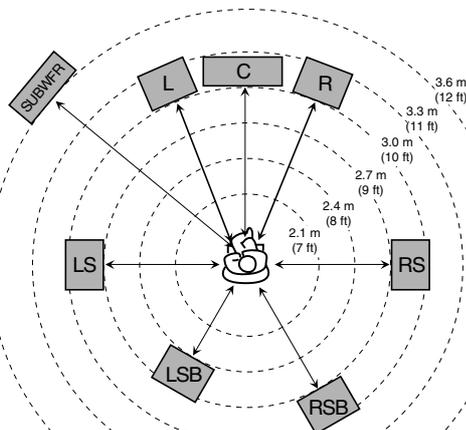
リスニングポジションからスピーカーまでの距離は、0.30m(1.0ft)から9.00m(30.0ft)の範囲内に、0.15m(0.5ft)間隔で設定することができます。
お買い上げ時は、全てのスピーカーが「3.00m」に設定されています。

Information

- スピーカー設定メニューで「NO」または「NONE」にしているスピーカーについては、距離の設定ができません。
- ソース(音源)がDVD MULTIまたはEXT 7.1CHでアナログダイレクトを使っていないときは、この設定はサラウンドバックスピーカー以外に対して有効です。アナログダイレクトのときは、等距離にスピーカーを配置してください。

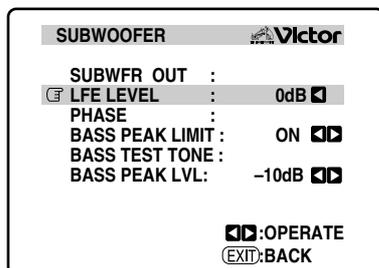
下図のようなスピーカー配置のときは、以下のように設定してください。

サブウーハー SUBWOOFER	: 3.60m (12.0ft)
左フロント (L) FRONT L SP	: 3.00m (10.0ft)
右フロント (R) FRONT R SP	: 3.00m (10.0ft)
センター (C) CENTER SP	: 3.00m (10.0ft)
左サラウンド (LS) SURR L SP	: 2.70m (9.0ft)
右サラウンド (RS) SURR R SP	: 2.70m (9.0ft)
左サラウンドバック (LSB)SBACK L SP	: 2.40m (8.0ft)
右サラウンドバック (RSB)SBACK R SP	: 2.70m (9.0ft)

本機を使いこなす

セットアップメニューの詳細(つづき)

4 サブウーハー設定

```
SUBWOOFER                Victor

SUBWFR OUT   :
LFE LEVEL    :        0dB ◀
PHASE        :
BASS PEAK LIMIT :     ON ◀▶
BASS TEST TONE :
BASS PEAK LVL:     –10dB ◀▶

              ◀▶:OPERATE
              EXIT:BACK
```

```
SUBWOOFER   -35.0dB
```

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

■ **サブウーハーの出力設定(SUBWFR OUT):**

サブウーハーから、LFE信号に加え、フロントスピーカーの低域信号(MAIN)を出力するかどうかを設定します。

[LFE]	: LFE信号とスピーカー設定で「SMALL」に設定されたスピーカーの低域信号を出力します。
LFE+MAIN	: 上に加えて、フロントスピーカーの低域信号を常に出力します。

Information

・スピーカー設定メニューでサブウーハーを「NO」に設定すると、この設定はできません。

■ **LFEアッテネーターの設定 (LFE LEVEL):**

Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AACソフトの再生中に低音がひずむとき、LFEレベルを設定してひずみを減らすことができます。
LFE レベルは、−20dBから0dBの範囲で調節できます。お買い上げ時は「0dB」に設定されています。
► (RIGHT)ボタン または ◄ (LEFT)ボタンを押すごとに、LFEレベルが1dBずつ増減します。

■ **位相を設定する (PHASE):**

サブウーハーの効果が思ったように得られないとき、位相(PHASE)を反転(REVERSE)することで効果が得られることがあります。

[NORMAL]	: 通常はこの設定にします。
REVERSE	: 位相を逆にするとき選びます。

Information

・スピーカー設定メニューでサブウーハーを「NO」に設定すると、この設定はできません。

■ **バスピークリミッターの設定(BASS LIMIT):**

サブウーハーの音がひずまないように、バステストトーンの出力とバスピークレベルの設定を使って調節します。
バスピークレベルで設定したレベル以上の低音信号が入ったとき、信号レベルを抑えます。

[ON]	: バスピークリミッターを使うとき。
OFF	: バスピークリミッターを使わないとき。

Information

・超低域サブウーハーの設定が「YES」のときは、バスピークリミッターは働きません。お買い上げ時は、超低域サブウーハーは「YES」に設定されています。

■ **バステストトーンの出力(BASS TEST TONE):**

バスピークリミッターの設定が「ON」のとき、バステストトーンを使って、バスピークレベルを設定できるようになります。バステストトーンはサブウーハーとその他のスピーカーからスピーカーの接続と設定に応じて出力されます。

ON	: バステストトーンを出力するとき。
[OFF]	: バステストトーンを出力しないとき。

Information

・バスピークリミッターの設定が「OFF」のときはバステストトーンは選べません。

■ **バスピークレベルの設定(BASS LEVEL):**

バスピークリミッターの設定が「ON」のとき、バスピークレベルを設定して、バスサウンドのひずみを抑えることができるようになります。
お買い上げ時は「−10dB」に設定されています。

- バステストトーンが「ON」のときに、► (RIGHT)ボタンを押し続けて、テストトーンがひずむ直前まで出力を大きくしてからSETボタンを押します。そのときのテストトーンのレベルがバスピークレベルとして記憶されます。
- ► (RIGHT)ボタンまたは ◄ (LEFT)ボタンを押すごとに、バスピークレベルが1dBずつ増減します。

Information

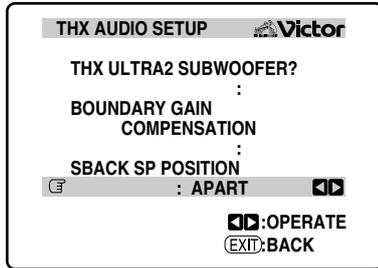
・バスピークリミッターの設定が「OFF」のときはバスピークレベルは設定できません。
・バステストトーンの設定を「ON」にしたとき、バスピークレベルはリセットされ「−−−dB」になります。

5 THX設定

THXサラウンドのためのスピーカー設定をします。

THX SETUP -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

Information
- 超低域サブウーハーの設定が「NO」のとき、この設定はできません。

■ 超低域サブウーハーの設定(THX ULTRA2 SUBWFR):

お使いのサブウーハーが超低域(周波数特性20Hz程度)対応サブウーハーかどうかを設定します。

[YES]	: THX Ultra2対応サブウーハーまたは超低域(周波数特性20Hz程度)対応サブウーハーのとき選びます。
NO	: 通常のサブウーハーのとき選びます。

Information
- スピーカー設定メニューでサブウーハーを「NO」に設定すると、この設定はできません。
- 超低域サブウーハーの設定が「YES」のときは、バスピークリミッターは働きません。

■ 壁面干渉(Boundary Gain)のための設定 (BGC):

超低域音声では、特定の周波数で大きく壁面干渉を起こし、忠実な再生ができないことがあります。これを抑え、自然な低域音声に調節します。

ON	: 壁面干渉による低域効果の減衰を抑えます。
[OFF]	: 壁面干渉を抑えません。

■ サラウンドバックスピーカーの間隔設定 (SBACK POSI):

THX Ultra2、THX Musicモードで7.1chサラウンド再生をするときに、2つのサラウンドバックスピーカー間の距離に応じて設定します。

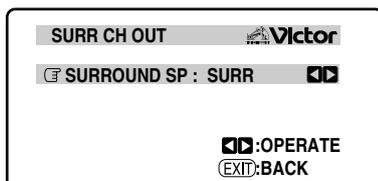
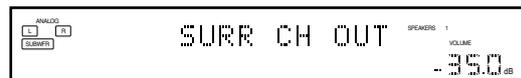
TOGETHER(トゥギャザー)	: 間隔が30cm以内のとき選びます。THX Ultra2、THX Musicモードでは、この設定を推奨します。
CLOSE(クロース)	: 間隔が30cmから120cmのとき選びます。
[APART](アパート)	: 間隔が120cm以上のとき選びます。

Information
- スピーカー設定メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」または「1SPK」に設定すると、この設定はできません。

6 サラウンドスピーカー設定

5.1chソフトを再生するときの、サラウンドスピーカーチャンネルの出力先について設定するメニューです。

SURR CH OUT -35.0dB

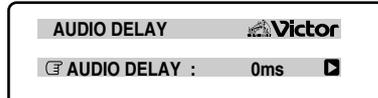
表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

[SURR]	: サラウンドスピーカーチャンネルをサラウンドスピーカーから出力します。
SBACK	: サラウンドスピーカーチャンネルをサラウンドバックスピーカーから出力します。
SURR＋SBACK	: サラウンドスピーカーチャンネルをサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの両方から出力します。

Information
- 7.1chサラウンドのときは、この設定は無効になります。
- スピーカー設定メニューでサラウンドバックスピーカーを「NONE」または「1SPK」に設定すると、この設定はできません。

セットアップメニューの詳細(つづき)

7 オーディオ遅延設定

プロジェクターで映像処理をおこなった場合など、映像と音声に若干のズレが生じることがあります。この設定で、映像と音声のズレを補正します。お買い上げ時は「0ms」に設定されています。

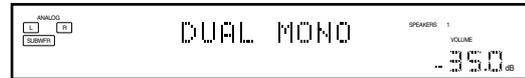
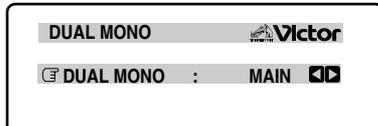
AUDIO DELAY Victor
AUDIO DELAY : 0ms

AUDIO DELAY -35.0dB

► (RIGHT)ボタンまたは ◄ (LEFT)ボタンを押して、音声出力のタイミングを20msごとに、0msから200msの範囲で遅らせます。

8 デュアルモノ設定

デュアルモノ(DUAL MONO)ソフトには、テレビの2カ国語放送のように左チャンネルと右チャンネルに別々の音声が入っています。この設定で、音声の聴き方を設定します。

DUAL MONO Victor
DUAL MONO : MAIN

DUAL MONO -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

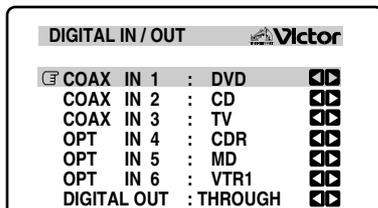
[MAIN(メイン)]	左チャンネルを選びます。デュアルモノソフト再生時には、スピーカー表示の「L」が点灯します。音声は左右のフロントスピーカーから出力されます。
SUB(サブ)	右チャンネルを選びます。デュアルモノソフト再生時には、スピーカー表示の「R」が点灯します。音声は左右のフロントスピーカーから出力されます。
ALL	両チャンネルを選びます。デュアルモノソフト再生時には、スピーカー表示の「L」「R」が点灯します。左右のフロントスピーカーからそれぞれ異なる音声が出力されます。

Information
- デュアルモノソフトを再生すると、本体表示窓のDUAL表示が点灯します。本設定は、デュアルモノソフトにのみ有効です。
- デュアルモノソフトの再生時に、サラウンドが「入」でセンタースピーカーを使っているときは、どの音声もセンタースピーカーから聞こえます。

9 デジタル端子設定

デジタル入力端子のソース(音源)機器名やデジタル出力のフォーマットを設定します。

DIGITAL IN / OUT Victor
COAX IN 1 : DVD
COAX IN 2 : CD
COAX IN 3 : TV
OPT IN 4 : CDR
OPT IN 5 : MD
OPT IN 6 : VTR1
DIGITAL OUT : THROUGH

DIGITAL I/O -35.0dB

お買い上げ時は、次のように設定されています。

COAX	IN 1 : DVD	OPT	IN 4 : CDR
COAX	IN 2 : CD	OPT	IN 5 : MD
COAX	IN 3 : TV	OPT	IN 6 : VTR1

■ **デジタル端子の接続機器名の設定 (COAX IN 1、COAX IN 2、COAX IN 3、OPT IN 4、OPT IN 5、OPT IN 6):**

本体背面の同軸デジタル端子(COAX IN 1、COAX IN 2、COAX IN 3)と光デジタル端子(OPT IN 4、OPT IN 5、OPT IN 6)に、AV機器名を割り当てます。

▼ (DOWN)ボタンまたは ▲ (UP)ボタンで、デジタル端子を選び、► (RIGHT)ボタンまたは ◄ (LEFT)ボタンでAV機器名を選びます。選べるAV機器名は次の6つです。

DVD、CD、TVまたはDBS*、CDR、MD**、VTR1

Information
- * 本体のTV/DBSボタンの登録名が表示されます。(➡ 21 ページ)
- **本体のTAPE/MDボタンの登録名に関わらず「MD」と表示されますが、「MD」に変更しないとデジタル接続はできません。(➡ 21 ページ)
- 異なるデジタル端子に同じ機器名を割り当てることはできません。先に設定したデジタル端子に「OFF」と表示され、使用できなくなります。

9 デジタル端子設定(つづき)

■ 光デジタル出力端子の設定 (DIGITAL OUT):

デジタル入力端子からの信号を、PCMフォーマットで出力するか、そのまま出力するかの設定をします。アナログ端子に入力された信号には働きません。

PCM	: CDなどのPCM信号はそのまま、ドルビーデジタル信号、DTSデジタル信号、MPEG-2 AAC信号は、ミックスダウンしたPCMの2チャンネル信号として出力します。このとき、CC コンバーターが「入」になっていると、出力される信号は20ビットとなります。(DTS 96/24信号入力時をのぞく)
[THROUGH(スルー)]	: 入力された信号のまま出力します。

Information

- PCMにミックスダウンされた信号は、ドルビーデジタルデコーダーなどを接続しても、マルチチャンネルにはなりません。外部にデコーダーを接続して処理したいときは、「THROUGH」に設定してください。

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

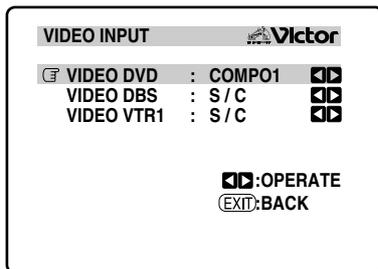
10 ビデオ入力設定

接続したビデオ機器の接続端子と種類を、機器ごとに設定します。正しく設定しないと再生映像が見えなくなることがあります。

VIDEO INPUT　Victor

☞ VIDEO DVD : COMPO1 ◀▶
VIDEO DBS : S / C ◀▶
VIDEO VTR1 : S / C ◀▶

◀▶:OPERATE
EXIT:BACK

ANALOG L R SUBWFR　VIDEO INPUT　SPEAKERS 1　VOLUME -35.0dB

次のビデオ機器について設定できます。

VIDEO DVD : DVDプレーヤー
VIDEO DBS* : BS･110度CSデジタルハイビジョンチューナー
VIDEO VTR1 : ビデオデッキ

COMPO1(コンポーネント)	: ビデオ機器をCOMPONENT 1 IN (DVD) 端子に接続したとき選びます。
COMPO2(コンポーネント)	: ビデオ機器をD5 VIDEO 2 IN 端子に接続したとき選びます。
COMPO3(コンポーネント)	: ビデオ機器をCOMPONENT 3 IN またはD5 VIDEO 3 IN 端子に接続したとき選びます。
S/C	: ビデオ機器をVIDEO (映像) 端子またはS2-VIDEO (S映像) 端子に接続したとき選びます。

お買い上げ時は、次のように設定されています。

VIDEO DVD	: COMPO1
VIDEO DBS	: S/C
VIDEO VTR1	: S/C

Information

＊ 本体のTV/DBSボタンの登録名に関わらず「DBS」と表示されますが、「DBS」に登録していないと再生映像を正しく見ることはできません。(➡ **21** ページ)

- 異なるビデオ機器に同じコンポーネント端子(D映像端子)名(COMPO1、COMPO2、COMPO3)を割り当てることはできません。先に設定したビデオ機器に「S/C」が割り当てられます。

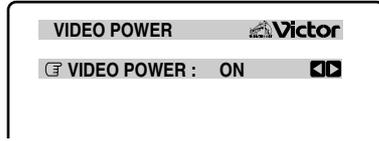
本機を使いこなす

セットアップメニューの詳細(つづき)

11 ビデオ回路電源設定

本機のビデオ回路に電源を供給するかどうかの設定です。
ビデオ回路が働いていると、映像信号が音質に影響をあたえることがあります。映像を消して音質を優先したいときにこの設定を「OFF」にします。

VIDEO POWER Victor
VIDEO POWER : ON

VIDEO POWER -35.0dB

[ON]:	ビデオデッキやDVDプレーヤーなどの映像ソースを楽しむとき。通常はこの設定を選びます。
OFF :	映像を出力しないとき。

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

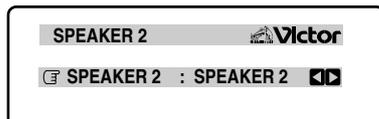
Information

- この設定を「OFF」にしても、セットアップメニューやアジャストメニュー表示は一時的に表示されます。

12 バイアンプ設定

本体背面のFRONT 2 SPEAKERS端子に接続したスピーカーを、2組目のフロントスピーカーとして使うか、バイアンプ向けに使うかを設定します。

SPEAKER 2 Victor
SPEAKER 2 : SPEAKER 2

SPEAKER 2 -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

[SPEAKER2] :	2組目のフロントスピーカーとして使うとき選びます。
BI-AMP OUT :	バイアンプ向けに使うとき選びます。本体表示窓のBI-AMP表示が点灯します。

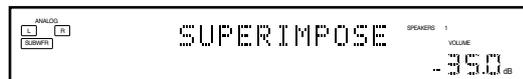
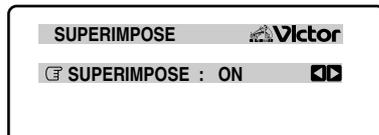
Information

- 「BI-AMP OUT」に設定すると、本体のSPEAKERS 2ボタンは働きません。また、サラウンドバックスピーカーも使えなくなります。
- スピーカー設定で、サラウンドバックスピーカーを「SMALL」または「LARGE」に設定すると、本設定は自動的に「SPEAKERS2」になります。

13 メニュー画面表示設定

本機のメニュー画面を表示させたとき、どのように表示するかを設定します。

SUPERIMPOSE Victor
SUPERIMPOSE : ON

SUPERIMPOSE -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

[ON]:	再生映像に重ねて、メニュー表示をします(スーパーインポーズ)。
OFF :	再生映像を消して、メニュー表示だけの画面を表示します。

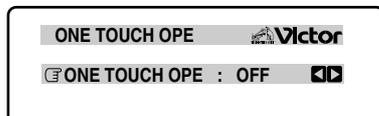
Information

- 本機にビデオ機器がD映像端子またはコンポーネント端子のみで接続されていると、スーパーインポーズ表示はできません。
- 再生映像によっては、スーパーインポーズ表示中のメニュー表示がブレたりズレたりすることがあります。

14 主音量記憶設定

ソース(音源)ごとに、主音量を記憶させるかどうかを設定します。

ONE TOUCH OPE Victor
ONE TOUCH OPE : OFF

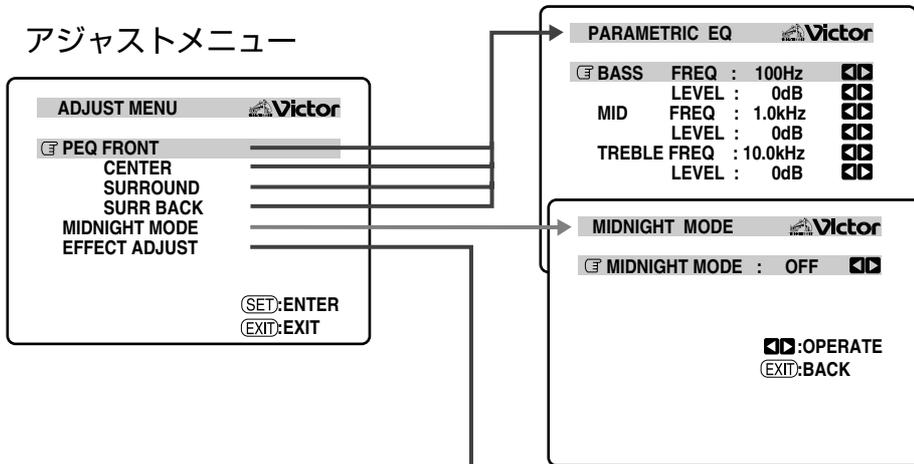
ONE TOUCH -35.0dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

ON :	主音量をソース(音源)ごとに記憶します。本体表示窓にONE TOUCH OPERATION表示が点灯します。
[OFF] :	主音量を記憶しません。

Information

- 設定を「ON」にすると、選ばれているソース(音源)以外のの主音量は、以前の設定値(お買い上げ時は無音)に設定されます。

アジャストメニューの構成

アジャストメニューはサラウンド（THXサラウンドは除く）の音質や効果を調節するメニューです。
選んだサラウンドによって調節できる項目が異なります。
アナログダイレクト時やTHXサラウンド時は、アジャストメニューは使えません。

① **パラメトリックイコライザー設定**
各スピーカーの帯域ごとのレベルを調整するメニューです。
（➡ **64** ページ）

② **ミッドナイトモード設定**
ダイナミックレンジの調節をします。（➡ **65** ページ）

③ **エフェクト設定**
サラウンドの調節をします。サラウンドごとに異なります。
（➡ **65** ページ）

・サラウンドモードが、いずれかのDSPモード(「ALL CH STEREO」はのぞく)のとき

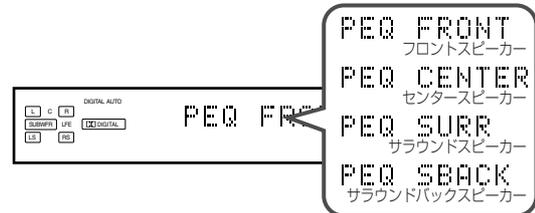
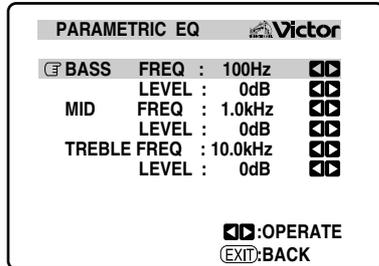
・サラウンドモードが、「 PRO LOGIC Ⅱ MUSIC(プロロジック2ミュージック)」のとき

・サラウンドモードが、「NEO:6 MUSIC(ネオ・シックス ミュージック)」のとき

・上記以外のサラウンドモード(「ALL CH STEREO」はのぞく)、ソース(音源)がDVD MULTIまたはEXT 7.1CHでDSPモードを使っていないとき

アジャストメニューの詳細

① パラメトリックイコライザー設定

お使いになるスピーカーにあわせて調節をすることで音質を補正することができます。
また、この調節は各スピーカーごとに設定できます。

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

スピーカーごとの調節をする前に:

パラメトリックイコライザーの調節は、現在サラウンドで使われているスピーカーに対してのみ行うことができます。本体表示窓のスピーカー表示(➡ **28** ページ)で、調節できるスピーカーを確認してください。
調節は、スピーカーごとに、それぞれ低音域、中音域、高音域の周波数とレベルを設定します。
これらの設定を変更するときは、選ぶ音域とレベルによっては全体のバランスがくずれることがあるのでご注意ください。

■ 各スピーカーの調節:

項目	内容
BASS FREQ (バス フリーケンシー)	:次の中から低音域の周波数を選びます。63Hz、80Hz、[100Hz]、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、320Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1kHz
BASS LEVEL (バス レベル)	:低音域の強調の程度を選びます。[0dB]±6dB
MID FREQ (ミドル フリーケンシー)	:次の中から中音域の周波数を選びます。250Hz、320Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、[1.0kHz]、1.25kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz
MID LEVEL (ミドル レベル)	:中音域の強調の程度を選びます。[0dB]±6dB
TREBLE FREQ (トレブル フリーケンシー)	:次の中から高音域の周波数を選びます。1.0kHz、1.25kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.3kHz、8.0kHz、[10.0kHz]、12.5kHz、16.0kHz
TREBLE LEVEL (トレブル レベル)	:高音域の強調の程度を選びます。[0dB]±6dB

Information

- ソース(音源)が、EXT 7.1CHまたはDVD MULTIのときはサラウンドバックスピーカー(SURR BACK)の調節はできません。
- 周波数の設定値は、他の音域の設定によって選べる範囲が変化します。各音域とも隣り合う音域の設定値の4倍以内の周波数を選ぶことはできません。例えばBASS FREQで調節したい周波数が100Hzのとき、これより高い音域のMID FREQは400Hz以上、TREBLE FREQは1.6kHz以上の周波数でないと調節することができません。

■ パラメトリックイコライザー調節のしかた:

イコライザー調節の手順:

1 ▼(DOWN)ボタンまたは▲(UP)ボタンを押してスピーカーを選び、SETを押す
・調節画面が表示されます。

2 ▼(DOWN)ボタンまたは▲(UP)ボタンを押して調節したい音域(BASS、MID、HIGH)を選ぶ

3 ►(RIGHT)ボタンまたは◄(LEFT)ボタンを押して、調節したい周波数を選ぶ
・調節の順序は、周波数→レベルの順で調節します。

4 ▼(DOWN)ボタンまたは▲(UP)ボタンを押して調節したい周波数のレベルを選ぶ

5 ►(RIGHT)ボタンまたは◄(LEFT)ボタンを押して、レベルを調節する
・「BASS LEVEL」、「MID LEVEL」、「TREBLE LEVEL」のどれかが調節されると、本体の表示窓にPARAMETRIC EQ表示が点灯します。

6 必要なら手順**2**から**5**をくり返して、他の項目の調節をする

7 EXITを押す

8 必要なら手順**1**から**5**をくり返して、他のスピーカーの調節をする。

Information

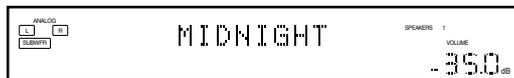
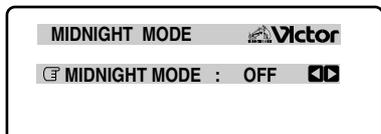
- 調節を元に戻すには、各スピーカーの調節画面を呼び出して、「BASS LEVEL」、「MID LEVEL」、「TREBLE LEVEL」の設定値を 0dBにします。
本体の表示窓のPARAMETRIC EQ表示が消灯します。

② ミッドナイトモード設定

音のダイナミックレンジを、2段階に調節できます。とくに深夜のご使用に効果的です。

MIDNIGHT MODE Victor

MIDNIGHT MODE : OFF

MIDNIGHT -35.0 dB

表中の[ ]内の設定が、お買い上げ時の設定です。

ミッドナイトモードは2段階あり、音量に合わせて切り換えて使います。
ミッドナイトモードを使うと、音量が小さいときでもバランス良くサラウンド効果を楽しむことができます。
ANALOG DIRECTボタンを押したときは一時的に解除されます。もういちどANALOG DIRECTボタンを押すと、ミッドナイトモードに戻ります。

- Dolby Digitalソフト、DTSソフトに対しては、Dolby社の「Dynamic Range Compression(ダイナミックレンジコンプレッション)」機能に準じます。
  その他のソフトに対しては、ビクター独自の方法で調節します。

MIDNIGHT1(ミッドナイト)	ダイナミックレンジを少し抑えるとき選びます。本体表示窓のMIDNIGHT MODE表示が点灯します。
MIDNIGHT2(ミッドナイト)	ダイナミックレンジを十分抑えるとき選びます。(深夜のご使用に向いています)本体表示窓のMIDNIGHT MODE表示が点灯します。
[OFF]	十分なダイナミックレンジの音声を楽しむとき選びます。本体表示窓のMIDNIGHT MODE表示が消えます。

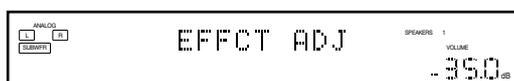
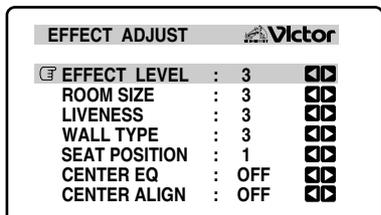
③ エフェクト設定

サラウンドの効果を調節します。サラウンドやスピーカー設定によって、調節できる内容が異なります。

● **サラウンドモードが「ALL CH STEREO」以外のDSPモードのとき**

EFFECT ADJUST Victor

EFFECT LEVEL	:	3
ROOM SIZE	:	3
LIVENESS	:	3
WALL TYPE	:	3
SEAT POSITION	:	1
CENTER EQ	:	OFF
CENTER ALIGN	:	OFF

EFFCT ADJ -35.0 dB

EFFECT LEVEL(エフェクト レベル) : DSPの効果を「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなると、DSPの効果が大きくなります。(通常は「3」を選びます)

ROOM SIZE(ルーム サイズ) : 仮想的な空間の大きさを「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなると反射音の到達時間が遅くなり、より大きな空間での音響効果を演出します。(通常は「3」を選びます)

LIVENESS(ライブネス) : 壁の反響率を「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなると反射音の減衰が抑えられ、より響きの大きな音響効果を演出します。(通常は「3」を選びます)

WALL TYPE(ウォール タイプ) : 壁の材質を「1」から「5」の範囲で調節します。数値が大きくなるとより「堅い」壁による反射音の効果を演出します。(通常は「3」を選びます)

SEAT POSITION(シート ポジション) : 劇場での座席位置の前後を変更するように、お好みに合わせて「1」または「2」を選ぶことができます。

CENTER EQ(センター) : センタースピーカー音声の高音域をカットするとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

CENTER ALIGN(センター アライン) : センタースピーカー音声の上下の定位置を補正するとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

お買い上げ時は、次のように設定されています。

EFFECT LEVEL	: 3
ROOM SIZE	: 3
LIVENESS	: 3
WALL TYPE	: 3
SEAT POSITION	: 1
CENTER EQ	: OFF
CENTER ALIGN	: OFF

Information

- ヘッドホンモードのときは、調節できません。
- 調節内容は、DSPモードごとに記憶されます。

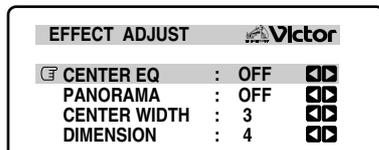
次ページに続く

アジャストメニューの詳細(つづき)

③ エフェクト設定(つづき)

● サラウンドモードが「 PRO LOGIC Ⅱ MUSIC(プロロジック2ミュージック)」のとき

EFFECT ADJUST		Victor
CENTER EQ	:	OFF
PANORAMA	:	OFF
CENTER WIDTH	:	3
DIMENSION	:	4

EFFCT ADJ -35.0dB

CENTER EQ(センター イコライザー) : センタースピーカー音声の高音域を調節するとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

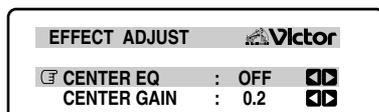
PANORAMA(パノラマ) : 「ON」のとき、音声が回り込んでくるような効果を強調します。

CENTER WIDTH(センター ウィドゥス) : センタースピーカー音声のひろがりの度合いを、「OFF」あるいは「1」から「7」の範囲で調節します。「OFF」または数字が小さいほど中央にまとまって聞こえます。

DIMENSION(ディメンション) : 音声の前後の定位置を「1」から「7」の範囲で調節します。数字が大きくなると、より前方に定位します。

お買い上げ時は、次のように設定されています。

CENTER EQ : OFF
CENTER ALIGN : OFF
CENTER WIDTH : 3
DIMENSION : 4

● サラウンドモードが「NEO:6 MUSIC(ネオ・シックス ミュージック)」のとき

EFFECT ADJUST		Victor
CENTER EQ	:	OFF
CENTER GAIN	:	0.2

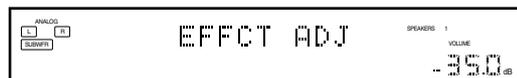
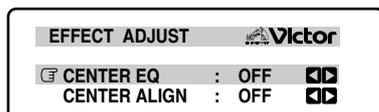
EFFCT ADJ -35.0dB

CENTER EQ(センター) : センタースピーカー音声の高音域をカットするとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

CENTER GAIN(センター ゲイン) : センタースピーカー音声の定位の度合いを、0.1単位で「0」から「0.5」の範囲で調節します。数字が大きくなるとより中央にまとまって聞こえます。

お買い上げ時は、次のように設定されています。

CENTER EQ : OFF
CENTER GAIN : 0.2

● その他のサラウンドモード(「ALL CH STEREO」はのぞく)、ソース(音源)がDVD MULTIまたはEXT 7.1CHでDSPモードを使っていないとき

EFFECT ADJUST		Victor
CENTER EQ	:	OFF
CENTER ALIGN	:	OFF

EFFCT ADJ -35.0dB

CENTER EQ(センター) : センタースピーカー音声の高音域をカットするとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

CENTER ALIGN(センター アライン) : センタースピーカー音声の上下の定位置を補正するとき、「ON」を選びます。(通常は「OFF」を選びます)

お買い上げ時は、次のように設定されています。

CENTER EQ : OFF
CENTER ALIGN : OFF

Information
・ 調節内容は、サラウンドごとには記憶されません。

AVシステムコントローラーで操作する

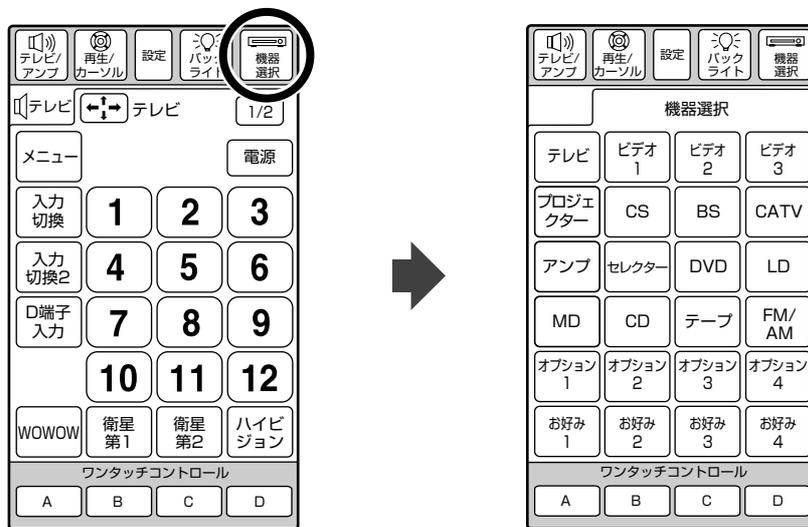
AVシステムコントローラーRM-A2500Xを使って、AX-V8000を操作することができます。
AVシステムコントローラーでは、他のAV機器の操作、一括登録操作などをタッチパネル上で手軽に行うことができます。
RM-A2500Xの準備や基本操作については、RM-A2500X付属の取扱説明書をご覧ください。

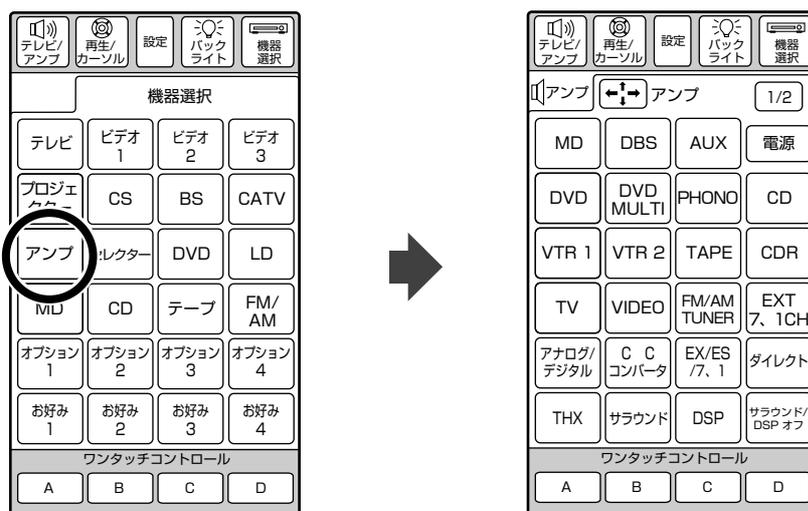
ご注意

RM-A2500Xの操作で「オールクリア」を実行すると、AX-V8000のためのプリセット(記憶)内容も消去されてしまいます。万一、消去してしまった場合は、日本ビクター株式会社 AV&マルチメディアカンパニー(電話:027-254-8952)にご相談ください。なお、プリセット内容の補償対象(再プリセット)は、AX-V8000の内容のみ(購入時の状態)で、お客様が入力した内容については補償いたしません。また、プリセット内容は、電池交換などで消えることはありません。

プリセット画面を呼び出す

1 RM-A2500Xの側面の電源ボタンを表示が現れるまで押す

2 機器選択ボタンを押して機器選択画面を表示させる

機器選択画面

3 アンプボタンを押してAX-V8000のプリセット画面を表示させる

AX-V8000の
プリセット画面(1ページ目)

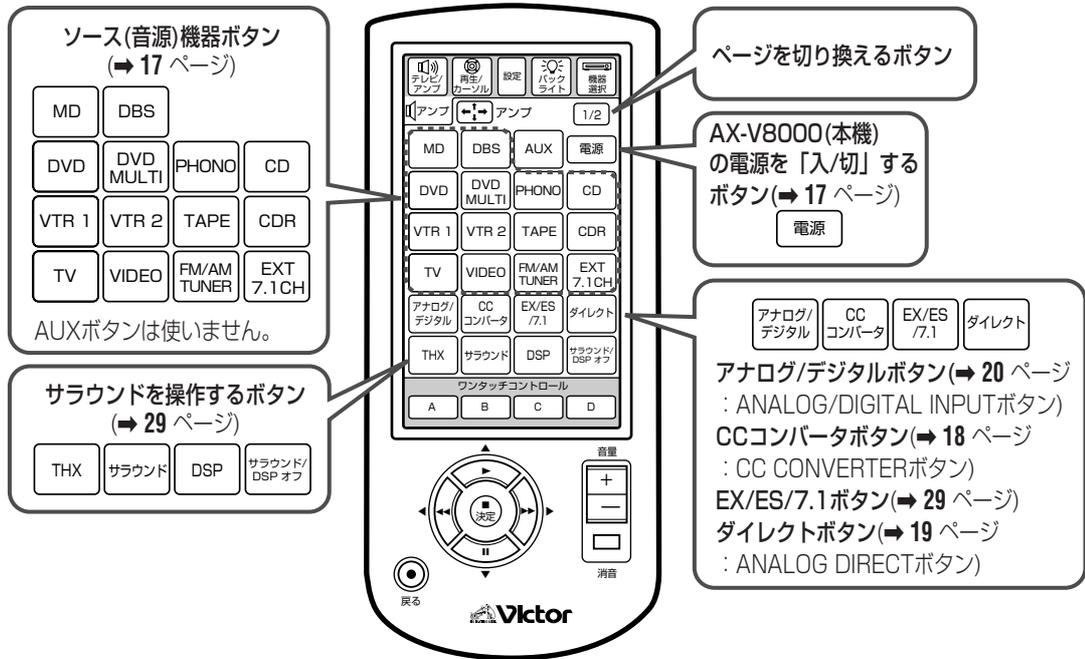
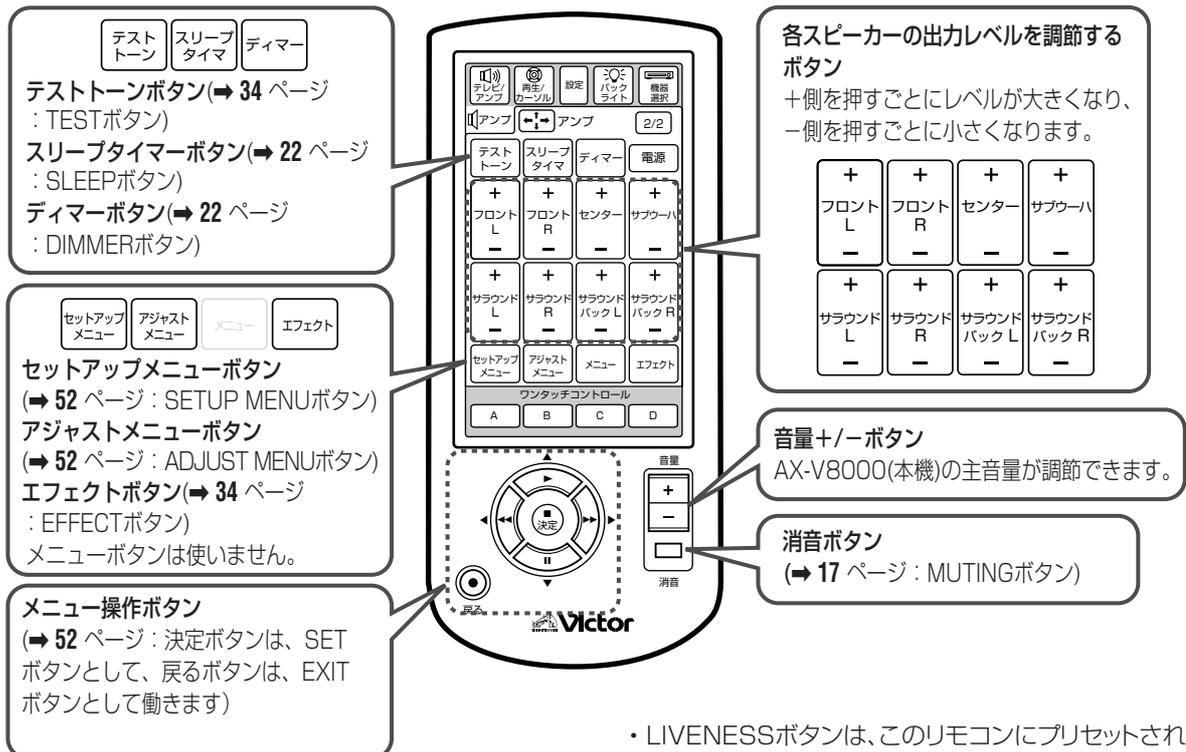
AVシステムコントローラーで操作する(つづき)

プリセットボタンを使う

AX-V8000用プリセットボタンは、2ページ分あります。ページを切り換えてお使いください。

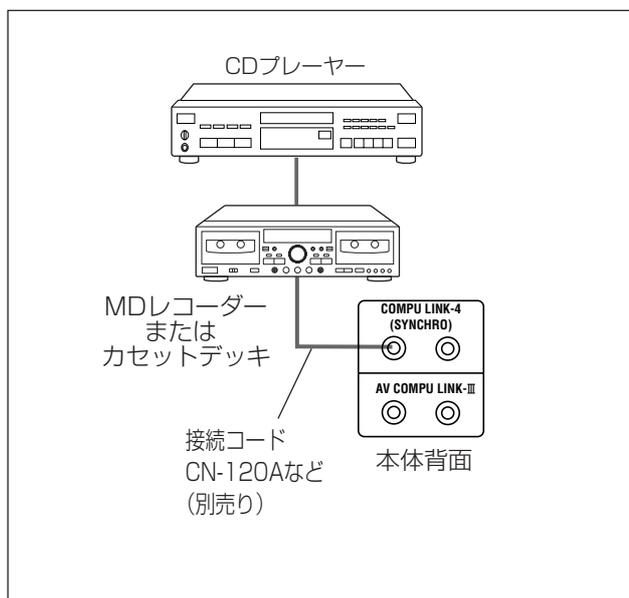
1ページ目

2ページ目

・LIVENESSボタンは、このリモコンにプリセットされていません。アジャストメニューで調節してください。

コンピュリンクリモートコントロールシステム

コンピュリンクの接続について

日本ビクター製機器の音声コードを接続したうえで、別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各オーディオ機器のCOMPULINK-3またはCOMPULINK-4（SYNCHRO）端子どうしを下の図のように接続してください。順番に決まりはありません。
COMPULINK端子がひとつしかない機器のときは、その機器が一番最後になるように接続してください（下図参照）。

・ **接続する前に、必ずすべての機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。**

Information

- COMPU LINK端子が2つあるときには、どちらを使っても接続できます。
- MDレコーダーまたはカセットデッキをコンピュリンクで操作するときは、表示窓に表示されるソース(音源)機器名を正しく登録してください。(➡ **21** ページ)
- 接続するオーディオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

コンピュリンクの機能について

■ コンピュリンク4の機能

コンピュリンク4は、コンピュリンク3にCDレコーダーのコードを追加したコンピュリンク機能です。
コンピュリンク4対応製品とそれ以前のバージョンの製品を接続して使用することもできますが、そのときは最新の機能に対応した動作はできません。

操作をする前に、オーディオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

■ リモコンによる一括操作

CDプレーヤーやMDレコーダー、カセットデッキなどのソース機器を本機のリモコンで操作することができます。
リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

■ 自動電源「入/切」

本機の電源を「入」にすると、そのとき選ばれているソース（音源）機器（CDプレーヤーやMDレコーダーなど）の電源も自動的に「入」になります。
また、本機の電源を「切」にすると、その他のオーディオ機器の電源も自動的に「切」になります。

■ 自動再生（イチ押し再生）

ソース機器（CDプレーヤーやMDレコーダーなど）で再生を始めると、本機の電源が「入」になり、そのソース（音源）が選ばれ、スピーカーから音声が出ます。
また、本機で再生するソース（音源）を選ぶと、そのソース（音源）機器の電源が自動的に「入」になり、再生が始まります（ディスクなどが入っている場合）。

■ シンクロ録音

ソース（音源）機器の再生に合わせて、録音機器で録音を自動的に始めることができます。

例: CDプレーヤーからMDレコーダーに録音するとき

1. CDプレーヤーにCDを入れる
2. MDレコーダーに録音用のMDを入れる
3. MDレコーダーのREC PAUSEを押す
4. CDプレーヤーで演奏を始める

本機で再生するソース（音源）が自動的にCDに切り換わり、MDレコーダー側で録音が始まります。

Information

- アナログ接続の場合は、シンクロ録音中にソース(音源)選択ボタンを押しても、録音されるソース(音源)は切り換りません。(REC SELECTOR機能 ➡ 23 ページ)
- シンクロ録音中に、接続している機器のいずれかの電源が切れると、コンピュリンクリモートコントロールシステムは正しく動作しないことがあります。このようなときは、最初からやり直してください。

その他の操作

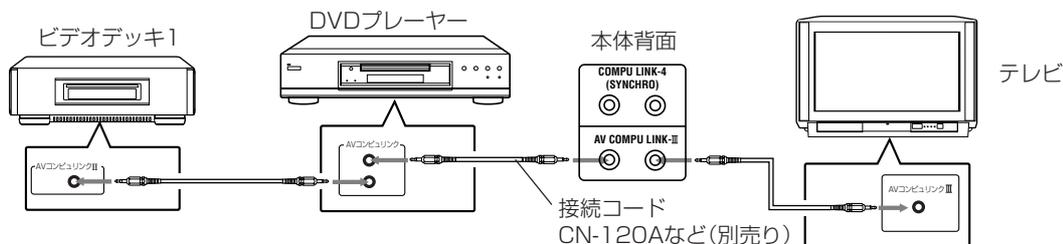
AVコンピュリンクリモートコントロールシステム

AVコンピュリンクの接続について

日本ビクター製の各機器を映像/音声コードで接続したあと、別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。
すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。

- **接続する前に、必ずすべての機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。**

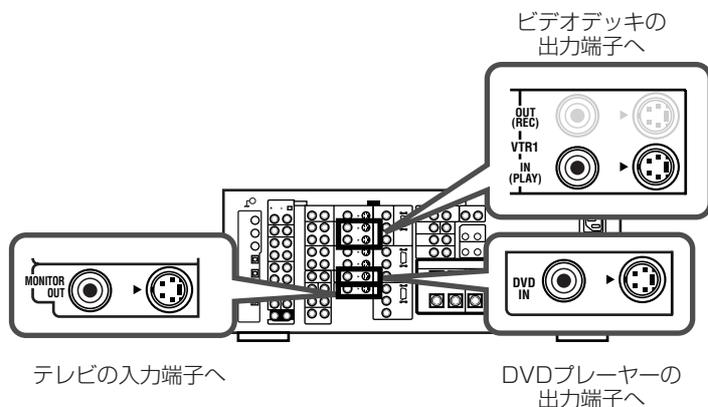
接続1：AVコンピュリンクケーブル接続

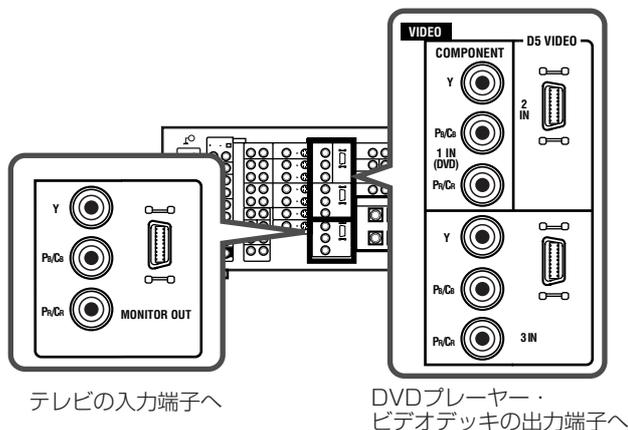
ビデオデッキ1
DVDプレーヤー
本体背面
テレビ
COMPU LINK-4 (SYNCHRO)
AV COMPU LINK-Ⅲ
AVコンピュリンクⅢ
AVコンピュリンク
接続コード
CN-120Aなど(別売り)

ご注意
AVコンピュリンクでは、TV SOUND/DBS IN端子、VIDEO端子、VTR 2 IN端子に接続しているビデオ機器を操作することはできません。

Information
- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- DVDプレーヤーのAVコンピュリンクコードは「DVD1」に設定してください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

接続2：ビデオケーブル接続

接続については、43～50ページをご覧ください。

ケース1 ビデオ機器にS映像端子または映像端子があるとき

Information
- ビデオのS映像端子を接続したときは、テレビ側の「ビデオ1S映像入力端子」に接続します。
- ビデオの映像端子を接続したときは、テレビ側の「ビデオ2映像入力端子」にも接続します。
- 本機のビデオ入力設定(➡ **61** ページ)で、DVD端子とVTR1端子を「S/C」に設定します。設定しないと、テレビの入力が適切に切り換わりません。(初期設定では、DVDは「COMPO1」(コンポーネントビデオ入力)に設定されています)

ケース2 ビデオ機器にコンポーネント映像端子またはD映像端子があるとき

Information
- テレビが「ビデオ3/DVD(コンポーネントまたはD映像)」入力端子を持っているときは、テレビの「ビデオ3/DVD」端子に接続します。
- 本機のビデオ入力設定(➡ **61** ページ)で、DVD端子とVTR1端子をどのコンポーネント(「COMPO1」「COMPO2」「COMPO3」)端子に接続したかの設定をします。設定しないと、テレビの入力が適切に切り換わりません。(初期設定では、VTR1は「S/C」(映像・S映像入力)に設定されています)
- 通常のS映像または映像端子で接続したビデオ機器がある場合は、S映像(ビデオ1入力)、映像(ビデオ2入力)も同時に接続してください。

AVコンピュリンクの機能について

■ DVDプレーヤーの自動再生

DVDプレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に「入」になり、ソース（音源）として「DVD」または「DVD MULTI」が選ばれます。
また、音声出力の設定ができるDVDプレーヤーでは、ステレオ再生（または2チャンネル再生）に設定されているときは「DVD」が選ばれます。5.1chのアナログマルチチャンネル音声に設定されているときは「DVD MULTI」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に「入」になり、テレビの入力は適切なビデオ入力に切り換わります。

■ テレビの自動入力切換

本機で選んだソース（音源）に合わせて、テレビの入力が自動的に切り換わります。

– S映像端子に接続しているときは、「ビデオ1」に切り換わります。
– 映像端子に接続しているときは、「ビデオ2」に切り換わります。(ただし、BSデコーダー入力として「ビデオ2」が使われているときは「ビデオ3」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
– D映像端子またはコンポーネント映像端子に接続しているときは、「ビデオ3」に切り換わります。(テレビ側が対応している場合)

- 本機で「TV/DBS」を選ぶと、ソース（音源）名を「TV」に設定しているときは自動的にテレビチューナーに切り換わります。

■ 自動電源「入/切」

テレビ、VTR1端子に接続されているビデオデッキ（ビデオデッキ1）、DVDプレーヤーの電源を、本機の電源に連動して「入/切」します。

本機の電源を「入」にすると:

- 前回選んだソース（音源）が「VTR1」の場合、テレビとビデオデッキ1の電源も自動的に「入」になります。
- 前回選んだソース（音源）が「VTR2」「VIDEO」、「TV/DBS」のとき、テレビの電源も自動的に「入」になります。
- 前回選んだソース（音源）が「DVD」、「DVD MULTI」のとき、テレビとDVDプレーヤーの電源も自動的に「入」になります。

本機の電源を「切」にすると:

テレビ、ビデオデッキ1、DVDプレーヤーの電源も自動的に「切」になります。

Information

- ビデオデッキ1で録画中に、本機の電源を「切」にしても、ビデオデッキ1では録画が続きます。
- 「TV/DBS」のソース(音源)名が「TV」になっているときは、TV/DBSボタンを押すと、AVコンピュリンクがテレビの入力を自動的に「テレビ」に切り換えるため、テレビ画面で本機のメニューを見ることはできません。
テレビの入力切換を本機からの出力(例えば、ビデオ2)に変えれば、メニューを見ることができます。
また、ソース(音源)名が「TV」のときは、映像をそのままに音声だけを切り換える機能(➡ **22** ページ)は「TV」入力に対して働きません。
- DVDプレーヤーとテレビが直接コンポーネント映像端子どうしで接続されていると、本機の映像(コンポジット)入力端子に接続している映像機器をソース(音源)として選んだ場合、テレビの自動入力切換は正常に動作しないことがあります。これは、テレビ側でコンポーネント映像入力が優先されるためです。
- BSチューナー内蔵のテレビを接続した場合、テレビの自動入力切換で「BS」に切り換わることはありません。
- AVコンピュリンクをお使いのときは、本機のビデオコンバート機能を使用できません。AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、ビデオ機器と本機を接続している端子と同じ種類の端子(映像またはS映像)を使って、本機とテレビを接続してください。

リモコンでビクター製のAV機器を操作する

本機には、AVシステムコントローラー（RM-A2500X）が付属しています。AVシステムコントローラーを使うと、本機の操作をはじめ、お手持ちのAV機器の操作を手軽に一括して行うことができます。
詳しくは、AVシステムコントローラー（RM-A2500X）の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器を操作する

本機のリモコン（RM-SAXV8000）で操作できるビクター製のオーディオ機器とその主な操作は、次の通りです。

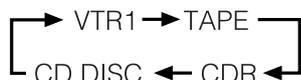
機器＼操作	電源「入/切」	再生/停止	選曲/選局	早送り/巻き戻し	一時停止	録音/録画	メニュー操作
オーディオ機器							
CDプレーヤー	–	○	○	–	○	–	–
CDレコーダー	–	○	○	–	○	○	–
MDレコーダー	–	○	○	–	○	○	–
カセットデッキ	–	○	–	○	○	○	–
チューナー	–	–	○	–	–	–	–
CDチェンジャー	–	○	○	–	○	–	–

- COMPU LINK-4(SYNCHRO)の接続をすると、リモコンのないチューナーやカセットデッキなども操作できます。（➡ **69** ページ）
- カセットデッキまたはMDレコーダーを操作する場合は、本体のTAPE/MDボタンの登録機器名を「TAPE」または「MD」に設定してください。（➡ **21** ページ）
- コンピュリンク接続した場合は、リモコンは**本機のリモコン受光部に向けて**操作してください。
- LEARN-TRANSMIT切換スイッチは、「TRANSMIT」側に切り換えてください。
- **接続したオーディオ機器の操作については、機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。**

1 操作したいオーディオ機器のソース（音源）選択ボタンを押す

本体のソース（音源）が切り換わり、操作できるオーディオ機器名がリモコン液晶表示窓に表示されます。

・CONTROLボタンをくり返し押して、操作したいオーディオ機器を選ぶこともできます。このときは、本体のソース（音源）を切り換えないで操作することができます。ボタンを押すごとに、リモコン液晶表示窓に次のように表示されます。

Information
- MDレコーダーを操作するときは、本体表示窓に「MD」と表示されていることを確認してください。リモコン液晶表示窓には「TAPE」と表示されます。

2 オーディオ機器を操作する

詳しくは、**73** ページをご覧ください。

Information
- CDレコーダーの録音開始後の操作は、CDレコーダー本体のボタンまたはCDレコーダーに付属するリモコンをお使いください。

トラックを選ぶ/プリセット選局をする

トラック、プリセット局を選ぶときは次のようにボタンを押します。

- 「5」を選ぶとき
  5
- 「15」を選ぶとき
  +10 ➡ 5
- 「25」を選ぶとき
  +10 ➡ +10 ➡ 5
- 「30」を選ぶとき
  +10 ➡ +10 ➡ 10

Information

- CDチェンジャーの操作で、トラックを選ぶときはCDボタンを押してから行います。ディスクを選ぶときは、CONTROLボタンで「CD DISC」を表示させてから行います。

リモコンでビクター製のAV機器を操作する(つづき)

ビデオ機器を操作する

本機のリモコンで操作できるビクター製のビデオ機器とその主な操作は、次の通りです。

機器＼操作	電源「入/切」	再生/停止	選曲/選局	早送り/巻き戻し	一時停止	録音/録画	メニュー操作
ビデオ機器							
DVDプレーヤー	○	○	○	–	○	–	○
テレビ	○	–	○	–	–	–	–
ビデオデッキ	○	○	○	○	○	○	–

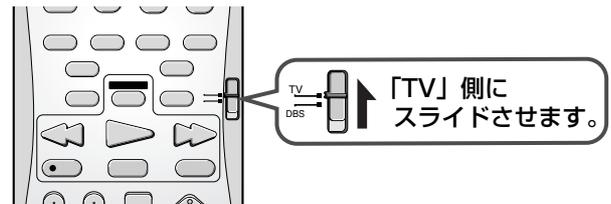
- ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。本機のリモコンを使って、お手持ちのビデオデッキをお使いになるには、VTR 1 IN入力端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にする必要があります。ビクター製の別のビデオデッキをお使いのときは、リモコンコードを「B」にしてください。(本機のリモコンはコード「B」には対応していません)
- リモコンは、**お使いになる機器のリモコン受光部に向けて**操作してください。
- LEARN-TRANSMIT切換スイッチは、「TRANSMIT」側に切り換えてください。
- **接続したビデオ機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。**

1 **ビデオ機器の電源を「入/切」する**

・テレビの操作をするときは、TV-DBS切換スイッチを「TV」側に切り換えてください。

2 **操作したいビデオ機器のソース(音源)選択ボタンを押す**

操作できるビデオ機器名が、リモコン液晶表示窓に表示されます。

・CONTROLボタンをくり返し押して、操作したいビデオ機器を選ぶこともできます。このときは、本体のソース(音源)を切り換えないで操作することができます。ボタンを押すごとに、リモコン液晶表示窓に次のように表示されます。

3 **ビデオ機器を操作する**

詳しくは、**75** ページをご覧ください。

Information

- DVDのメニュー操作については、DVDプレーヤーとDVDソフトの取扱説明書をご覧ください。

「TRANSMIT」側に切り換えます。

DVDプレーヤー、TV、ビデオデッキの電源が「入/切」できます。

ソース(音源)を切り換えることができます。

ソース(音源)を切り換えることができます。

ソース(音源)がDVDのとき：1〜10、＋10ボタンとして働きます。

ソース(音源)がTV、VTR1のとき：1〜12ボタンとして働きます。

ソース(音源)がDVDのとき：

ソース(音源)がVTR1のとき：

●RECとPLAYボタンを同時に押すと録画が始まります。
●RECとPAUSEボタンを同時に押すと録画一時停止になります。

ソース(音源)がTVのとき：音量調節、チャンネル切換、入力切換ができます。

ソース(音源)がVTR1のとき：チャンネル切換、入力切換ができます。

DVD MENUボタンを押すと、DVDのメニュー操作ができます。

ソース(音源)がDVD、DVD MULTIのとき

数字を選ぶときは次のようにボタンを押します。

・「5」を選ぶとき

・「15」を選ぶとき

・「25」を選ぶとき

・「30」を選ぶとき

ソース(音源)がTV、VTR1のとき

TVやビデオデッキのチャンネルを選ぶときは、次のようにボタンを押します。

12ボタン方式の場合

・「5」を選ぶとき

・「12」を選ぶとき

数字入力方式の場合

・「5」を選ぶとき

・「12」を選ぶとき

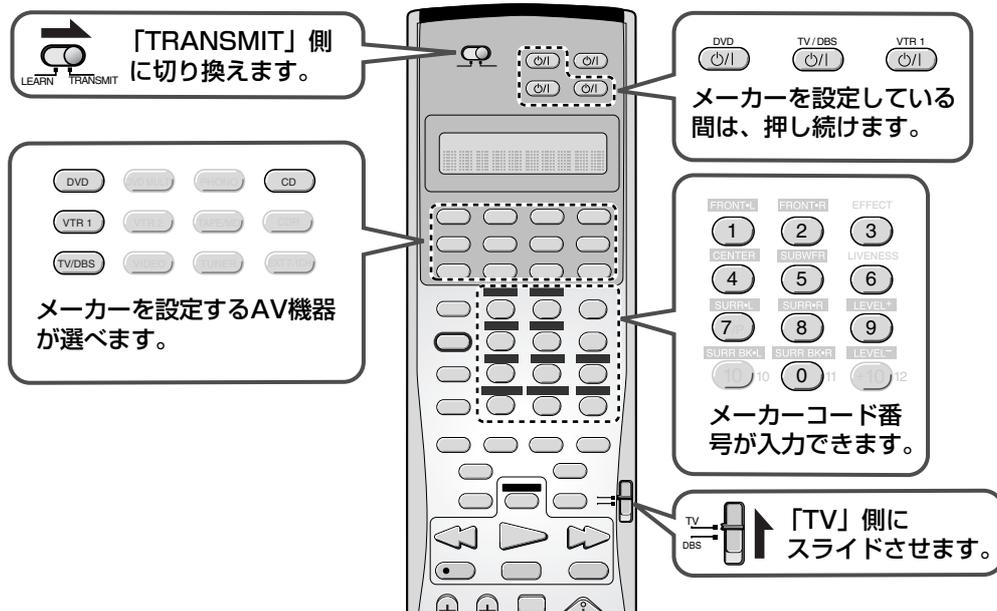
リモコンで他メーカーのAV機器を操作する

本機には、AVシステムコントローラー（RM-A2500X）が付属しています。AVシステムコントローラーを使うと、本機の操作をはじめ、お手持ちのAV機器の操作を手軽に一括して行うことができます。
詳しくは、AVシステムコントローラー（RM-A2500X）の取扱説明書をご覧ください。

本機のリモコン（RM-SAXV8000）で他メーカーのAV機器を操作する前に、メーカーコード番号の入力が必要になります。
操作できる他メーカーのAV機器とその主な操作は、次の通りです。

機器＼操作	電源「入/切」	再生/停止	選曲/選局	早送り/巻き戻し	一時停止	録音/録画	メニュー操作
ビデオ機器							
DVDプレーヤー	–	○	○	–	○	–	○
テレビ	○	–	○	–	–	–	–
ビデオデッキ	○	○	○	○	○	○	–
オーディオ機器							
CDプレーヤー	–	○	○	–	○	–	–

メーカーコード番号を入力しておこなう方法のほかに、他のAV機器のリモコンからボタンごとに学習（LEARN）させて行う方法があります。（➡ **79** ページ）

- リモコンは、**お使いになるAV機器のリモコン受光部に向けて**操作してください。
- LEARN-TRANSMIT切換スイッチは、「TRANSMIT」側に切り換えてください。
- 操作できないときは、もう一度正しくメーカーコード番号を入力してみてください。また、メーカーコードの表に複数の番号があるときは、すべての番号を試してみてください。
- **AV機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。**

メーカーコード番号の入力例

メーカーコードを入力するときは次のようにボタンを押します。

- 「05」を選ぶとき

  SURR BK•R 0 ➡ SUBWFR 5

- 「12」を選ぶとき

  FRONT•L 1 ➡ FRONT•R 2

DVDプレーヤーのメーカーを設定する

1 DVD ⏻/I ボタンを手順*3* の操作が終わるまで押し続ける

2 DVDボタンを押す

3 数字ボタン(1〜9、0)を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: 東芝「10」のとき 1 ➡ 0 と押します。

入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。

4 DVD ⏻/I ボタンを離す

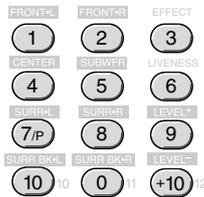
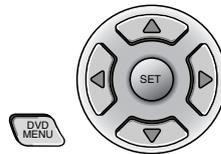
これで、設定ができました。

5 DVDプレーヤーを操作する

詳しくは、下図をご覧ください。

メーカーコード番号

日本ビクター	00、02
サムソン	08
ソニー	09
デノン	01
東芝	10
パイオニア	04、05、06
フィリップス	13
松下	03
ヤマハ	11、12

ディスクが操作できます。

チャプター/トラックが選べます。

DVD MENUボタンを押すと、DVDのメニュー操作ができます。

テレビのメーカーを設定する

1 TV-DBS切換スイッチを「TV」側に切り換える

2 TV/DBS ⏻/I ボタンを手順*4* の操作が終わるまで押し続ける

3 TV/DBSボタンを押す

4 数字ボタン(1〜9、0)を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: 日立「10」のとき 1 ➡ 0 と押します。

入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。

5 TV/DBS ⏻/I ボタンを離す

これで、設定ができました。

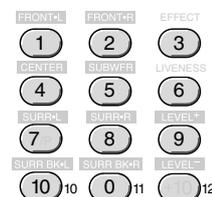
6 テレビを操作する

詳しくは、下図をご覧ください。

メーカーコード番号

日本ビクター	00、02、13、14、47、74
アイワ	82
NEC	83
サムソン	06、08、16、34、35、49
サンヨー	01、05、81
シャープ	37、38、77、88
ソニー	39、80
東芝	37、43、44、79
パイオニア	85
日立	08、09、10、49、78
フィリップス	15、17、28、75
富士通ゼネラル	84
フナイ	89、90
松下	24、25、26、27、76、86、87
三菱	08、18、19、20

TV/DBS ⏻/I 電源が「入/切」できます。

音量調節、チャンネル切換、入力切換ができます。

チャンネル切換ができます。CHANNEL＋/−ボタンでも切り換えることができます。

リモコンで他メーカーのAV機器を操作する(つづき)

ビデオデッキのメーカーを設定する

1 VTR 1 ⏻/I を手順*3*の操作が終わるまで押し続ける

2 VTR 1ボタンを押す

3 数字ボタン(1〜9、0)を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: 松下「19」のとき 1 ➡ 9 と押します。

入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。

4 VTR 1 ⏻/I ボタンを離す

これで、設定ができました。

5 ビデオデッキを操作する

詳しくは、下図をご覧ください。

メーカーコード番号

日本ビクター	00、26、27、28、29、58、83、84
アイワ	01、02、82
NEC	26、27
ゴールドスター	07
サムソン	45、47、59、61、62、63
サンヨー	03、48、49
シャープ	37、50、75
ソニー	52、53、54、68、69、70
東芝	43、44、71、72
パイオニア	73
日立	18、23、24、25、66、74
フィリップス	04、19、21、24、41、42
フナイ	01、76
松下	19、24、39、40、77、78、79
三菱	30、31、32、33、34、35、80、81

VTR 1 ⏻/I　電源が「入/切」できます。

テープが操作できます。

チャンネル切換ができます。CHANNEL＋/－ボタンでも切り換えることができます。

チャンネル切換、入力切換ができます。

CDプレーヤーのメーカーを設定する

1 AUDIO ⏻/I ボタンを手順*3*の操作が終わるまで押し続ける

2 CDボタンを押す

3 数字ボタン(1〜9、0)を押してメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: ソニー「53」のとき 5 ➡ 3 と押します。

入力した番号がリモコンの表示窓に表示されます。

4 AUDIO ⏻/I ボタンを離す

これで、設定ができました。

5 CDプレーヤーを操作する

詳しくは、下図をご覧ください。

メーカーコード番号

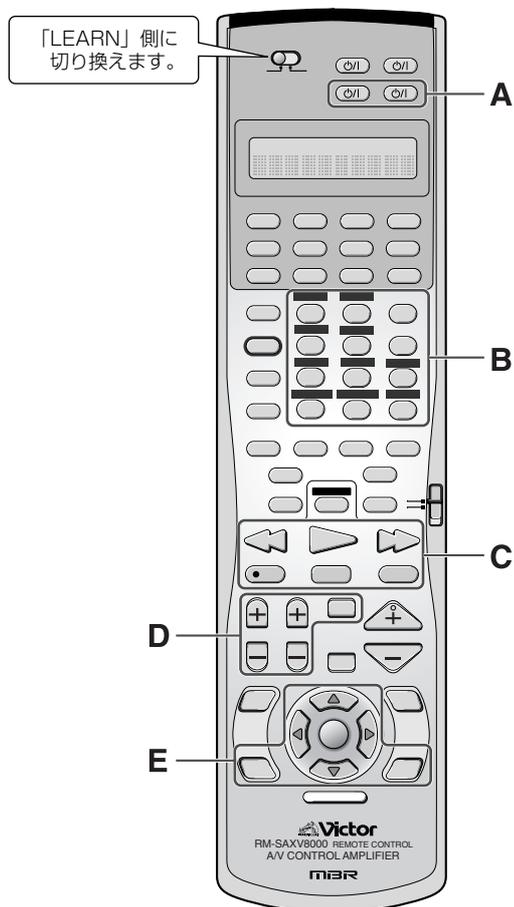
日本ビクター	06、07、08、09
オンキョー	18、19、20、21
ケンウッド	10、11、12、13、14
サンヨー	35
シャープ	36
ソニー	53
ティアック	37、38、39
デノン	01、02、03
パイオニア	30、31
フィリップス	25、26、27、28、29
松下(テクニクス)	40、41、42、43、45
松下(パナソニック)	22、23、24
マランツ	17
ヤマハ	46、47、48、49、50、51、52

ディスクが操作できます。

トラックが選べます。

リモコンの学習機能を使う

学習機能とは

本機のリモコン（RM-SAXV8000）のボタンに他メーカーのリモコンの信号を学習させて、他メーカーのAV機器を操作することができます。
ソース（音源）選択ボタンごとに異なる信号を学習させることができます。
学習させることのできるボタンは、次の通りです。

ソース ＼ ボタン	A	B	C	D	E
ビデオ機器					
DVD	–	○	● RECを除く	–	○
DVD MULTI	–	○	● RECを除く	–	○
VTR 1	VTR 1 ⏻/I	○	○	○	–
TV	TV/DBS ⏻/I	○	–	–	–
DBS	TV/DBS ⏻/I	○	–	–	–
オーディオ機器					
PHONO	–	–	PLAY、STOP	–	–
CD	–	○	● RECを除く	–	–
TAPE/MD	–	○	○	○	–
CDR	–	○	○	○	–
TUNER	–	○	⏮/REW、FF/⏭	–	–
CD DISC	–	○	● RECを除く	–	–

- TV-DBS切換スイッチが「TV」側のときと「DBS」側のときとで、それぞれ別の信号を学習させることができます。
- CDチェンジャー用のソース（音源）名を選びたいときは、CONTROLボタンをくり返し押して「CD DISC」を表示させます。
- 次のボタンは、ソース（音源）に関わらず、1種類の信号に限り学習させることができます。
  TV VOL+/−ボタン（D）、TV/VIDEOボタン（D）、
  メニュー操作ボタン（E）

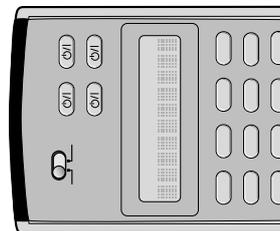
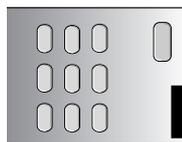
リモコンの学習機能を使う(つづき)

ボタンにリモコン信号を学習させる

ボタンへの学習を始める前に、他メーカーの機器のリモコン(以後、ターゲットリモコンと記載します)が機能していることを確認してください。

1 LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「LEARN」側に切り換える

2 2つのリモコンの送信部が向かい合わせになるように、水平に置く

2つのリモコンは5cm〜10cmの間隔に置きます。

3 ソース(音源)選択ボタンの1つを押す(VTR2、VIDEO、EXT 7.1CH以外のボタン)

選んだソース(音源)名と「LEARN」表示がリモコン液晶表示部に表示されます。

Information

- ターゲットリモコンの用途と同じ名前のソース(音源)選択ボタンを使うと便利です。

4 本機のリモコン側で、信号を学習させたいボタンを決めて押す

「LEARN」表示が点滅し始めます。

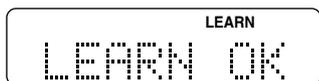
5 「LEARN」表示が点滅している間に、ターゲットリモコンのボタンを押す

ターゲットリモコンからの信号を正しく受信すると、リモコン液晶表示部に「LEARN OK」と表示され「LEARN」表示が点灯します。手順4で選んだボタンへの学習は完了しました。

LEARN

LEARN OK

Information

- ターゲットリモコンのボタンを押す前に「LEARN」表示が点滅から点灯に変わってしまったときは、手順4をやり直してください。
- リモコンの表示窓に「ERROR」と表示されたら、もう一度最初からやってみてください。
- ターゲットリモコンのボタンによっては、本機で学習できないこともあります。
- 学習機能は、元の信号を完全に記憶するわけではありません。そのため、学習に成功していても、本機のリモコンで他メーカーの機器を操作することができないときがあります。

6 同じソースの他のボタンに学習させたいときは手順*4*と手順*5*をくり返す

ちがうソースを選んで他のボタンに学習させたいときは、手順3から手順5までをくり返します。

7 LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「TRANSMIT」側に切り換えて学習を終了する

ご注意

リモコンの電池交換は、素早く行ってください。時間がたちすぎると学習内容が消えてしまうことがあります。学習内容が消えてしまったときには、もう一度学習をやり直してください。

学習したボタンを使う

リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
リモコンは受光部まで7m以内の範囲でお使いください。

1 LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「TRANSMIT」側に切り換える

2 ソース機器選択ボタンを押して(またはCONTROLボタンをくり返し押して)ソース(音源)を選ぶ

3 AV機器を操作する

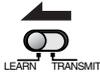
Information

- 次のボタンは、ソース(音源)に関わりなくいつも同じ働きをします。
  VTR 1 ⏻/I、TV VOL+/–、TV/VIDEO、DVD MENU
- SET、EXIT、▲ / ▼ / ◄ / ►ボタンは、DVD MENUボタンを押した後に使えるようになります。

学習した内容を消去する

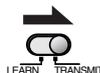
学習した内容を消去すると、リモコンのボタンはもとに戻り、日本ビクター製の機器を操作することができるようになります。

- 消去は、ソース機器選択ボタンごとに割り当てた、すべての学習内容が一括して消去されます。

1 LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「LEARN」側に切り換える

2 EXITを押しながら、学習した内容を消去させたいソース(音源)選択ボタンを押す

「CLEAR」と表示されて、選んだソース(音源)選択ボタンごとに学習した内容が消去されます。

・ソース「CD DISC」で学習した内容を消去するには、はじめにCONTROLボタンをくり返し押して「CD DISC」を選び、次に、EXITボタンを押しながらCONTROLボタンを押します。

3 LEARN-TRANSMIT切換スイッチを「TRANSMIT」側に切り換えて学習した内容の消去を終了する

故障かな？と思う前に ―修理に出す前にもう一度お確かめください。―

■電源について		参照ページ
・本機の電源が「入」にならない	➡ 電源プラグをコンセントに差し込む。	10、50
	➡ 保護回路が働いている。電源プラグをコンセントから抜き、再び差し込む。	10、50
・「OVERLOAD」が表示窓で点滅する	➡ スピーカーまたはアンプに過負荷がかかっている。本機と再生機器の電源を「切」にし、スピーカーの接続を確かめる。	38、39
■スピーカーについて		
・フロントスピーカーから音が聞こえない	➡ MUTINGを解除する。	17
	➡ 主音量を調節する。	16、17
	➡ どちらかのフロントスピーカーを「入」にする。	18
	➡ ソース(音源)機器を正しく選ぶ。	16、17
	➡ アナログ/デジタル音声を正しく選択する。	20
	➡ フロントスピーカーの接続、ソース機器の接続を確認する。	38～50
・フロントスピーカーの右または左の音が聞こえない	➡ 左右のフロントスピーカーの出力レベルを調節する。	56
・2組目のフロントスピーカーが「入」にならない	➡ BI-AMP(バイアンプ)を使わない設定にする。	62
・サブウーハーから音が聞こえない、または音が小さい。	➡ サブウーハー側の電源を「入」にする。	
	➡ サブウーハー側の出力レベルを調節する。	
	➡ サブウーハーを正しく接続する。	38
	➡ サブウーハーのスピーカー設定を「YES」にする。	55
	➡ クロスオーバーの設定を大きくする。	55
	➡ バスピークレベルの設定を調節する。	58
・センタースピーカー、サラウンドスピーカーから音が出ない。	➡ サラウンドを「入」にする。	29
	➡ 再生機器やソフトの取扱説明書で、音声チャンネル数を確認する。	
	➡ 各スピーカーのスピーカー設定を「LARGE」または「SMALL」にする。	55
	➡ 各スピーカーの出力レベルを大きくする。	56
	➡ 各スピーカーの接続を確認する。	38、39
	➡ 再生機器と本機の接続を確認する。	40～50
・サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	➡ サラウンドを「入」にし、適切なサラウンドモードを選ぶ。	29～33
	➡ BI-AMP(バイアンプ)を使わない設定にする。	62
	➡ サラウンドバックスピーカーのスピーカー設定を「LARGE」または「SMALL」にする。	55
・ノイズが聞こえる	➡ スピーカーや各機器の接続を確認する。	38～50
	➡ テレビや蛍光灯などを再生機器や接続コードから離す。	
	➡ 接続端子の汚れを乾いた布などで落とす。	
	➡ EXT 7.1CH入力をお使いのときは、映像信号コードなどを使って映像端子も接続してください。	

■音声について		参照ページ
・デジタル音声が選べない	➡ デジタル端子設定を正しく設定する。	60
■映像について		
・映像が映らない	➡ テレビ側で正しい入力チャンネルを選ぶ。 ➡ ソース(音源)機器を正しく選ぶ。 ➡ ビデオ回路電源設定を「ON」にする ➡ ソース(音源)機器と本機の接続を確認する。 ➡ 接続コードの種類を確認する。 ➡ メニュー画面表示設定(スーパーインポーズ)を「ON」にする。	 16、17 62 43〜50 35、36 62
■サラウンドについて		
・7.1chサラウンドが選べない	➡ スピーカー設定を確認する。 ➡ SURR BACK OUT設定を「2SPK」にする。 ➡ EX/ES/7.1設定を「ON」または「AUTO」にする。 ➡ 再生中のソフトを確認し、再生機器側で適切な音声信号を選ぶ。	55 55 29 24〜27
・各スピーカーの音量のバランスが悪い	➡ 各スピーカーの出力レベルを調節する	56
・Dolby DigitalやDTSなどの音声が聞こえてこない。	➡ デジタル接続を確認する。 ➡ デジタル端子の設定をする。 ➡ ソース(音源)選択ボタンの登録名称を変更する ➡ アナログ/デジタル音声を正しく選択する。	40〜50 60 21 20
■リモコンについて		
・操作ができない	➡ 本機のリモコン受光部に向け操作する。 ➡ リモコンのLEARN-TRANSMIT切換スイッチを「TRANSMIT」に切り換える。 ➡ リモコンの電池を交換する。	50 17 50
・他の機器の操作ができない	➡ リモコン受光部に向け操作する。 ➡ 操作したい機器のソース(音源)選択ボタンを押してから、操作する。	72、74、76 17
・他のメーカーの機器が操作できない	➡ メーカーコード番号を正しく入力する。	77、78
・異なる動作をする	➡ 操作したい機器のソース(音源)選択ボタンを押してから、操作する。 ➡ リモコンの電池を交換する。	17 50
・学習機能がうまく働かない	➡ TV-DBS切換スイッチ、LEARN-TRANSMIT切換スイッチを正しく切り換える。 ➡ ターゲットリモコンの動作を確認する。 ➡ 学習できるボタンを確認する。	79 80 79

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

82、**83**ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	AVコントロールアンプ
型名	AX-V8000
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

別売りのオプション品

- ホームシアターDDスピーカーシステム ： SX-XD303
- パワードサブウーハー ： SX-DW303
  ： SX-DW7
- スピーカーシステム （フロント用） ： SX-LT55
  （サラウンド用） ： SX-L3
  （センター用） ： SX-LC3
- 同軸デジタルコード（ピンプラグ） ： CN-D110E (1m)
- 光デジタルケーブル ： XN-110SA (1m)
- RCAピンプラグコード ： CN-510E (1m)
- 5.1ch用音声コード ： CN-D210E (1m)
- 接続コード（ミニプラグ:コンピュリンク、AVコンピュリンク用） ： CN-120A (1.5m)
- ビデオコード ： VX-110E (1m)
- S映像コード ： VC-S110E (1m)
- コンポーネント映像コード ： VX-D110E (1m)
- D映像接続コード（Dプラグ～Dプラグ） ： VX-DS110 (1m)

■ 別売りのオプション品はお買い上げの販売店でお求めください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154)24-0797	085-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)673-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	310-8528	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
	土浦 S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(04)7175-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
東海・北陸				
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31中田ビル１Ｆ
	沼津 S.S.	(055)922-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211
近畿				
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.C.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072)254-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
中国				
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084)931-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	周南市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852)31-8900	690-0825	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
四国				
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄				
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	870-0822	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0703

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様 — 本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。—

JEITAは電子情報技術産業協会に定められた測定方法による数値です。

項目		仕様
定格出力 ステレオ時(JEITA) (ANALOG DIRECT時)	フロント出力	150W+150W(6Ω、20Hz～20kHz、0.03% THD)
定格出力 サラウンド時(JEITA) (ANALOG DIRECT時)	フロント出力	150W+150W(6Ω、20Hz～20kHz、0.03% THD)
	センター出力	150W(6Ω、20Hz～20kHz、0.03% THD)
	サラウンド出力	150W+150W(6Ω、20Hz～20kHz、0.03% THD)
	サラウンドバック出力	150W+150W(6Ω、20Hz～20kHz、0.03% THD)
全高調波ひずみ率(JEITA)		0.03%(6Ω、20Hz～20kHz)
音声入力端子		入力感度/インピーダンス
(アナログ入力)	PHONO IN(MM)	2.5mV/47kΩ
	PHONO IN(MC)	0.25mV/100Ω
	DVD IN、DVD MULTI、CD IN、CDR IN、TAPE/MD IN、VTR1 IN、VTR2 IN、TV/DBS IN、TUNER IN、EXT 7.1CH IN、VIDEO	200mV/47kΩ
(デジタル入力)	同軸 DIGITAL IN 1(DVD)、2(CD)、3(TV/DBS)	0.5V(p-p)/75Ω
	光 DIGITAL IN 4(CDR)、5(MD)、6(VTR1)、VIDEO	−21dBm ～ −15dBm (サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)
音声出力端子		
(アナログ出力)	PREOUT	1V
録音出力端子		
(アナログ出力)	CDR OUT、TAPE/MD OUT、VTR1 OUT、VTR2 OUT	200mV
デジタル出力端子	光 DIGITAL OUT	−21dBm ～−15dBm(信号波長: 660nm)
S/N比(音声)(JEITA) (ANALOG DIRECT時)	PHONO(MC)	65dB
	PHONO(MM)	77dB
	DVD、DVD MULTI、CD、CDR、TAPE/MD、VTR1、VTR2、TV/DBS、TUNER、EXT 7.1CH、VIDEO	80dB
周波数特性	PHONO	20Hz～20kHz (±1dB)
	DVD、DVD MULTI、CD、CDR、TAPE/MD、VTR1、VTR2、TV/DBS、TUNER、EXT 7.1CH、VIDEO	10Hz～100kHz (＋1dB、−3dB)
RIAA フォノイコライザー偏差		±1.0dB(20Hz～20kHz)
映像入力端子		
コンポジット映像:		入力感度/インピーダンス
	DVD IN、VTR1 IN、VTR2 IN、TV/DBS IN、VIDEO	1V(p-p)/75Ω、同期負
S2映像:	DVD IN、VTR1 IN、VTR2 IN、TV/DBS IN、VIDEO	Y　: 1V(p-p)/75Ω C　: 0.286V(p-p)/75Ω
コンポーネント映像:	COMPONENT 1 IN(DVD)、COMPONENT 3 IN	Y　: 1V(p-p)/75Ω P_B/C_B、P_R/C_R　: 0.7V(p-p)/75Ω
D5映像:	D5 VIDEO 2 IN、D5 VIDEO 3 IN	Y　: 1V(p-p)/75Ω P_B/C_B、P_R/C_R　: 0.7V(p-p)/75Ω
映像出力端子		出力レベル/インピーダンス
コンポジット映像:	VTR1 OUT、VTR2 OUT、MONITOR OUT	1V(p-p)/75Ω、同期負
S2映像:	VTR1 OUT、VTR2 OUT、MONITOR OUT	Y　: 1V(p-p)/75Ω C　: 0.286V(p-p)/75Ω
コンポーネント映像:	MONITOR OUT	Y　: 1V(p-p)/75Ω P_B/C_B、P_R/C_R　: 0.7V(p-p)/75Ω
D5映像:	MONITOR OUT	Y　: 1V(p-p)/75Ω P_B/C_B、P_R/C_R　: 0.7V(p-p)/75Ω
	S/N比(映像)	45dB
一般		
	電源	AC 100V、50Hz/60Hz共用
	消費電力	電源「入」時　490W 「切(待機状態)」時　1.7W
	最大外形寸法	幅 445mm x 高さ177mm x 奥行 475mm
	質量	25 kg

付属品は**2**ページをご覧ください。

用語索引

あ行	ページ

か行	ページ

さ行	ページ

た行	ページ

な行	ページ

は行	ページ

ま行	ページ

ら行	ページ

わ行	ページ

数字・アルファベット・記号など	ページ

AX-V8000　AVコントロールアンプ　取扱説明書

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

より詳しい技術的なお問い合わせ、ご相談は

「スーパー・ハイファイ・オーディオ相談室」TEL 046-278-1818へ

〈受付時間：毎週火曜日、木曜日の正午〜PM4:00 （ただし当社所定の休日は除きます）〉

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
85ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120－2828－17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

AV & マルチメディアカンパニー

〒221-8528　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0203NHMMDWJEIN